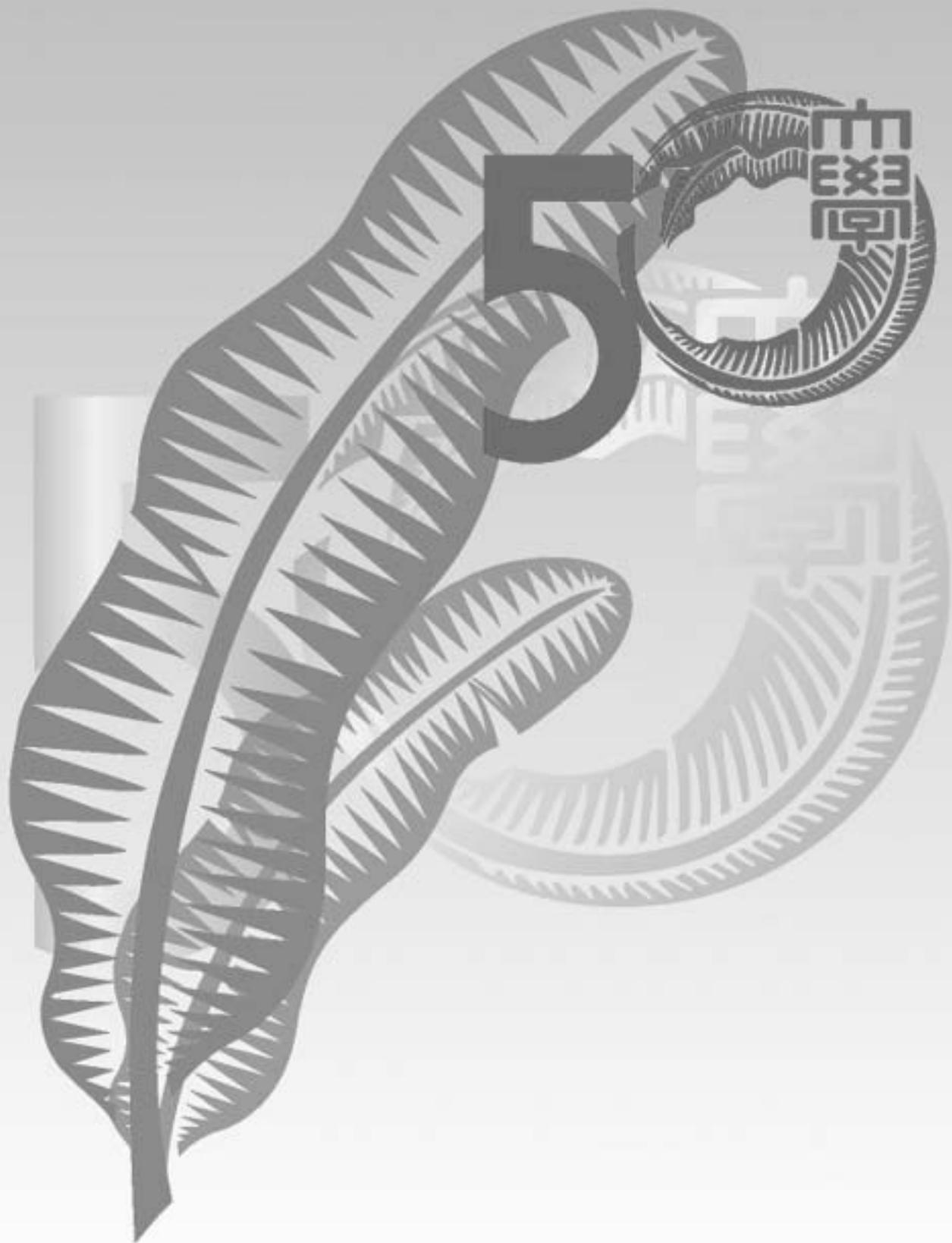


資料編





琉球大学

VOL.1

同窓会 会報

創刊号

平成元年3月1日



1950年5月の開学と同時に使用されたガスボンベの時鐘。旧キャンパスから首里の杜に移設。たたずむ中国の留学生

- 発刊にあたって
- 発刊を祝す
- 同窓会便り
- 同窓生活動あれこれ
- あの時、あの師、あの友
- 同窓会の歩み
- 役員紹介

〈題字、岸本一夫〉

発刊にあたって

琉球大学同窓会会長
大城盛三



長い間の懸案でありました、琉球大学同窓会会報の創刊号を発行できましたことは、三万同窓とともに慶びに耐えません。

これも偏えに、同窓会役員・事務局・玉稿をお寄せくださいました同窓各位、広告の協賛各社のご協力のたまものと厚く、お礼申し上げます。

この会報の目的は、会務報告をはじめ、琉大の近況、卒業生の活躍状況をお知らせするとともに在学中の思い出などエッセーを幅広く掲載し、同窓各位間の絆をより一層強いものにすることができればと期待しております。

この会報が三万同窓のよりよき情報交換の場となり、琉大同窓会の発展と同窓各位のご健勝ご活躍の一助になれば幸いに存じます。

今後とも、みなさまのご協力をお願い申し上げ、発刊のごあいさつと致します。

発刊を祝す

琉球大学長
東江康治



琉球大学同窓会会報の発刊おめでとうございます。

本学は、戦後の荒廃の中から誕生し、まもなく40周年を迎えようとしています。卒業生も27,000名余にのほり、教育界をはじめ、社会の各分野で活躍されていますことは喜ばしい限りであります。

琉球大学も、首里キャンパスと与儀キャンパスから広大な千原・上原の両キャンパスに移転し、教育研究施設の整備を行い、特色ある大学の基盤を確立しつつあります。これもひとえに、同窓会の御協力の賜と感謝しております。また、同窓会には、移転統合整備事業、琉球大学の歌制定、新キャンパスにおける首里の杜建設など、いろいろと御協力いただいているところであります。

このたび、同窓会の会報が発刊されますことは、同窓会の発展はもとより、後輩の育成、大学の発展に大きく貢献するものと期待しております。

同窓会のますますの御発展を祈念し、ごあいさつと致します。

出でよ 国際人

和 気 政 雄

和気政雄さん（65）は、琉大第1回卒業生、二代目学生会長、初代同窓会長と琉大との関わりは深く、その功績も大きい。

那覇市久米町の出身だが、台湾生れの台湾育ち、戦前の台北帝大予科（文科、独文）を卒業、戦後の21年12月、沖縄に帰った。

「そのころはあちらこちらに遺骨が残っていて沖縄戦の状況がうかがい知れた。海岸には艦船や手榴弾などの残骸も多くあった」という。和気さんは、当時、佐敷町馬天にあったバックナービル（米軍住宅地）の図書館司書、A J（建設会社）の事務、また、民政府警察部に籍を置き、前原署（現在の具志川署）で米人を担当する通訳官の仕事を1年ほど、やったこともあった。

昭和25年、琉大開学と同時に向学心押えがたく、入学した。しかし期待とは裏腹に当初は、机もろくになく、図書館も“米軍払い下げ”の米文書がほとんどだった。「そんな状態だったので、大学改革運動が学生側から起こった。大学らしくしようというもので、ほんとに切実な要求だった」と振り返る和気さん。3年次に学生会長を務め、学生の立場から大学改革に力を入れた。

「当時の学生は、寮に入っている人が多く、特に照明には苦勞させられた。20ワットほどの明るさしかない電灯、それが夜の9時ごろまでしかつかえな



同窓会の組織強化を計りたいと話す和気さん。

い。多くの学生が空き缶を利用して作ったランプを使用した。翌朝起きると鼻の穴は真っ黒になっていた。またコンセット造りの建物はよく雨もれもしていた」

恩師に2代目学長の呉屋朝賞氏（故人）、照屋彰義氏（故人）、平良文太郎氏がいる。「新聞社説の英訳、シェークスピアの書き取りなど、かなりハードに勉強させられた」。

卒業後は那覇高校教員を皮切りに教員生活へ。美里工業高校長を最後に昭和57年3月定年退職した。現在、沖縄県語学センター所長。

最後に同窓会顧問の立場から「琉大も開学してから、そろそろ40年になる。これまで以上に各界での活躍を期待したい。特に国際人になる人が多く出るようになればと思う。また同窓会が将来社団法人になり、組織が強化されるよう望んでいる。」

役員紹介

役員（会長・副会長・評議員・監査員の任期 昭和63年7月1日～平成2年6月30日）

役職	氏名	卒業		
		回数	年(昭和)	学 科
会 長	大 城 盛 三	2	29	英 文
副 会 長	石 原 昌 弘	1	28	教 育
〃	新 川 豊	2	29	英 文
〃	金 城 名 輝	7	34	経 済

評議員

役職	氏名	卒業		
		回数	年(昭和)	学 科
評 議 員	勝 重 蔵	1	28	教 育
〃	又 吉 慶 次	1	28	教 育
〃	西 銘 正 雄	2	29	社 会
〃	松 原 清 吉	2	29	国 文
〃	宮 平 進	2	29	英 文
〃	森 田 恒 勝	2	29	社 会
〃	知 念 績 一	3	30	生 物
〃	宮 国 義 夫	3	30	政治学及び法学
〃	吉 謝 環 幸	4	31	畜 産
〃	新 里 邦 明	4	31	農 学
〃	津 留 健 二	4	31	政治学及び法学
〃	宮 平 洋	4	31	政治学及び法学
〃	安 里 祥 徳	5	32	英 文
〃	我 那 覇 隆 士	5	32	初 等 教 育
〃	宮 保 美 恵 子	5	32	家 政
〃	田 場 盛 雄	5	32	初 等 教 育
〃	中 野 清 光	5	32	政治学及び法学

役職	氏名	卒業		
		回数	年(昭和)	学 科
〃	吉 浜 南	5	32	英 文
〃	花 城 健 治	6	33	生 物
〃	伊 志 嶺 恵 徹	7	34	法 政
〃	名 嘉 啓 行	7	34	経 済
〃	仲 村 実 彦	7	34	経 済
〃	比 嘉 清 一	7	34	経 済
〃	赤 嶺 健 治	8	35	英 文
〃	上 原 政 英	8	35	畜 産
〃	嘉 手 珂 喜 郎	8	35	初 等 教 育
〃	下 地 良 男	8	35	英 文
〃	高 江 洲 重 一	8	35	林 学
〃	松 本 行 雄	8	35	商 学
〃	喜 屋 武 盛 基	9	37	電 気 工 学
〃	仲 宗 根 弘 明	9	36	初 等 教 育
〃	宮 城 武 久	9	36	電 気 工 学
〃	神 山 泰 治	10	37	美 術 工 芸
〃	金 城 幸 秀	10	38	農 学
〃	仲 宗 根 幸 男	11	38	生 物
〃	砂 川 栄 右	12	40	法 政
〃	玉 城 真 幸	12	39	社 会
〃	伊 波 修	14	42	商 学
〃	儀 保 博 信	14	41	社 会
〃	竹 越 堅 哲	14	41	法 政
〃	砂 川 寛 昭	16	44	法 政
〃	高 嶺 善 包	17	45	商 学
〃	松 川 洋 明	19	46	法 政
〃	新 里 紹 純	19	46	土 木 工 学
〃	高 嶺 善 伸	21	48	商 学
〃	大 城 勝	22	49	保 健
〃	新 城 修	26	53	土 木 工 学
〃	上 原 修	31	58	社 会

監査員

役 職	氏 名	卒 業		
		回	年(昭和)	学 科
監 査 員	名渡山 愛 文	7	34	音 楽
〃	中 里 治 男	8	35	数 学
〃	山 城 喜 文	14	41	商 学

顧 問

役 職	氏 名	卒 業		
		回	年(昭和)	学 科
顧 問	和 気 政 雄	1	28	英 文
〃	富 永 元 順	2	29	政 治
〃	市 村 嘉 久	2	29	政 治
〃	安次富 長 昭	2	29	美 術 工 芸

支部長

役 職	氏 名	卒 業		
		回	年(昭和)	学 科
関東支部長	船 越 尚 美	2	29	社 会
奄美支部長	治 井 文 茂	2	29	社 会
浦添支部長	松 川 洋 明	19	46	法 政
宮古支部長	松 原 清 吉	2	29	国 文

事務局役員

役 職	氏 名	卒 業		
		回	年(昭和)	学 科
事務局長	又 吉 慶 次	1	28	教 育
事務局次長	砂 川 栄 右	12	40	法 政
総務部長	儀 保 博 信	14	41	社 会
企画部長	金 城 幸 秀	10	38	農 学
会 計 長	国 吉 真 勝	17	44	法 政
幹 事 (企画担当)	垣 花 勝 行	19	46	法 政
幹 事 (総務担当)	仲 本 盛 浩	32	59	農 芸 化 学
幹 事 (会計担当)	田 仲 康 克	32	59	経 済



琉球大学

NO.2

同窓会 会報

平成元年12月1日



Mr. Hotoku Ishikawa, second from right, who is President of the Ryukyu Fire Insurance Company and Chairman of the Okinawa Baseball Association, appears pleased with the fine uniforms which his company presented to the University of Ryukyus baseball team. University President Genshu Asato, right, looks on approvingly. Mr. Ishikawa is well known as a baseball booster and for his keen interest in Ryukyuan-American friendship activities. (CIAM, USCAR Photo)

一枚の
写真から

写真の琉球火災海上保険会社が琉球大学野球部に贈ったユニフォームを見て、高校の同窓会や沖縄野球連盟会長の石川達彦氏(右から二人目)仰いで見ている人(右端)は琉球大学長の中里源次氏。石川氏は野球協賛者として有名で、人であり又琉球親善の諸活動に多大の功績を立寄せている。

(資料提供 ● 琉球大学、関連P 5)

同窓会支部便り

関東支部

国吉真正（監査員）

同窓会会報の創刊号を楽しく読ませていただきました。思い出のお話、エッセー等たいへんすばらしい内容だと思います。心から喜んでおります。同窓各位間の絆を強くするのに一つの良い方法だと思いますので是非継続発行されるようお願いいたします。

いま関東支部では船越支部長をはじめ熱心な先輩がたのご支援で、およそ3ヶ月に1回の割で役員会（時々有志のかたも出席します）を持っております。

話題は学生時代の思い出話、名簿作成について、関東支部のありかた、会員相互の親睦等話はいつも夢があって楽しいものです。そして沖縄の文化論にまで発展することもあります。役員会は開放的で役員にこだわらず、同窓会員であれば誰もが参加できるようにしております。今後は若い層の人達の参加を期待しております。

また現在支部会員の名簿作成について第1版をさらに充実させて第2版の発行準備を進めております。

今回の目標は500名の会員を集めることにしております。会員各位の情報提供を心からお願いしたいと思っております。

昭和36年（第9回）電気工学科卒業

勤務先 日本アイ・ピー・エム㈱

東日本第2技術本部

電話 03-400-2561

現住所 ㊟215 川崎市麻生区下麻生678-19

電話 044-988-8065

宮古支部

宮古支部は昭和60年の支部結成以来、毎年の総会には、母校より講師をお招きし講演会を持っている。本年2月18日の総会には、教育学部教授尚弘子先生による「アメリカの学生生活の変遷」と題する講演がなされた。

また、本部から石原昌弘副会長と垣花勝行事務局幹事が参加した。懇親会では、新しく制作された琉大紹介の映画も上映され、盛会であった。



盛会であった宮古支部の総会

「奄美支部」結成の報告 治井文茂（支部長）

奄美支部の結成については、富永前会長や松村前琉大事務局長から、幾度となく大学や同窓会の現況などの紹介をいただき、10年来の懸案となっていました。

昭和63年1月30日、東江学長、松村事務局長、金城事務局員、大城副会長、勝評議員のご臨席のもと、140余名の会員の参加を得て、支部結成大会を開催することができました。

奄美の場合、開学初期の学生は、日本復帰により128名の在学生の殆んどが本土の大学への転学を余儀なくされ、琉大分校の学生も、教員養成所ならびに鹿大に転籍となり、そのために奄美出身者は琉大に入学し、他の大学の卒業生となったわけで、同窓会員についても「琉大に在籍した者」ということで、奄美在住者に限らず、奄美出身者450余名をもって、組織することにしました。

奄美の日本復帰後、20年近く「奄美と琉大」の関係は中断されたが、沖縄の日本復帰により、50年代以降は、奄美出身者も、年毎に増えて来ました。建学40周年記念の年を間近にして、この機に大学や同窓の仲間と絆を持つことの意義は大きく、また、同窓会支部として、組織的に貢献できればと考え支部結成をすることにしました。

会員資格などは特異ではありますが、大学ならびに同窓各位の温かなご交誼をお願いします。

昭和29年（第2回）社会学科卒業

勤務先 鹿児島県立奄美高等学校

電話 0997-52-6121

現住所 ☎894 鹿児島県名瀬市長浜町12-19
電話 0997-52-0355

〈関西〉支部結成へ動き出す

去る7月14日、大阪キタの曾根崎“格子茶屋”にて、同窓会関西支部設立についての懇親会が持たれ、関西支部設立準備委員長に松村圭三氏（1期英文学科、元琉大事務局長、現財団法人日本国際教育協会関西留学生会館長）が決まった。

当日集まった同窓の面々は松村氏の外に次のとおりであった。初対面が多かったにもかかわらず百年の知己の如く会は盛り上がった。

関西には多くの同窓生が活躍しているので、強力な同窓会支部の誕生が期待されている。

- 成田義光（2期英文学科、関西学院大学教授）
- 米田 實（3期理学部3年修了、早大卒、近畿公安調査局総務課長）
- 寿賀和秀（4期社会学科2年修了、和歌山大卒高槻市議員）



写真左から前列宮城進、寿賀和秀、松村圭三（琉球大学関西支部設立準備委員長）、又吉慶次、成田義光、後列金城勲、米田實、山城賢孝、伊波利弘の各氏。

- 山城賢孝（5期教育学科、大阪国際旅行サービス㈱取締役・相談役「万葉を歩く会」主宰）
- 宮城 進（15期社会学科、沖縄県大阪事務所業

務課長）

- 金城 勲（15期法政学科、沖縄県大阪事務所主幹）
- 伊波利弘（27期経済学科、社団法人沖縄県物産振興会大阪支所長）
- 又吉慶次（1期教育学科、同窓会事務局長）

那覇市役所支部の結成

11月15日午後6時半より、自治会館1階大ホールにおいて、琉大同窓会那覇市役所支部の結成総会並びに懇親会が盛大に行われた。当夜は、東江会長の代理として砂川恵伸法文学部長が出席し、祝辞を述べた。同窓会本部からは又吉事務局長が出席した。



自治会館での結成大会

那覇市役所には600名に近い同窓生が公僕として活躍しており、大城同窓会長、宮平同窓会評議員もその一員である。現時点では、最大数の会員を擁する支部である。

支部役員

- 顧問 大城 盛三（助役）、宮平 洋（収入役）
- 支部長 長堂 嘉夫（教育委員会管理部長）
- 副支部長 野原広太郎（保健衛生部次長）
- 事務局長 新垣 一男（企画部企画調整室技幹）
- 事務次長 津嘉山信男（企画部広報課長）
- 他に幹事9名が各職場から選ばれた。

経験を生かし、 仕事に専念

富永元順（公証人）



琉大OBで第1号の法曹資格取得、裁判官、地方裁判所裁判長、公証人という輝かしい実績を持つのがこの人、富永元順さんだ。

富永さんは、琉大が開学した昭和25年に社会学部法政学科に入学した。当時のことについて富永さんは「図書館やその他の施設、スタッフなどが十分整っていない状況下にあった。しかし、志喜屋図書館では学生たちが奪い合うように本を読んでいた。また、先生方は年齢的に若く、学生と一緒に研究をするといった雰囲気だった」という。

在学中はほかに学生会の総務部長や副会長も経験、サークル活動への予算配分や企画などにもかかわった。

学問と学生会活動に打ち込んだ学生生活を締めくくる卒業式で、「二代目学長の胡屋朝賞氏(故人)が、学問を極めることに終わりはない、という意

味で使った COMMENCEMENT (始まり、学位授与式、卒業式などの意) という言葉が深く印象に残っている」と富永さんは振り返る。

昭和29年、大学卒業と同時に裁判所調査官に。このあと琉球弁護士資格を取得。昭和33年の名護治安裁判所判事を皮切りに地裁、高裁、家裁での判事生活に入った。東京地裁、福岡地裁、熊本地裁、横浜家裁などでは裁判長を勤めたほどだ。

裁判官時代の一番の思い出は、1965年(昭和40年)の佐藤栄作元総理来沖に伴う“デモ隊不解散罪裁判”だという。

同年8月19日、沖縄県祖国復帰協議会主催の沖縄返還要求県民大会が那覇高校で開かれた。その後、決議文を総理大臣に手渡すため参加者は1号線(現在の国道58号線)をデモ行進して、宿泊先のホテルへ向かった。すでにホテルを出て高等弁務官主催のレセプションに出席していた総理大臣

は、デモ隊の状況を知り、その後ホテルに戻らず米軍基地内の宿泊施設に宿泊した。

デモ隊の一部は翌20日の午前2時半ごろまでホテル近くの空地などで待機。このため那覇警察署は、布令144号2・2・34条に基づき解散を命令。解散に従わなかった16人を不解散罪で逮捕し、このうち5人を送検した。

ところが、当時、沖縄における基本法の大統領行政命令12節には「民主主義国家の人民が……(中略)。基本的自由を保障しなければならない」とうたわれていた。富永さんは当時の裁判長である。



1951年5月2日。初代学長志喜屋孝信先生を囲む琉大井論部の面々。本土留学する部員の送別会(志喜屋先生の官舎にて……先生は教官宿舎を学生たちに開放しておられた)。

この行政命令に照らして、布令144号2・2・34条を解釈すると、「いかなる場合に解散命令を発することが許されるのか、その規則の要件に関してなら規定していない」という問題点が浮かび上がってくる。

富永さんは結局、4年後の判決で「不解散罪の

ニュース
メモ
②

同窓会終身会費

平成元年度定期総会において、これまでの同窓会費「年額千円」を改正し、「終身会費1万円」とした。(ただし、平成元年度以降の入会者については当分の間徴収を保留)

これまでの会費「年額千円」は徴収方法など実情に合わない点があることから、ここ数年来、評議員会や総会において論議されてきた問題であった。

……当分の間、徴収を保留するとの但し書きを入れたのは、昭和63年度定期総会において、昭和64年4月1日からの入会金をこれまでの千円から1万円に改正したのを考慮してのことである。

なお、終身会費の本格的な徴収は琉大開学40周年記念事業募金の募金期間が終る平成2年9月30日以降に行うこととなった。

成立する余地はない」という無罪判決を被告5人全員に言い渡した。この判決は米国政権下にある中、「勇気ある判決」といわれた。富永さんはその時の裁判がとても印象に残るといふ。富永さんはのち「ブルービーチ事件」や「旭ヶ丘女性殺害事件」など、世間を騒がせた裁判にもかかわった。

現在は公証人として仕事に励む。公証人は最高裁が推せんし、法務大臣が任命するもので、沖縄にはわずか4人しかいない。遺言状作成などいろんな面で、のちに問題が起きないように公正証書をつくる仕事である。富永さんは、ただひたすら、これまでの経験を生かし、仕事に専念したいと張り切っている。

(文責・上原 修)



琉球大学

NO.3

同窓会 会報

平成2年3月20日



国際交流会館 ● 関連P 7

目次

■ご卒業・ご入学を祝う.....	1	■サークル紹介.....	7
■顧問訪問③.....	2	■ニューヨークからの手紙.....	9
■同窓会便り・事務局から.....	3	■トピック①.....	11
■同窓会支部便り.....	3	■トピック②.....	12
■同窓生活動あれこれ.....	4	■あとがき.....	14
■あの時・あの師・あの友.....	5		

BOYS BE AMBITIOUS

市村 嘉久 (弁護士)



2月9日、鹿児島県名瀬市に同窓会顧問の市村嘉久(第3代目会長)さんをお尋ねした。

折りしも衆議院議員選挙の真只中、選挙戦の激しさではつとに知られる奄美群島区。定数1に対し、保革三つ巴の選挙戦となっているが、選挙の話になると市村さんの目が変わる。「学生時代の血が騒ぐんですよ」と、当時をふり返る。

「奄美からは150人位が琉大に入学したと思うが、僕は琉大の前身とも言える沖縄外語からの入学でした。沖縄外語の頃は、学生会長をやっていたので全琉高校生大会を開いて大学の必要性を訴え、資金カンパをして、米国琉球軍政本部のミード教務部長に届けて大学設置を要請した。このことが琉大開学のきっかけになったのではないかと今でも自負している。

1950年、琉大開学と同時に1期生で入学した。入学式は土間に新聞紙を敷いただけの会場というおそまつなものだった。

入学早々、学生服や角帽を内地から調達するために奔走したり、大学改革運動にも積極的に関わる傍、「法学研究所」のサークル活動にも一生けん命だった。

1953年、奄美諸島の本土復帰が決まり、奄美分校は閉鎖され、一部学生は鹿児島大学他に引継がれることになったが、市村さんら4年生だけは残った。

市村さんは、琉大を卒業すると京都の立命館大学修士課程に進んだ。「京都の2年間は寝ても起きてても法律の原書と首っぴきで良く勉強した」と言う。

京都から、また沖縄に戻り、琉大学生部、研究普及部を経て、琉球政府法務局に勤める。

1959年の国際大学設立に参画、教務部長となり、憲法を教えた。

1964年に退職し、宜野湾市内に法律事務所を開き、弁護士活動を続け、現在は名瀬市に活動の拠点を移している。

市村さんの同窓会活動は特筆される。1972年、沖縄の本土復帰が実現し、琉大は国立大学へ移管された。5月17日、この過渡期に市村さんは第3代目会長に就任、以来12年間の長きにわたって、同窓会活動の陣頭指揮にあたった。会長時代に最も印象に残ることは、との問いに「琉大開学30周年事業に関わったこと、同窓生名簿『学友』を発行したこと」ときっぱり、資金ゼロの同窓会活動はなみたいではなかったと言う。

最後に、後輩に望むことは、「Boys be Ambitious 古いかも知れないが、進取の気性でつつ走って欲しい」と結んだ。

昭和29年(第2回)政治学科卒

住所 名瀬市大熊714-14 電話 0997-53-4111



仲良く余興を楽しんでいる若い会員たち



家政学科の1期生の皆さん
(昭和26~27年頃)



琉球大学

NO. 4

同窓会 会報

平成2年11月1日



写真は1960年頃の琉球大学記念運動場南側に建っていた屋内体育実習場の体操部の練習風景である。実習場は全長50M位、巾10M位の赤瓦屋根で、 $\frac{1}{2}$ は柔剣道、ダンス、 $\frac{1}{2}$ は徒手、器械で使用していた。体育館が県内に1校（那覇商業高校）しかなかったころで、多くの体育専攻学生が実技学習に励んだ思い出の場所である。これでも当時は最高学府の施設設備であった。

場所的には夏でも涼しく、昼間はケラマ諸島を、夜は那覇市のすばらしい夜景がながめられた。又特大の蚊がいて服の上からでも刺された。水道施設がなく大きな急須をもって毎日何回も竜樋に水汲みに行った。また、トイレもなく、寮や上の校舎までよく走った。

平行棒は倒立をすると天井に足がつくので、低く調整して使い、吊環は天井を開いて屋根近くに設置した。

琉大体操部は県体協主催の体育祭、又独自の計画で全島各地をまわって普及活動につとめた。

写真の人物は吊環→屋比久正、鞍馬→喜屋武正男、平行棒→本村三男

左から美里泰雄、大城正周、長浜宗賢、富永登、平良勉

(第9回昭和36年体育科卒 屋比久正 西原高等学校 電話09894-5-5418 写真提供琉球大学)

世界のウチナンチュ大会に参加した

同窓生を囲む座談会



▲左から大城盛三同窓会長(司会)、ルイス高江洲佳代子さん、比嘉照行さん、山口栄鉄さん

日時 平成2年(1990年)8月20日(月)11:00~13:00

場所 沖縄レイナーホテル(県庁前)

主催 琉球大学同窓会

司会 琉大の同窓生は現在、約三万人います。それをまとめる同窓会は、三年ほど前に組織を強化しており、琉大内に事務局も設置しています。そして、

大学への協力、お互いの親ほく、帰属意識を高めるために会誌を発行するようになっています。そこで今回は、外国で活躍されているみなさんに、いろいろなことを語ってもらい、これから海外に出て頑張りたいという同窓生たちの参考にさせていただきたいと思います。まず、海外で生活するようになったからの苦労話や失敗談などをお聞かせ下さい。

山口さん 私はアメリカに住むようになって足かけ27年になりますが、一世という感覚が身にしみている、何十年たってもふるさとで学んできたこと、生活してきたことを振り切ることができないですね。これからもおそらくそうだと思います。ところが娘たちは私と違って、百パーセントアメリカ人になりきっているわけです。娘たちは完全なアメリカ人だと自分自身で思い、たまたま父が遠い所からアメリカに移ってきたというような感覚なのです。私も初めの十年くらいは、いずれネイティブになれると楽観していましたが、先ほども申し上げましたように、何十年たってもふるさととは振り切れないですね。



私が米留グループの一人としてアメリカに渡ったのは1963年でして、もちろん民間機ではなく、嘉手納飛行場からの軍用機でした。カリフォルニアに到着してハイウェイを車で走って行ったんですが、さすがにアメリカに来たなあという感じでして、日本車を探すのに2、30分もかかりました。今でこそ、日本の成長ぶりがアメリカにいても分かるんですが、当時は留学生はだれ一人として免許は持っていませんでしたね。

比嘉さん その当時でしたら、琉大の教授クラスでも一人二人くらいしか車は持っていなかったんじゃないですか。

高江洲さん 最初の5年くらいはつらかったですね。人間関係もなく、教育的なバックグラウンドもまったくない。いわばゼロからのスタートでした。自分自身、幼稚園生になったつもりで一生懸命やりましたね。何年か過ごしているうちに運がよかったことは、結婚した相手が生活的にも精神的にも安定していたことでした。渡米から6年ほどして沖縄に行っ

出席者プロフィール

山口栄鉄

- ・第9回昭和36年(1961年)英文学科卒
- ・エール大学東アジア言語学科主任講師
- ・国際琉球研究協会幹事

ルイス高江洲佳代子

- ・第14回昭和41年(1966年)初等教育科卒
- ・ジョージア州ディキャブ郡公立校高等部日本語教師
- ・ジョージア州沖縄県人会副会長

比嘉照行

- ・第15回昭和42年(1967年)英文学科卒
- ・NYナッソー・コミュニティ・カレッジ体育学部非常勤教授
- ・ニューヨーク沖縄県人会会長

たんですが、あー、私はアメリカ人なんだなあー、と思いました。

でもそれはまったくのアメリカ人になれたというわけではありません。私は20年目で落ちついてきたという気持ちになり、アメリカ人としてやっていけるんだと思うようになったのです。

比嘉さん 海外に行った人たちは、だいたい苦労はするものですが、私も表現できないほどの苦労をしました。それが渡米2日目からいきなりあったわけですね。空手のスポンサーとして一緒にやっていきましようという人が、口だけとは知らずにだまされて、ほっぽり出されてしまいました。その時の苦労は今では笑って語れますが、アメリカ人に対しての不信感や自分自身に対する劣等感も交じって、とに



かくみじめな思いで数年間過ごしました。

しかし今考えれば、当初から苦勞したからいろいろな知恵が出てきたのではないかと思います。逆に最初から道場あり、スポンサーありの順風満帆な生活を送ってあとに、何かのきっかけでつまづいていたとしたら、今のように強い男ではいられなかったのではないかと思います。そうこうと過ごしているうちに画期的なチャンスにも巡り合えました。88年にレーガン大統領が辞められる半年ほど前に、ホワイトハウスでのアジアの州の宣言式典で、私も招待されました。

いろいろな苦勞を重ねてきて成就できたことだと思って自負していますよ。

司会 まあ、いろいろありますね。今度も似たような質問になりますが、生活には明るい面と暗い面がありますが、今後同窓生の人たちが海外ではばたくに際して、予備知識として何かありませんか。

山口さん 私の最初の留学の場合は、陸軍省からの援助があり、2カ年間は生活面では大きな苦勞はありませんでした。もちろんアカデミックな面での苦勞はしましたがね。そして2年間がすぎたが、ここでアメリカを離れるのはもったいないと思い、ニュージャージー州のプリンストン大学へ行きました。

そこではもう陸軍省の援助はなく、自分の力でやっというと思いました。大学では講座を与えられ、学費を稼ぐことができました。私は現在、エール大学にいますが、楽しいことと言えば、図書館に日本関係の図書が多いということです。日本にないものもあるんです。それらは関東大震災や第二次世界大戦で消失したようです。日本の研究者がアメリカに来て、あー、これは自分が15年も探し続けていた



本だ、などと喜ぶこともあります。

沖縄、琉球関係の本で英文、欧文書かれたものも多く、みんなで共同してやっても、あと30年分くらいの量があります。そういう面では同窓生で関心のある人は、声をかけてほしいですね。どこにどういった本があるというのはある程度助言できますからね。

高江洲さん 日本からくる若い人たちは確かにいろいろな面で苦勞していると思います。まずビザの問題があります。ビザを取るためのいろいろな書類をきちんとそろえることです。それからある程度のお金も必要です。それから、何の目的で外国に行くのかということをはっきりさせておくことが大事です。

そして、英語などそれぞれの国の言葉がある程度話せるようになっていくかどうかも大切なことです。それから体力もつけることです。若い人たちの中には無目的で外国に渡る人たちもいますね。せいぜい2年くらいは生活できるように基礎をつくってほしいですね。

比嘉さん 私がアメリカでまず、楽しく暮らしているということをひしひし実感したことは、ズバリ言って、先ごろ県内でやった空手のショーが大成功をおさめたということにつながっています。空手演武あり、ダンスあり、ジャズありの破天荒な空手ショーで、国内、県内ではこれまでまったくやられたことがなく、観客の人から評判でした。

これが自分にとって大きな自信となりましたね。それができたというのは、私がアメリカにいて長年苦悩、葛藤しながら生きてきたたまものだと思う。外から沖縄の状況を客観的に見ることができ、ただ昔ながらに伝統的なことを続けていけばいいということだけではいけないということを学んだのです。



ある意味ではへんちくりんなショーでしたが、それを可能にしたのはアメリカの土壌だったんですね。出る杭は打たれる式の風土では、ああいうショーはできません。アメリカにおいては、自分は琉球の文化を紹介しているんだという自負心があり、今では優越感に浸っています。

山口さん 高度な文化、深い文化などというのは必ずしも島の大きさと関係ないですよ。むしろ文化の広さ、深さというのは、私の考えでは島の大きさと反比例するんじゃないかと思います。ギリシャ文明の発祥地でもクレタ島という小さな島でした。インカ文明でもマヤ文明でもそうだと思います。ですから沖縄も可能性を持った土地だと思うんですよ。

比嘉さん 私はアメリカに来てから大陸的な大らかさを身につけたわけです。

沖縄人のいいところと言えば、肝心(チムグクル)の深さですよ。義理、人情を重んじること。ニューヨークで県人会ができたのは、沖縄県人会が初めてで、最近になってあちこちの県人会がつくられるようになっていきます。この結束力というのは素晴らしいと思います。ここまでは良い点なんですけど、悪い点と言えば、自己主張ができないということです。これは日本人全体に言えることですがね。例えば昔のウチナーンチュだったら、人にだまされた場合は、「シムサナー、グマトーケー」などと泣き寝入りするんですね。それがウチナーンチュの自己主張のない悪い点です。今から海外に出る若い人たちは、へたな英語でもいいから、どんどん自己主張すべきです。

高江洲さん 日本はこれまで、経済的には世界をリードしていますが、文化的に個人個人が外国の人とコミュニケーションできない。沖縄もそうですが、文化を海外に伝える力がないんです。それを今後どうしたらいいか、真剣に考えてみてはどうかと思

います。

比嘉さん ちょっと話は戻りますが、ウチナーンチュの悪い面は礼儀を尽くさないことです。例えば私は、いろんな友人たちの近況を知りたいためにカレンダーなどをつくって送ります。200枚くらいつくって送るのですが、お礼がくるのはたったの10枚なんですね。毎年同じような状況ですね。つまり、けじめがないんです。外国に暮らす人にとっては手紙はうれしいですよ。

司会 本日はありがとうございました。皆さんの益々のご活躍をお祈りします。

民間大使に選ばれた2人の同窓生

「世界のウチナーンチュ大会」で、同窓生から2人の民間大使が認証されました。



宮城 滋

昭和29(1954)年、農学部を卒業し、昭和33年にブラジルへ渡って農業に従事。現在は花卉生産者中央会理事として活動。本県とは、サンパウロ州花卉生産者協会中央会代議員、アルジャー文化協会会計理事としてオリオンビール社の花の国際交流事業に協力。国頭村出身。58歳。



パーマー・平良恵子

昭和40(1965)年、初等教育学科を卒業。米国人の夫と結婚後、渡米。現在、ジョージア州アトランタ市公立小学校で教師として勤務。教職の傍ら、ジョージア州県人会(会員約100名)の第3代会長として、リーダーシップを発揮している。国頭村出身。二男の母。

役員紹介

会長・副会長

(会長・副会長・評議員・監査員の任期 平成2年7月1日～平成4年6月30日)

役職	氏名	卒業		
		回数	年度	学 科
会長	大城盛三	2	29	英 文
副会長	石原昌弘	1	28	教 育
〃	森田恒勝	2	29	社 会
〃	比嘉正幸	5	32	政治学及び法学科
〃	宜保美恵子	5	32	家 政
〃	金城名輝	7	34	経 済

評議員

評議員	氏名	回数	年度	学 科
〃	又吉慶次	1	28	教 育
〃	新川 豊	2	29	英 文
〃	西銘正雄	2	29	社 会
〃	松原清吉	2	29	国 文
〃	宮平 進	2	29	英 文
〃	知念績一	3	30	生 物
〃	宮国義夫	3	30	政治学及び法学科
〃	平良善一	3	30	英 文
〃	古謝瑞幸	4	31	畜 産
〃	新里邦明	4	31	農 学
〃	津留健二	4	31	政治学及び法学科
〃	宮平 洋	4	31	政治学及び法学科
〃	玉城 勲	4	31	社会学科及び経済学科
〃	安里祥徳	5	32	英 文
〃	田場盛雄	5	32	初 等 教 育
〃	中野清光	5	32	政治学及び法学科
〃	花城健治	6	33	生 物
〃	高山朝光	6	33	社会学科及び経済学科

評議員	伊志嶺 惠 徹	7	34	法 政
〃	名 嘉 啓 行	7	34	経 済
〃	比 嘉 清 一	7	34	経 済
〃	岸 本 金 三	7	34	経 済
〃	赤 嶺 健 治	8	35	英 文
〃	上 原 政 英	8	35	畜 産
〃	嘉手苺 喜 郎	8	35	初 等 教 育
〃	下 地 良 男	8	35	英 文
〃	前 新 正 太 郎	8	35	林 学
〃	松 本 行 雄	8	35	商 学
〃	喜屋武 盛 基	9	36	電 気 工 学
〃	仲宗根 弘 明	9	36	初 等 教 育
〃	宮 城 武 久	9	36	電 気 工 学
〃	神 山 泰 治	10	37	美 術 工 芸
〃	金 城 幸 秀	10	37	農 学
〃	仲宗根 幸 男	11	38	生 物
〃	砂 川 栄 右	12	39	法 政
〃	玉 城 真 幸	12	39	社 会
〃	牧 志 洋 子	13	40	家 政
〃	伊 波 修	14	41	商 学
〃	儀 保 博 信	14	41	社 会
〃	竹 越 整 哲	14	41	法 政
〃	安 里 久 信	14	41	経 済
〃	狩 俣 信 子	15	42	法 政
〃	砂 川 寛 昭	16	43	法 政
〃	高 嶺 善 包	17	44	商 学
〃	末 吉 洋 子	18	45	家 政
〃	松 川 洋 明	19	46	法 政
〃	高 嶺 善 伸	21	48	商 学

評議員	宮城重二	21	48	保	健
//	新城修	26	53	土	木
//	上原修	31	58	社	会

監査員

監査員	島袋常隆	9	36	商	学
//	八幡繁信	10	37	経	济
//	山城喜文	14	41	商	学

顧問

顧問	和気政雄	1	28	英	文
//	富永元嗣	2	29	政	治
//	市村嘉久	2	29	政	治
//	安次富長昭	2	29	美	術

支部長

関東支部長	船越尚美	2	29	社	会
関西支部長	松村圭三	1	28	英	文
奄美支部長	治井文茂	2	29	社	会
沖縄支部長	松川洋明	19	46	法	政
那覇市役所支部長	長堂嘉夫	11	38	土	木
宮古支部長	嵩原安雄	3	30	教	育
八重山支部長	伊舎堂用八	10	37	史	学

事務局役員

事務局長	平良善一	3	30	英	文
事務局次長	砂川栄右	12	40	法	政
総務部長	儀保博信	14	41	社	会
企画部長	金城幸秀	10	38	農	学
会計長	国吉真勝	17	44	法	政
幹事	垣花勝行	19	46	法	政
//	仲本盛浩	32	59	農	化
//	田中康克	32	59	経	济



琉球大学

NO.5

同窓会会報

平成3年3月15日



琉球大学付属図書館 (左奥は理学部ビル、右奥は教養部ビル、手前は「首里の杜」)

首里キャンパスのころと同じく今も「志喜屋記念図書館」という呼称が継承されています。今では蔵書も約70万冊に達し、多くの教職員、学生に利用されており、卒業生も利用できます。

平日… 8時30分から21時まで 土曜日… 8時30分から17時まで。

ただし、休暇中の平日は17時まで、土曜日は12時までです。

目次

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| ■ご卒業・ご入学を祝う…………… 1 | ■あの時・あの師・あの友…………… 8・9 |
| ■同窓会だより・事務局から…………… 2 | ■会長・副会長・事務局長あいさつ …… 10・11 |
| ■同窓会支部だより…………… 3 | ■県の新出納長にきく …… 12 |
| ■投稿・退官教官…………… 4 | ■サークル紹介…………… 13・14 |
| ■シリーズ職場訪問…………… 5・6・7 | ■あとがき …… 14 |



琉球大学

NO. 6

同窓会会報

平成3年11月25日



けっこう楽しい琉大祭

一昨年までは、12月の第1土・日曜日に開催されていたが、12月に入ると寒すぎるなどの意見があり、昨年からは11月の第3土・日曜日に開催されるようになった。

祭りのようになったといわれる琉大祭だが、けっこう“真面目に”研究発表しているサークルもある。11月16日と17日に開催された琉大祭から

写真右上：留学生コーナーで留学生と懇談される
砂川学長(右)と喜屋武学生部長(中央)

右下：200人余の観衆をわかせたコンサート

写真左上：琉大の伝統になりつつある法政学科の
エイサー

左下：地域の祭りに出前もするくらいになった
プロレス同好会。たまにはほんとに
ケガをすることもある

目次

- 同窓会だより・事務局から…………… 1
- 同窓会支部だより…………… 2
- シリーズ職場訪問(沖縄電力) …… 3・4
- 投稿…………… 5

- あの時・あの師・あの友 …… 6・7
- インタビュー(尚弘子副知事)…………… 8
- インタビュー(比嘉良雄NHK沖縄放送局長)…………… 9
- あとがき…………… 10



琉球大学

NO.7

同窓会 会報

平成4年3月21日



あの裸足のランナー 30年後の今、北米で活躍！

(3ページに関連記事)

目次

- | | |
|--|--------------------------------|
| ■ご卒業・ご入学を祝う……………1 | ■顧問訪問④……………5 |
| ■同窓会だより……………2 | ■あの時・あの師・あの友……………6 |
| ■同窓会支部だより……………2・3 | ■シリーズ職場訪問（南西航空）7・8 |
| ■「裸足のランナー」を追いか
けて／アメリカからの手紙……………3・4 | ■インタビュー
（津留健二 沖縄県教育長）……………9 |
| ■投稿……………4 | |

「心の時代」に生きる

安次富 長 昭 (琉大教育学部教授)

県の工芸産業審議会や文化財保護審議会などの会長を務めるなど、県の芸術・文化部門でリーダー的役割を果たしているのが、この人、安次富長昭氏(61)である。氏の本職は琉大教育学部教授(美術・工芸科)だが、学外の各種審議会委員も数多く引き受けており、多忙な日々を送っている。

氏の琉大とのかかわりはかなり長い。自らが「古ネズミ」と称するように、開学(一期生入学)から、これまでずっとつながりを持ってきた。「まさに青春時代から現在まで自分の家のように過ごしてきた。精神的にも学問的にも琉大は寄り所です」と語る。そして同窓会の顧問としても、運営面でいろいろアドバイスしてくれる方なのである。

ここで安次富氏の経歴を少しばかり紹介しよう。氏は、玉城村の親慶原に学校があった時代の知念高校出身。当時の校長は、のちに行政首席(県知事)となった屋良朝苗氏だった。

安次富氏は理数系の科目が好きで、クラブ活動は科学部に属した。活動は、軍払い下げの兵舎のような建物で続け、着ている服も米軍の使い古しの作業着だったという。屋良校長はとりわけ科学教育には熱心で、科学部員の生徒と、実験器具づくりに励んだようだ。その思い出が安次富氏には深く残り、「工作好きの私が、よい物をつくることに喜びを感じるようになり、それが今に生きている」のだという。

大学では、建築工学分野に進みたかったというが、当時は琉大にはそれがなく、「しかたなく芸術科に入学した」そうだ。半年くらいは、教科書もなく、大学の整備のために勉強というより大工ばかりしていた記憶があったと氏は話す。それでも夜は寮で石油ランプを灯し、勉学に励んだ。それほどに「貧しい大学」だったため、琉大をやめ、本土や外国に留学する学生も少なからずいた。卒業までには半分はやめていたという。

卒業後は琉大構内の一角にあった「ユースカー」=米国民政府=の渉外報道局展示課に勤務。沖縄の文



化、年中行事、伝統工芸、舞踊などの広報・普及に務めた。米国は、早くから沖縄の文化の素晴らしさに着目し、その分野のPRを大いにやらせてくれたようだ。

1958年に琉大の講師に赴任。'62年には千葉大の小池新二氏(のち九州芸術工科大初代学長)のもとで、伝統工芸をテーマに工業デザインを学ぶ。当時は乗用車や新幹線のデザインなど高度経済成長を象徴するテーマが多かったようだ。安次富氏は小池氏に逆に「アナクロっぽいイメージだが、いいテーマだ」とほめられたという。

今はまさに心の時代。安次富氏はまさにその辺の先駆者だったといっている。'74年に通産省が創設した伝統的工芸品産業審議会の委員に、当初から委嘱されているのだ。

「1960年代は民芸という言葉がふつうで、伝統工芸という言い方はされなかった。それが今ではふつうに使われるようになり、関心が高くなっている。それと私が今大事にしているのは環境デザイン。すべての物やまちづくりなどに心のこもったデザインが浸透していけば、人の心もやすらぎ、また環境を大切にしようという気持ちも出てくるのではないでしょう。今、氏は景観の視点からまちづくりのデザイン(橋や歩道など)に日夜、精を出している。



琉球大学

NO.8

同窓会会報

平成4年11月25日



琉球大学資料館（風樹館）

現在の琉球大学資料館は、かつて首里キャンパスにあった風樹館を移設し、昭和60年に完成したものです。1階は主に民俗、美術工芸関係資料を展示し、2階は昆虫、植物、動物標本を展示している。延床面積は、約1500平方メートルです。月～金曜日の午前10時～正午、午後1時～5時（祭日休館）には、一般公開も行っています。イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナガコガネ、ジュゴンなどの標本もあります。

目次

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ■同窓会だより・事務局から…………… 1 | ■職場訪問(オリオンビール)…… 7・8 |
| ■同窓会支部だより…………… 2 | ■インタビュー |
| ■私の研究…………… 2・3 | （安里和子県女性政策室長）…………… 9 |
| ■あの師、あの時、あの友…………… 3 | ■講演会（田名真之氏）…………… 10 |
| ■投稿…………… 4 | ■役員紹介…………… 11～13 |
| ■シリーズ東西南北…………… 5 | ■同窓会からのお願い・あとかぎ…… 14 |
| ■恩師を訪ねて…………… 6 | |

役員紹介

会長・副会長

(会長・副会長・評議員・監査員の任期 平成4年7月1日～平成6年6月30日)

役職	氏名	卒業		
		回数	年度	学 科
会長	大城盛三	2	29	英 文
副会長	石原昌弘	1	28	教 育
〃	森田恒勝	2	29	社 会
〃	比嘉正幸	5	32	政治及び法学
〃	宜保恵美子	5	32	家 政
〃	金城名輝	7	34	経 済

評議員

評議員	氏名	回数	年度	学 科
〃	松原清吉	2	29	国 文
〃	知念績一	3	30	生 物
〃	宮国義夫	3	30	政治及び法学
〃	平良善一	3	30	英 文
〃	嵩原安雄	3	30	教 育
〃	古謝瑞幸	4	31	畜 産
〃	新里邦明	4	31	農 学
〃	津留健二	4	31	政治及び法学
〃	宮平洋	4	31	政治及び法学
〃	安里祥徳	5	32	英 文
〃	田場盛雄	5	32	初 等 教 育
〃	中野清光	5	32	政治及び法学
〃	花城健治	6	33	生 物
〃	高山朝光	6	33	社会及び経済
〃	仲松弘一	6	33	英 文
〃	伊志嶺恵徹	7	34	法 政
〃	比嘉清一	7	34	経 済
〃	岸本金三	7	34	経 済

評議員	赤嶺健治	8	35	英 文
〃	上原政英	8	35	畜 産
〃	嘉手苺喜郎	8	35	初 等 教 育
〃	興儀憲徳	8	35	英 文
〃	松本行雄	8	35	商 学
〃	神谷栄助	9	36	経 済
〃	喜屋武盛基	9	36	電 気 工 学
〃	仲宗根弘明	9	36	初 等 教 育
〃	野原広太郎	9	36	経 済
〃	伊舎堂用八	10	37	史 学
〃	神山泰治	10	37	美 術 工 芸
〃	金城幸秀	10	37	農 学
〃	仲宗根幸男	11	38	生 物
〃	砂川栄右	12	39	法 政
〃	玉城真幸	12	39	社 会
〃	牧志洋子	13	40	家 政
〃	伊波修	14	41	商 学
〃	儀保博信	14	41	社 会
〃	竹越堅哲	14	41	法 政
〃	安里久信	14	41	経 済
〃	狩俣信子	15	42	法 政
〃	砂川寛昭	16	43	法 政
〃	高嶺善包	17	44	商 学
〃	与儀典子	17	44	法 政
〃	上江洲晃	18	45	地 理
〃	末吉洋子	18	45	家 政
〃	松川洋明	19	46	法 政
〃	高嶺善伸	21	48	商 学
〃	山城典子	21	48	教 育

評議員	大城勝	22	49	保健
〃	新城修	26	53	土木工学
〃	上原修	31	58	社会

監査員

監査員	島袋常隆	9	36	商学
〃	八幡繁信	10	37	経済
〃	山城喜文	14	41	商学

顧問

顧問	和気政雄	1	28	英文
〃	富永元順	2	29	政治
〃	市村嘉久	2	29	政治
〃	安次富長昭	2	29	美術工芸

支部長

関東支部長	国吉眞正	9	36	電気工学
関西支部長	松村圭三	1	28	英文
奄美支部長	治井文茂	2	29	社会
浦添支部長	上江洲晃	18	45	地理
那覇市役所支部長	野原広太郎	9	36	経済
宮古支部長	高原安雄	3	30	教育
八重山支部長	伊舎堂用八	10	37	史学

事務局役員

事務局長	平良善一	3	30	英文
事務局次長	金城幸秀	10	38	農学
総務課長	儀保博信	14	41	社会
企画課長	砂川寛昭	16	43	法政
会計長	田中康克	32	59	経済
幹事 (事務部長)	仲本盛浩	32	59	農化



琉球大学

NO.9

同窓会 会報

平成5年3月20日

大学第21回 卒業式
学短期大学部第4回 卒業式



一枚の写真から

今号の編集会議で、「その年代のヒーローに登場していただく」ということになり、表紙の写真は20年前の卒業式で当時の高良学長に答辞をのべている総代の玉城きみ子（旧姓 仲宗根）様にご登場いただきました。

（6ページに関連記事）

目次

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ■ご卒業・ご入学を祝う……………1 | ■あの時、あの師、あの友……………6 |
| ■同窓会だより……………2 | ■企業訪問……………7・8 |
| ■同窓会支部だより……………2・3 | ■東西南北……………8・9 |
| ■寄稿……………4 | ■私の研究……………9 |
| ■恩師を訪ねて……………5 | ■同窓会からのお願い・あとがき……10 |



琉球大学

NO.10

同窓会 会報

平成5年12月10日

一枚の写真から



開学期の誇り高きアスリートたち

福原朝悦（2期卒／歴史地理学科）

今ここに同窓会事務局から懐しい一枚の写真が届いた。じっと見つめ直している。成程若いこういう時代もあったのだ。写真の説明に「第一回琉大中央陸上競技会出場記念 5 Nov. 1950」とある。何をか言わん。在りし日のわれ等が「雄姿」である。（写真は旧キャンパス本館前／現首里城正殿前 以下3頁につづく）

目次

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ■同窓会便り..... 1 | ■東西南北..... 6・7 |
| ■同窓会支部だより..... 2・3 | ■寄稿..... 7 |
| ■表紙写真説明..... 3 | ■インタビュー..... 8 |
| ■放送大学（全面広告）..... 4 | ■歴代会長座談会..... 9～14 |
| ■恩師を訪ねて..... 5 | ■同窓会からのお願い、あとがき..... 14 |

琉球大学同窓会の 歴代会長座談会一

琉大同窓会は来年、設立40周年を迎えます。記念すべき節目に当たるこの時期に、同窓会の草創に立ち会われた現顧問の皆さんにお集まりいただき、過去をふりかえりながら未来を見つめるという主旨で座談会を特集しました。

往時の興味深いお話を縦横に語っていただく中から、同窓会の発展的将来をさぐる指針が見えるような座談会となりました。

廃墟をのりこえて開学へ

大城 先ず、過去をふり返るという意味から、琉大が創立される以前の状況についてお話をいただきたいと思います。

安次富 琉大創立の話が持ち上がった時期は1947年前後——ちょうど学制改革が行なわれて高校が男女共学になった頃でした。母校の知念高校は屋良校長（後の屋良朝苗沖縄県知事）のもとで科学部をつくって、機械工作や実験器具製作の勉強をしておりました。私は1949年に知念高校を卒業しましたが、当時の知念地区には米軍政府や群島政府が置かれるなどいわば琉球の中心になっている時代でしたよ。

私は知念高校の学生会長（当時は自治会長）を務め、島尻地区生徒会連絡協議会の会長も兼任しておりました。琉大の創立にあたって全琉の高校も協力し合おうということでかなりの金額を生徒たちから集め、それを携えて屋良先生、山城篤男文教部長とともに軍政府のミード教育部長に手渡しました。

1949年1月に、米軍に連れられて琉大の建設予定地を見に首里に行ったところ、そこはまだ戦争の爪跡が生々しく残っている廃墟でした。首里城正殿の龍の胸飾りが転っていたり、爆風で吹き飛ばされた円覚寺総門の仁王像などをよく記憶しています。ミードさんの説明では、そこに琉大を建てて新しい沖縄建設を担う人材育成を行うんだということで、私も大いに感激しましたね。

1949年3月に高校を卒業しましたが琉大はまだ開学前で、私は米軍のエンジニア部隊に入って半年を過ごし、それから軍政府情報教育部展示課のデザイナーとして採用されたのです。琉大ができてからは、自分が手がけているデザインの仕事の関係もあって応用学芸部の芸術科を受験して入学することになりました。

と き 平成5年10月20日

と ころ 那覇市西にて

〈出席者〉

和氣 政雄（初代会長 第1回卒業）

富永 元順（第2代会長 第2回卒業）

安次富長昭（第5代会長 第2回卒業）

大城 盛三（第6代会長 第2回卒業／司会）

会則作成、同窓会誕生

大城 和氣さんは第1回の卒業生でもあります。そして、同窓会をつくろうという動きが起こった中で、汗水を流されたお1人でもあり、苦勞されたエピソードもおありかと思いますが。

和氣 同窓会を発足させようという話が出たのは、第2回生が卒業してからでした。第1回生は語学部と教育学部の2学部で卒業生は26人でした。第2回生は教育課程が変更になって農学部、家政学部、語学部、教育学部、理学部、社会学部の6学部で122人が卒業しました。そこで、そろそろ同窓会をつくる必要があるのではないかという話が琉大側から出てきたと思います。

1954年12月に会則ができあがり、同窓会は3回生から発足することになったんです。翌1955年1月に残念なことに志喜屋孝信初代学長が亡くなりました。志喜屋先生は群島政府の知事をやめられた直後に初代の学長として就任され、1952年に退官されたんです。その当時、同窓会という名はあっても、1銭の金もない。告別式は今で言う“県葬”に当たりますが那覇高校で行なわれました。そこで、金がないので松村さんと翁長俊郎事務局長にお会いしてお金がない状態を無理にお願い申し上げて、なんとか同窓会の名で焼香することができたんです。

歩みを語る

“未来”の最も良い教師は“過去”



◀ 左より富永元順、大城盛三、和氣政雄、安次富長昭の各氏

立ち上がりの同窓会

和氣 3月の卒業式を前に、卒業生たちに会費の納入をお願いするプリントを配って回りました。そこには会則の第1条（目的）を明記しました。つまり「在学生及び母校との諸提携を行なう」、「諸文化団体との協力提携を行なう」等々。会員はもちろん同窓生です。発足時の役員定数は会長1名、副会長2名（うち1名は女性）、評議員若干名、監査員若干名、書記1名で、事務局を琉大内に置くことと決められました。

当時はおもしろいことに、B円軍票が通貨だったため、入会金50円、年会費30円を卒業の時に徴収したのですが、松村君が懸命にハッパをかけてくれて「同窓会費を払わないと卒業証書は渡さない」と言っていました。（笑）そのおかげで3回生の方々は会費も納めてくれました。次の4回生は、短期課程も含めて200人を越える卒業生がありました。学生会もあつたし、部活動も行なわれていましたが、同窓会が費用を援助するという話を人伝に聞いておりました。しかし、同窓会の活動としては評議員会を2～3回開いたもののその後ウヤムヤになってしまい、年度ごとの事業実施状況もよく



▲和氣政雄

わからなかったのです。

1953年4月に布令第109号、いわゆる土地収用令が出て沖縄中が騒然となりましたね。伊江島の真謝・西崎地区（53年12月）が接收されました。その際、同窓会としては親睦を目的としており、政治的活動はしないという立場でしたが、これは沖縄全体の重大な問題であり、反対運動に参加すべきだと説得されまして、同窓会の名を「土地を守る会」などに連ねたのです。土地を守る4原則（一括払い反対、適正補償、損害賠償要求、新規接收反対）の貫徹を訴えたりしたところ、米軍から少しにらまれたりもしていましたよ。1956年でしたか、喜舎場朝順君たちが退学させられた事件がありましたが、あの時、同窓会としては退学は不当だと学校側に抗議をしたものの、米軍の圧力に屈服させられてしまったという経緯がありました。

内容空疎な初期の頃

和氣 同じく56年に初めて名簿が出来あがりまして、第4回生までを取録しました。また、1958年にB円からドルへの通貨切替があり、入会金の50円は42セントに相当し、会費の30円が25セントに当たるので合計67セントになります。いっそのこと入会金50セント、会費25セントとし、これを2年分納めてもらおうということでちょうど1ドルずつ卒業の際に（5

回生あたりから) 納入してもらうようになったと思います。

1960年の会則一部改正で任期を2年と定めてありましたが、ズルズルと改選されないままだったものの、1963年に私の勤務先が那覇高校から普天間高校に変わりました。当時は大学の卒業式と高校の入学試験が重なったので同窓会の入学式に出席することもままならなくなったんです。こうした事情から、その年、会長を辞したわけです。

その後も同窓会の活動を傍らで見ていたつもりですが、琉大が予備校的存在という状態が長くつづいていましたね。2回生の入学人数が500人でしたが、卒業生は122人で、24%だったのです。1回生の場合も英文科では43人入学のうち卒業生は9人、教育学部は40人のうち17人の卒業という状況でした。大学には入ったもののすぐに日本本土の大学に移っていく者が多かったのです。同窓会としても、その状況に対して打つ手はなかったと思います。

ないないづくしに困惑

大城 宮古・八重山地方にも群馬政府が置かれている時代ですが、琉大に入るのは留学にも等しいことだったとも聞いております。富永さんは2代、4代と会長をつとめられたのですが、当時をふり返っていかがでしょうか。

富永 奄美、沖縄本島、宮古、八重山の各群島から琉大に入学する学生を集めるための募集要項が群馬政府文教部から送られてきたというわけです。

いざ琉大に入ってみると我々が期待していたようなものは何もなく、本館と言われる所にも椅子も机もなく、開校のあいさつをきいたことを憶えております。木造の建物が10棟程あってしばらくすると机が入ってきたのですが本当に何もない状態から大学は始まったんです。教授やスタッフ、勉強すべき教材もなく、図書も内地から寄贈されるのを待っていたんですね。自分たちでゲタをつくったり、ツーバイフォーで机や椅子をつくって勉強に備えていたのです。

期待していた大学にやって来たら何もないことに気づいて失望した学生が、本土の大学を目指して出ていくという期間が長くつづいたんですね。

そこで、琉大が予備校的な状態に置かれたままでもいいのだろうか、学内にいる者も手を拱いていてい

いのだろうかという声が上がったんです。そのきっかけをつくったのが島尻寛光さんという方でしたが、琉大新聞の“お男バンザイ”というコラムの中で、大学がこのままでは廃校になりかねない、期待を裏切られたとか言う前に力を合わせて立派な大学にしていこうと呼びかけたんですね。そのためには角帽もかぶろう、学生服も着ようということで意気があがりました。

余裕のなかった草創期

富永 大学生らしく勉強をし、サークル活動に励むことを目指して宮古学生会も発足しまして、それから八重山、奄美も学生会をつくったんです。そして気運が高まる中、私も起案したのですが「琉大学生会」がつくられました。もっぱら



▲富永元順

活動費は大学当局が負担してくれました。バザーなども行ないましたが、そのうちいろいろなサークルもできましたね。弁論部、宗教クラブ、家政学サークル、政治学研究会、農業研究会などなど。つまり、大学らしい活動をしようじゃないかという気運が昂まってきたということですよ。

そして4年後を迎えて卒業を前にしたところで、徳之島出身の治井文茂さんたちといっしょになって、同窓会を発足させようということを熱心に語り合ったものです。先ほど名前があがった松村さんも徳之島出身でして、奄美の方々も共に同窓会発足に向けて話をし、会長を誰に引き受けてもらうかといったことも話題にのぼったようにおぼえています。その後和気さんが会長に就かれて同窓会は発足したわけです。

しかし、みんな就職活動で手いっぱい、同窓会の集まりを持ったりする余裕がなかったんですね。奄美大島も日本に復帰したばかりで社会的にはまだ落ち着いていない状態でした。就職後も、琉球政府にしろ、銀行にしろ、議会にしろどこも人手が少なくとても忙しかったので同窓会活動も満足にできなかったんです。

卒業式で金策に奔走

富永 それから十数年後でしょうか、休眠状態のつづいている同窓会活動を再開してはどうかという声

を耳にしはじめたところで、私が普天間高校に和氣さんを訪ねていったんです。同窓会運営についての考察なり、評議員会の記録なりがあれば見せていただくつもりでうかがったようなおぼえがありますが、実際のところは同窓はご苦勞はありながらも全く余裕がなかったので手さぐりで再起したと言えるのではないのでしょうか。2代目の会長として総会を開いた時にもわずかに20人位しか集まらなかったものです。

会長として運営をまかされて最初の問題はやはりお金でした。卒業式のたびに役員がくり出して会費の協力願いを行なったんです。育英資金をつくったり、同窓会として大学のために役立つようなことも行なっていきたいという主旨でずっとお願いをつづけていきましたよ。同窓会長が大学の卒業式に出向いてあいさつするなどということはよそには無いことですが、この慣行はあの頃から始まったんです。会費を払って同窓会に目を向けてもらいたいという気持ちからお願いを始めたんです。

会の再建をめざす

富永 私も昭和47年に東京に転勤になり、その後十数年経過し、熊本の裁判所にいる頃、垣花さん、仲宗根健三さん、花岡恵林さんといった方々から書簡が届き、同窓会活動が名目的存在になって何もできないでいるので、早く帰って来て何とかしてくれないかというわけです。しばらくして沖縄への転勤の機会が訪れたので、同窓会を再起させるチャンスをつくれるようにと安次富先生たちともいろいろ議論しました。その頃はすでに組織は2万人にもなっていたのですから。

まあ、社会的にも経済的にも落ち着いてきていましたし、我々も年齢的にあるいは職業的にだいぶ余裕も出て参りました。子育ても終わりかけ、会費も余裕をもって払えるということですね。そして、再起の願いを込めた発足式を当時の三和ホールで盛大に開きました。すでに県議をつとめる同窓もおり、彼らの激励を含めた集まりになりましたね。そこで立上り資金をつくろうということで目標を2,000万円に定め、かけずり回ったものです。皆さんの協力のおかげで1,100万円くらいの基金ができました。

そして私は再び他県へ転勤となり、同窓会長を安次富先生と代わりました。長い間、会活動に携わっ

たつもりですが、同窓会のためにどの程度のことができたのかよくわかりません。

会館建設の夢ふたたび

富永 もう1つつけ加えますが、現在的那覇市松川の職員宿舎の一角を同窓会でもらいうけることになっていたのです。そこに同窓会の建物を建てることもできたんですが、残念ながら実現しませんでした。そのあとで、インターナショナルスチューデントハウスをつくろうということで東大の茅誠司学長や森戸辰男元文部大臣、大浜信泉先生の3人に顧問になっていただいて会館建設の話を進めようという話があったんですね。その会館の中に琉大同窓会も、金門会も、各大学の事務局も置いて皆が使えるような場所にするという構想があったんですね。それで大浜先生について東京にある類似の施設を見学し、運営についても情報を収集していました。そのうち海洋博の開催が決まったので会場の一部施設を、かつての米軍の上陸地点（読谷？）の近くに設けてもらい、そこをあとで譲り受けようといった話になり実際に文部省に行こうということにもなっていたんです。ところが皇太子ご夫妻に随行していた大浜先生は、例の火災ピン事件の後で、人が変わったようにしょげてしまい、3カ月に倒れて6カ月に亡くなられてしまったんです。同窓会館というのは同窓生の心のより所としてあって、親睦を深められるような場になると思われま

どさくさ時代の思い出

大城 未来の最も良い教師は過去であるという言葉があります。会も漸次組織を広げ発展してきました。第5代会長として安次富先生いかがですか。

安次富 1950年5月15日に私は琉大に入学しました。お話の通り木



▲大城盛三

造校舎が建っているだけで中には何もなかったんです。教育学部の棟は未完成だったはずですが、ですから入学後半年から1年の間は大工仕事ばかりでした。寄宿舎の机、寝台、腰かけに加えて教室で使う机や椅子も、米軍からもらった廃材を利用して作ったんですね。僕は立体デザインが専攻ですが、考えてみるとあの頃腕にたたきこんだ大工仕事はずいぶん役

に立っていると思います。カンナやノコギリを引いても学生に負けない力ですよ。(笑)

草創期の琉大に関わる資料として、1950年の学生募集要項がありますが僕が持っているものが唯一で、大学にもありません。それと合格通知書があります。これは全学のどこにもないので、マイクロフィルムに納めて図書館で保管してあるはずですよ。



▲安次富長昭

それと、琉大新聞の創刊号も持っています。但し面白いことに琉大新聞創刊号は2種類あるんです。つまり発行者がちがう(新聞クラブと学生会)のに新聞の名前が同じで、学長の祝辞も両方にのってたりするんですね。ドサクサ時代のあり様をほうふつとさせていますよ。

廃墟の中から立上ってきたということで、住民も期待を持って注目していました。学生もそれを自覚して意気盛んにやっておりました。ところが中には島を飛び出して恵まれた施設のある他県の大学に行こうという「国費留学生」などもたくさんおりました。当時の不毛な沖縄にあっては誰しも考えることで、僕も実際は国費の試験に受かり、本土に行くことになっていたのですが、希望していた建築工学や機械工学ではなくて他の学部に決まっていたことがわかったので、出発間際になってとりやめにしたんです。その結果、琉大にとどまることになって美術の研究をつづけていました。

キャンパス外に1歩も出ず…

安次富 同窓会との関わりについて言えば、'54年に卒業後、琉大の構内にあった米民政府の情報教育部展示科が僕が勤務する職場になりました。1階には現在の琉球放送(RBC)の前身にあたる放送局が入っていました。デザイナーの募集を新聞広告で見て応募したわけです。僕は好きな絵を描くつもりだったので教員免許をとらなかつたんです。しばらくはあれこれと仕事を物色していましたが……。仕事は名護、石川、那覇、宮古、八重山にあった琉米文化会館の展示物をつくるというものでした。そこでいきなり主任に抜擢され4年勤めたんです。それから琉大に講師として招かれ、デザインを担当しました。考えてみると大学在学中から今日まで琉大のキャン

パスから1歩も出ていないんです。(笑)。ですから過去40数年の大学の歩みをつぶさに見てきました。そんなことなので同窓会と言われても時々ピンと来ない時がありますよ。(笑)。創立30年の時に相談を受けて同窓会活動に本格的に関わり出しました。富永さんが熊本から戻られた時ですよ。まあ実際に関わってみると、大勢の同窓を抱えている組織ということで責任も感じましてね。5代目の会長ということで就任してからは、新しい琉大の歌をつくろうという動きがあったので与儀達則先生の作曲、大城立裕さんの作詞で「雲よ湧け、千原の空」が完成したのを覚えています。僕もこの歌は大好きですが、同窓会から大学への大きなプレゼントだったと思っています。晴れ晴れとして希望の持てる歌ですし、この先もずっと歌い継がれていくものと思いますよ。それから、「首里の杜」の記念碑を設計したりデザインをして、会長は大城会長に代が替わっていましたが除幕式をしていただきましたね。

こうした活動も資金がなければできないわけです。現在、同窓会では毎年度安定した会計予算が組まれていることが大きな力の源だと思っています。その礎を築いたのが又吉慶次前事務局長と、平良善一現事務局長のお2人で、その功労はとても大きいと思っています。今後ともますます力をつけて、大学とともに歩み、大学とともに発展していく同窓会であってほしいと祈念しています。

活動資金づくりで協力

和氣 大学10周年記念事業というのが1961年に大学側から打ち出されまして、当時10万ドルの奨学基金をつくるという運動が起こりました。大学関係、ハワイ関係等各方面から募金が集められました。同窓会への割当ては1万5,000ドルでした。当時すでに3,000人の同窓がおり、年間1人あたり1ドルで5回拠出するという内容だったわけです。この10万ドル基金の中から先ほど話が出ましたエクステンションセンター跡の宿舎などがつくられたんです。

しかし一方では、同窓会はただ金を集めて大学に寄付するだけかという批判もあったんですがね。大学と提携し母校の発展を図るといことが目的でもあるという点を強調してお願いしましたよ。卒業生の9割が高等学校に奉職していましたから各学校ごとに、北は辺土名高校から宮古、八重山の各高校に



琉球大学

NO.11

同窓会 会報

平成6年3月20日



記念碑前で学長を囲む同窓会役員

(左から森田副会長、石原副会長、砂川琉球学長、比嘉副会長、平良事務局長、安次富顧問)

思い出の地に石碑を建立

旧キャンパスを偲ぶよすがにと琉球大学跡碑と医学部跡碑が、このほどゆかりの地首里と那覇市与儀に建立されました。(次頁につづく)

目次

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ■同窓会便り..... 1 | ■私の研究..... 5 |
| ■記念碑除幕式..... 1・2 | ■インタビュー..... 6 |
| ■恩師をたずねて(4)..... 3 | ■記念座談会II..... 7～14 |
| ■あの時・あの師・あの友..... 4 | ■同窓会からのお願い、あとがき..... 14 |

沖縄寮歌祭へ参加

2月11日、沖縄寮歌振興会主催の第22回沖縄寮歌祭がメルパルク沖縄にて開催され、大学や旧制高等学校の20校余りのOB、寮歌女性同好会、さらに本土からの高知高等学校、六高等学校の友情応援があつて総勢120名余りの参加で盛会だった。

会場の壁いっぱい飾られた各大学、旧制高校のノボリと応援旗に調和して場内を角帽と袴姿でかっ歩するOld Boysたちで寮歌祭の雰囲気の大いに盛り上げていた。

琉大OBも今回はエイサー衣しょう半てんを着用し、勇ましい出立ちでステージにのぼり、琉大遺囑歌と新しい歌「雲よ湧け、千原の空」を高らかに歌い、琉大同窓生ここにありで面目躍如たるものがあった。

我がOBたちは実際には、僅か10数名の参加だったが、いざ本番となると元琉大経済学部の教授の稲泉薫氏や大城立裕氏（琉大の歌「雲よ湧け、千原の空」の作詞者）などの琉大関係の多くの友情応援をいただきステージ一杯に広がり、琉大をアピールで



寮歌祭風景

きたのは心強かった。

寮歌祭に参加してよく思うことだが、旧制高校生の角帽と袴姿には、一種のノスタルジ的な憧憬が私たち戦後派にはあり、あの頃の旧制高校生の気風らしきものを感じ、大いに青春を謳歌したであろうあの時代が偲ばれるものである。

他大学のOBたちと付合いができる寮歌祭に、来年こそは琉大同窓会の寮歌祭用のハッピーをつくり、寮歌祭に臨んでみたいと参加したOBたちの感想だった。

平成6年度琉大同窓会定期総会開催

期日 平成6年6月10日(金)

場所 メルパルク沖縄(郵便貯金会館)

記念碑の除幕式にのぞみ

(表紙からつづく)

石碑は、旧首里キャンパス(現在の首里城)と旧医学部キャンパス(現在の県立那覇病院)の2か所に建てられているもので、砂川恵伸学長が自ら筆をとって「琉球大学跡」と「琉球大学医学部跡」と揮毫しました。

この石碑の除幕式および建立祝賀会が、さる1月31日に催され、関係者多数が出席し、建立を祝いました。

まずあいさつに立った砂川学長は「琉大は昭和25年の開学から昭和60年のキャンパス移転までこの地にあった。創立当時の琉大は、現在の私たちの目から見るならば粗末なものであったが、戦火により荒廃した沖縄にあつては、平和の喜びとともに戦後復

興の象徴的な出来事であった。

アメリカ合衆国第10代大統領「アブラハム・リンカーン」に因んで、その誕生日に開学記念式典が行なわれた琉大は、リンカーンの理想であった「自由と平等」「寛容と平和」を建学の理念としている。

琉大は、米国軍政府立から琉球政府立へ、そして国立へと変遷をたどりながら、昭和60年の敷地移転を経て、今日、6学部に加え7つの大学院研究科を持ち、学生数約7,700名、職員数約1,800名の総合大学に発展している。

この記念碑が建立できましたことは、今一度原点であります「苦しいながらも、希望に満ちたこの首里の地における学問研究への熱意と県民のあつい視線を見詰め直す契機になり、新たな感慨を覚えます」と感慨深い面持で、約100人の参列者に石碑建立の意義を強調しました。

次いで、茨木邦夫医学部長は、昭和40年に来沖した佐藤栄作首相の発言をうけて、まず保健学部が昭和43年、医学部が昭和54年に設置された経緯を説明したあと、医学部の理念として「第一は、医学と保健学に関する専門の学術を修得し、医の倫理を身につけ、医学の進歩に柔軟に対応し得る研究者、医師、保健・医療従事者を育成する。

第二は、沖縄県のおかれた自然的、地理的並びに歴史的条件を踏まえ、島嶼環境などに由来する困難な地域医療の充実に努める。

第三は、国民の福祉と医療水準の向上に貢献するとともに、南に開かれた国際性豊かな医学部として発展させ、東南アジアを主とする諸外国との学術交流及び保健・医療協力に寄与する」ことをあげ、「医学部が発展できたのも母体の保健学部がこの地に設置されたからであり、医学部職員のみならず、卒業



▲医学部跡碑の除幕式（那覇市与儀）

生ならびに琉大関係者にとって誠に意義深いものがあります」とあいさつしました。

また、同窓生を代表して、石原昌弘副会長は、次のように建立の喜びをのべました。「ここで学んだ者にとっては、この地は青春の夢がいっぱい詰まった場所であり、このたび同窓生念願の記念碑が建立できたことは、感無量で、感慨ひとしおなものがあります。建立のために御尽力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

西暦2000年には、本学も開学50周年になり、その時は同窓会もいくらか大学に協力できるのではないかと考えています。」

2つの碑は「琉球大学跡碑」が、高さ175cm、横118cm、「琉球大学医学部跡碑」が高さ80cm、横220cmの久米島輝石安岩でつくられ、首里城木曳門橋と県立那覇病院玄関わきの植え込みにそれぞれ建てられています。

建立の費用は、主として同窓会で捻出されたものです。また記念碑のデザインには、同窓会副会長の安次富長昭氏（琉大教授）のご協力をいただきました。

タテとヨコをしっ 学科・支部単位の組織強化で

イントロダクション

司会（儀保） 前は大学と同窓会の草創期を知る先輩の方々に語り合っていました。今日は、10数年前に卒業され、現在各方面で精力的に活躍されている同窓の皆さんにお集まりいただきました。ほとんど昭和40年代の卒業生の方々ばかりです。卒業順に自己紹介をお願いします。

上江洲 卒業後は琉球政府建設局（現在の県土木建築部の前身）を皮切りに、復帰後は総合事務局、建設省と行政畑を歩んで参りました。本省から戻って、総合事務局の関連外郭団体の財沖縄建設弘済会を預っております。

司会 私は卒業と同時に琉大事務局に入り、今は医学部学務課に勤務しております。数年前から同窓会活動も活発になり、微力ながら同窓会事務局の総務部長をしています。

比嘉 入学時は農家政工学部への入学でした。卒業後は、ずっと土木建設関連のコンサルタント業に従事してきました。現在は沖縄土木設計コンサルタントの代表として就いています。仕事をしながら大学の海洋学科の海洋調査測量学の非常勤講師もつとめさせていただいております。僕らは首里時代の卒業なので、首里への愛着は非常に強いんですが、中には大学が千原に移転したために学校がなくなってしまったような感じを抱いている同世代のOBもいるみたいです。私はたまたま新キャンパスへも仕事で通うことが多いため違和感なくやっております。

西大 本土復帰の年の卒業でした。管理栄養士の資格をとり、恩師で退官されていた翁長君代先生のおすすめもあって調理士養成の専修学校に勤務致しまして、15年過ごしました。その後、一大決心で独立し現在は西大学院を発足させて、調理の勉強を志す皆さんといっしょに勉強しています。

小渡 大阪からやって参りました。同窓会関西支部（松村圭三会長）の幹事をやっております。1967年入学で学籍番号が67633でした。大学を卒業せずに復

帰1年前の1971年に大阪に行きまして、ご存知でしょうが「青い海」という雑誌がありました。それを4年程手伝いました。それから東大阪市立図書館（永和図書館）に移っています。

森永 昭和50年に初等教育科を卒業しました。その頃は普通は3～4年の補充の経験が必要だったのですが、私の場合はすぐに出身地の八重山に行きました。鳩間で3年、石垣で15年つとめてきましたが、八重山地域では15年以上石垣島勤務ができないため今年になって西表島の上原小学校に転勤しました。**大城** 私は昭和49年に卒業して、当時はまだ保健学部ですぐに琉大附属病院に勤めました。現在まで臨床検査技師として働いています。ついこの間話題になりましたが、記念碑が首里城と与儀の医学部跡にも建てられましたね。

司会 記念碑が建てられたことで、古いキャンパスともついにお別れという感じになりましたね。

学生運動盛んなりし頃

司会 皆さんとも首里キャンパスで学ばれたわけですよ？

大城 私は1年半は首里の本学、残りは与儀で過ごしました。

司会 その頃は県外出身者はおりましたか？

森永 いました。

司会 現在は県内学生と県外学生は5対5です。入学定員が学部と短大で1,730人ですが、お集まりの皆さんの頃は600人位だったと思います。

比嘉 古いキャンパスに在学して寮生活を送っていましたが、復帰前であったし、本土の方から押し寄せてきた学生運動が盛んになっていました。土木ビルが占拠される前だったのですが、いろいろなセクトが台頭していて、自治会長の座をめぐる争っていましたね。革マルや民青が自治会室につめよって、しょっちゅうイデオロギー闘争をしていました。ノンポリ学生というのはいなくて、どこかの組織に所属しているという状態でした。

司会 ほとんど色分けされていたわけですね。

かり結ぼう!!

足腰の強い同窓会を

とき 平成6年2月19日

ところ 那覇市喜川にて

比嘉 復帰が近き、琉大からも連日ワッショイワッショイとデモに繰り出しましたし、運動が盛んになるにつれ、どこかのセクトに入らざるをえないような雰囲気がありました。ノンポリ学生というのは10%程度でしたよ。学生活動は寮が中心でしたが、卒業の年には学内に入りこんでいたし、次の年には土木ビルが占拠されていたと思います。国際通りやひめゆり通りでいつもデモが繰り返されていましたよ。

小渡 学生運動の激しい時でしたね。在学中にB52が嘉手納基地で爆発したのが68年でしたが、学生たちがすぐに嘉手納中学校に集まって雨の中でデモを敢行しましたよ。“政治の季節”という感じでした。大城 そういう意味ではこれでも大学かと思うくらい荒れていましたね。図書館前では、講義の合間に10・21とか4・28とか集会を組んでいました。

司会 私もよく運動に参加することがありました。上江洲 時代がそういう時代だったんですね。

小渡 '69年1月に東大安田講堂の攻防戦があったのですが、琉大でのピークは本土の学生運動の動きとは少しずれていたんじゃないですか。

学科名称の変更につれて

森永 私の頃は学生運動は少し下火になってきた感じでした。私たちの時代を最後に、初等教育科の再編が行なわれて、卒論が義務づけられました。初等教育科が国語や数学などの専門化、細分化が行なわれたわけです。私は単位をほとんど取り終える頃には専門的な能力を身につけていきたいと考えまして、美術を目指そうと決めました。ところが、美術担当の教官に断られましてね、美術を専攻している学生たちをおびやかすというわけですね。そこで方向を変えまして、養護教員養成課程ができてきたので、



出席者

上江洲 朝一(昭和41年/土木科卒)
比嘉 弘政(昭和45年/林学科卒)
西大 八重子(昭和47年/家政科卒)
小渡 照生(大阪在/1967年入学)
大城 勝(昭和49年/保健学科卒)
森永 梢(昭和50年/初等教育科卒)
儀保 博信(昭和41年/社会学科卒/司会)
(敬称略)

担当の平田永哲先生に相談したら喜んで迎えられました。ですから同期の初教科の仲間はほとんどこの課程を受けて資格をとりました。夜も集中講義を受けたり、現場の先生たちとの交流も深めたりしました。在籍していた学科が変わっていく時期だったのかと思います。

司会 学科の名称の変更がずいぶん進みましたね。西大 自己紹介で教育学科からと申し上げましたが、当時は実は農学部だったですね。

司会 農家政工学部という名称でした。そして工学部が分離していったわけです。

上江洲 学部学科の同窓会というのはどうなっているのでしょうか。

家政学科同窓会の現況

西大 家政学科には家政学科同窓会というのがありまして、私は今期の会長を仰せつかっております。琉大同窓会は3万人ということですが、家政学科同窓会が900人です。割と大所帯だと思います。卒業と同時に全員が会員として入会しま



▲西大八重子氏

す。尚副知事の就任時には家政学科同窓会として祝賀会も開きましたし、新垣博子先生(琉大名誉教授)が女性では最高の勲3等瑞宝章を受章された時のお祝いの集まりでは美術卒業の先輩に「あなたたちは同窓会があってすごいね、同期の者をまとめあげることさえ大変なのに」と言われました。同窓会を運営する悩みはありますが、すぐに組織的な動きがとれるようになってまいりますと、同窓会を大切にしていきたいと思うようになってきました。毎年の総会にも150人程が出席されますし、今年は20周年を迎えます。翁長君代先生が退官なさる時に設立の動きが出た同窓会なのですが、それから20年が経過しています。そして、20年記念事業として計画されていることがあります。これまでは親睦会を中心に運営されてきたんですが、今後は社会に貢献できるような活動を目指そうということで、総会ではかる必要がありますが、基金のようなものを創設して少しでも社会に貢献できないものかと考えています。

小渡 会報や名簿のようなものも整っていますか。

西大 はい、900人の名簿ができあがってデータを入力してあります。役員会は、それぞれの担当の“期”の者で組織され、次々と期ごとにバトンタッチしていくシステムをとっています。ですから、毎年同年代の人が会長はじめ役員をつとめているという状態がつづくわけです。でも、預かる時にはお金のない同窓会だったので、どんなふうにもバトンタッチすればいいのかずいぶん悩みました。今度20周年の節目を迎えることから全員はりきって事業の成功に向けて取組んでいます。先生方が退官される時も、総会の後で退官記念パーティを催しております。

記念のお祝いの品を贈っています。

司会 なかなかの団結力ですね

西大 学科でもこうやって同窓会活動を行なっているということを是非お伝えしたいものだと思ってお

りました。

土木科同窓と「建友会」

上江洲 土木の方は1期から33期までで人数にして850名程で、土木工学科同窓会として組織しています。会報も名簿もつくっています。年間会費の2,000円を徴収し、各期に評議員を2人ずつおいています。期ごとに連絡をし合うシステムを



▲上江洲朝一氏

とっています。公に全国的に「土木の日」というのがあって、土は十と一に、木は十と八に分解できるので11月18日なのです。県庁1階のロビーを利用して色々な公共事業に取組んだ写真やパネルを使って橋や道や、ダムや飛行場ができた時の様子を伝えたり、コンベンションホールで土木科の現役の先生を招いてシンポジウムを行なったりしました。それから具志先生の退官記念ということで、約600万円くらいのお金を集めて退官記念シンポジウムを開こうという計画を持っています。以上の様に、単独の学科の同窓会としてはかなり活動している方ではないでしょうか。

西大 活動資金がそれだけ集められるというのは何ともうらやましい話ですね。

上江洲 現在は24周目に入っていますが、節目節目には少し厚目の冊子などもつくっています。

小渡 関西支部の場合は、同窓生を完全にはつかめていないんです。おそらく相当な人数がいると思いますが、私どもの名簿ではまだ80人程度しか把握されていません。300~400人ほどはいるのでしょうか。

司会 学科の名簿ができればその中から大阪に渡った人たちの事情もつかめるでしょうね。そういう連絡も必要だと思います。

上江洲 私たちの業界で組織している「琉大建友会」が、来る5月で満10年になります。全体の同窓会と学部学科ごとの同窓会など、いわばタテの同窓会が多いのですが、10年程前にヨコのつながり、横断的な組織化という部分が弱いのではないかという話がありました。学科ごとの卒業生同志のつながりは強いのですが、いったん社会に出るといろいろな人的なつながりが出てくるものですから、私たちは琉大を出た者で建設関連業界につとめる人間で横断的な

組織をつくって情報交換をしたり親睦を図るという主旨で始めたというわけです。その時には大学におられた比嘉幹郎先生や砂川恵勝先生、農学部から屋我先生など、現職の先生方に顧問として就いていただきました。ただ建設関係と一口で言いましても今日ご出席の比嘉さんのようにコンサルタント業もあれば、工事関係、資材関係、建設機械関係などいろいろな分野がありましてね。⁵ 薦、土工、生コン、砂利砕石等々ですね。30~40業種ほどありまして、それらに関係している経営者及び従業員を網羅する形で建友会を設立しました。現在は150人程の会員を抱えています。その中から15人程度で幹事会をつくっています。私が会長をつとめさせてもらっていますが、月1回、その幹事会で親睦模合をつづけています。その場で色々な情報交換を行ないながら建友会の活動方針なども話し合っているというわけです。講師を招いて講演会を催したり、ゴルフコンペなどをしております。そういうわけで業界や似た職種を集めた形で全学科の同窓を対象にしております。

関西支部 今昔

司会 関西支部の活動はいかがですか。

小渡 これまでも同窓会会報でその都度取りあげられてきておりますが、総会を年に1回開催し、幹事会(10人)を年2回程行なっています。主に親睦と交流という趣旨で開いております。現在は会員が80人程です。琉大のOBで、教員をしておられる方がけっこういるんです。いつ頃から始まったのか、現地採用という制度があったんですね。

森永 私たちの頃ですね。大阪へ行った方がたくさんいました。

小渡 神奈川などもそうだったと記憶していますが、7~8年とかなりつづいたと思います。1回に30人位行きましたので200~300人は関西周辺で就職しているはずなんです。やめて沖縄に帰られた方がいるとしても半分はまだ残っていると考えられますよ。関西方面へ行かれた教職員の



▲小渡照生氏

方々で最初「ゆうなの会」という組織をつくったそうです。また、戦前に師範学校を出られて移った方々が「南友会」というのをつくっておられたということです。昭和58年にこの2つの組織が統合されて新

たに「南友会」として再出発しております。戦前からの方は含まれておりますが、3分の2以上は戦後になって琉球大学から採用されていった皆さんが会員ですね。中には校長先生として活躍されている方もおいでです。この会は100人くらい会員がいて、全員教育関係ということ。それと関西支部が80人程ですね。両方の会にダブって入っておられる方も若干名おりますが、今後は双方とも重ねて組織を大きくしていこうという方向で考えたいですね。

上江洲 一度、琉大を出た人たちでつくられているタテ、ヨコを問わずいろいろな会組織を整理されてみてはいかがですか。

司会 そうですね。本日、出席されていない分野の方々の中でも活動があると思われれます。

保健学科同窓会の現状

大城 私は現在、保健学科の同窓会会長をつとめております。お集まりの皆さんのお話を聞かせていただいととても参考になります。というのは、どうやって人を集めるかという問題なんですね。どうすれば同窓会に関心を持ってもら



▲大城勝氏

うかという点です。私たちの会はすでに1,200人の会員規模になっておりますが、年に1回総会を開いてもせいぜい30~40人程度しか集まりません。私は勤務先が病院なので医学部にも卒業生はいますが、忙しいせいか同窓会活動にあまり関心を持たれていないように見受けます。ましてや、全体の同窓会活動ならばなおさらですかね。そういう意味では下部というか学科単位の組織をどのように形成していくかが問題です。その点で私どもの組織はまだ弱いところがありますね。そこで沖縄本島の北部、中部、南部、あるいは本土では関東、関西、九州といった具合に地域ごとにブロック化して活動を分けていこうと昨年からは始めています。それぞれの地域単位で催しものなどを行なってもらい、その情報を本部である私どもの方に寄せてもらうという形をとっております。また、組織づくりの一環で会報も出してあります。事務局は医学部の中に置いて、昨年までは月に1度集まって会合を開いていました。いずれにしても組織づくりをどうするかという点で頭を悩ませていました。だから、どう関心を持って

もらうかという点が重要だと思いますよ。それと、先ほど話がありました役員を交代制で行なうというのはいい考えですね。私も長いこと学科同窓会の役員をしておりますが、他から受ける印象としては同窓会の役員というのはどうも面白いもんじゃないというふうに受けとられているみたいですね。同窓会に入ったって会費を払うだけだという感じですね。私が目標としたいのは名簿づくりですね、名簿を完成させてそれを基に人脈をつくっていくようなことに役立てればと思います。

活動の活性化をめざして

司会 西表に移られてからは同窓生どうしのつながりはどうですか。

森永 名簿のお話が出ましたが、そういうものがないために、八重山地区に赴任している教員でも、誰が琉大を卒業しているのかどうか分からないことが多いですね。



▲森永梢氏

ですが、仕事をしながら、お互いに琉大の卒業生ということがわかるととても親しみを感じます。そして懐かしさに加えて、これからもいっしょに頑張ろうといった連帯意識も芽生えますよ。八重山地区には私の同期の仲間がとても少ないので、那覇に出て来る時には時間をつくって会うようにしています。まだまだ個人的なつながりのレベルですが、昔の仲間と会うといっぺんに時間を飛び越えて学生時代に戻れるような感じがして楽しくなります。

学科改称にともなう問題

比嘉 農学部同窓会の概要についてお話してみたいと思います。農学部は、農学科・農芸化学科・林学科・畜産科・農業工学科といった具合にいくつかの学科に分かれていて、それぞれの学科ごとに同窓会が存在しています。それぞれ



▲比嘉弘政氏

立派に組織化されて名簿も持っています。たとえば林学科を例にあげれば、1期から39期までありますが、さらに「1林会」、「2林会」……「15林会」というふうに期ごとに組織ができあがっております。会員も官庁につとめる人、民間の人も網羅しながら割と盛大に活動も行なっています。ただし、農学部

全体のものというのではないんです。そこで、私の場合職業上上江洲会長が率いる先ほどの琉大建友会に属しています。建設関連産業団体連合会というのがあります。40社ほどの会社が加盟しています。その会員会社につとめて関連産業に従事している人なら誰でもいいですよということで、学部学科を問わず入れるようなシステムになっています。ですから主体的には70%ほどを本学の土木工学科OBが占めています。他にも英文科卒、経済科卒などの人たちも加わっているわけです。そういう経緯でおつき合いさせていただいております。ただ、私が心配していることがありまして、農学部の場合はそれぞれの学科で自らの同窓会を持っているわけですが、卒業後、年齢の離れた先輩あるいは後輩との結びつきという点で、同窓会にも頻りに顔を出してきた人たちはお互いに人脈づくりもできて社会に出てからの活動にも生かしてきたのでしょうが、琉大自体で学部学科の解体、改編が盛んに行なわれてきているわけですね。農学部の場合は、来年から農学科、林学科、農業工学科などがなくなるというじゃありませんか。そのかわりに生産環境学科、生物生産学科、生物資源科学科と改称されると聞いていますが、そうになると、林学科の卒業生というのはこの時点でとりあえずストップということになるわけですね。そして生産環境学科の人は1期生ということでスタートしてしまうと、タテのつながりもここで断たれてしまうおそれがあるんじゃないかということですよ。こういう事態に同窓会としてどのように対処していくかという問題があります。

上江洲 つなぐ方はいいけれど、切れてしまうとそこで終わりだという感じがしますね。だから、学校の方もあまり学科(名)を改めるようなことをしないほうがいいと思いますよ(笑)。

比嘉 今後工学部の方も機械、電気、土木、建設がそれぞれ解体されていきますね。その前に農学部の事例がありますが、たぶん恩師を中心とした同窓会というものがあるはずですよ。しかし、先生自身が農工、畜産、農学の先生たちといっしょに合体しているものですからバラバラになってしまっているんですね。どう後輩へのバトンタッチをしていくかというのが一番心配な点です。

組織基盤の強化が先決

司会 難しい問題ですね。例えば「部活」での同窓会に発展の可能性はないものかと思えますね。部活をなさなかった方もおいででしょうが……。ワンダーフォーゲル部は山の家を持っていて4～5年前に改築して現在だいぶ良くなったそうです。われわれが在学中から国頭に土地を借りて活動をしていますよ。それと、同窓会で「琉大野球部を優勝させる会」のようなものをつくれなかと前から考えていますが、今、県内3大学で野球の対抗試合をしています。毎回他大にやられているんです。そういう盛り上げ方も考えられませんか。

大城 上江洲さんのお話では業界におけるつながりというものが非常に連帯を強くさせていると思えますが、盛り上げ方としては、ゴルフコンペをしたり、何か同窓生間に共通点を見い出して輪をひろげていく方法も一策だと思います。

上江洲 ところでもともと同窓会というのは何なのかという問題はありますよ。同窓会自体が肥大化し、学部学科も改編されていくわけです。周りが変わっていくが同窓会自体はいまひとつ活発さが足りない。沖縄の「イチャリパチョーデー」ではありませんが、わざわざそんなものをつくらなくてもいいという考え方をする人もいますね。例えば日大（日本大学）同窓会の沖縄支部というのがあってかなり活発に活動されています。仕事を通して見てきたのですが、官庁の方々が本土から沖縄に2～3年出向という形で来られるのですが、各大学ごとに赤門会（東大）とか稲門会（早大）とか大きな組織がありますが、日大会というのをも力を発揮しています。全く見ず知らずの人でも日大のOBというだけで皆でワーツと迎えてくれるわけです。本土では、善し悪しは別にして学閥というのがありますね。官庁であればキャリア組、ノンキャリア組という分け方もありますし、例えば弁護士であれば出身大学ごとにつながりが強いということがありますね。大手企業でも同窓どうしの連繋は非常に密で、先輩後輩どうしでとても仲がいいという場面を見ました。ところが琉大の場合は、琉大卒ということを知っても「ああそうか」という程度で終わってそれ以上に発展しないんですね。沖縄イズムというか、県民性に帰される問題なのかもしれません。

比嘉 ただ同窓が3万人にもなってくると、それをひとつにまとめていくということは並大抵のことではないですよ。先ほど来話が出ているように各学科ごとの同窓会を組織してその上に琉大同窓会を持っていく形にしなければと思いますよ。そこで同窓会報の中で、現在ある各学科ごとの同窓会やクラブの同窓会、あるいは建友会などのような業界単位の同窓会の現状を調べて掲載し、紹介すると良いのではないですか。その誌面を通じて人脈をいっそうひろげられることもできるでしょうし、新たに入会者も募れることもできると思います。そのような組織のまとめとして全体の琉大同窓会があるという形態をイメージしています。

上江洲 従来の全体の同窓会というのは、3万数千余の同窓生をヨコ1列にザッと並べてそれをひとつに括るというやり方だったのかもしれませんが、学科やグループで活動をしてきている人たちがいるのですし、それを積み上げていって、全体の同窓会はそれを包みこむという形ですね。そうすれば上の方から琉大が何周年を迎えてある事業の企画があるという場合、それをおろしていくという仕組みもとれますね。つまり、下部の方でしっかりした組織づくりをしていくことが先決で、全体でりきまず、自然な積み上げが大事だと思います。

復帰前 オリジナルのシステム

司会 現在同窓会では評議員を2年の任期で50人の方々につとめていただいておりますが、すそ野を広くして万選なく就任してもらうという意味では人数を増やしていくことも考慮する必要があるかも知れません。現在は、学部や年齢（卒期）を考慮し人選しており、各支部長は全員入っています。

上江洲 組織の構成の仕方として、会報などをつくる際の編集委員会、事業委員会など各種委員会を発足させるという考え方もあります。つまり、理事会の下に委員会、委員会の下に幹事会を組織します。幹事会になるとだいぶ専門的になりますが、さらにその下にワーキンググループ（実働部隊）をつくっていく。幹事が一切切を引き受けるのではなく、持ち場をいくつもつくって分担をし、最終的な決定機関へ上げていくということです。現在すでに在る組織を活用してネットワークを活かしながら抵抗なくやっていけると思いますよ。

西大 家政学科のOBとして家政学科の将来ということで言えば、学科として現在教育学部に移行しておりますが学科名がなくなる可能性というのがあります。家政学科同窓会として20周年記念事業に取り組んでおりますが、基金設立の目標に向けても“家政学科同窓会”という名称を残したいと思っています。それから、今日ぜひお話をしてみたいと思っていた学生時代の思い出があります。私どもが在学中に家庭管理実習室というのがありました。かつての女子寮の前に部屋がありまして、5人1グループで1カ月間生活するというわけです。食事の当番が順ぐりに回ってきたり、それぞれ役割分担がありまして生活の様子をレポートにしてまとめていきます。国立に移管後は制度も変わり、その実習もなくなってしまいましたが、私たちが学んでいた頃の琉大にはまだアメリカ的な教育システムが残っていたと思います。そしていったん日本サイドの教育制度に戻されて、そして今度の編成というのはもう1度元に戻そうという動きだと考えています。当初のシステムというのは実践での教育というのに非常に力を入れていたと思います。同期の者がお茶の水女子大に研究生として学んだ折に語学でのハンディというのはとても大きかったというんですが、あちらが文献で学んでいたことを自分たちはすでに実践で身につけていたというお話があったんです。琉大ではそういう教育の方式が生かされていたんだと、20年を経過して今頃になってようやく私自身もそのよさがわかりかけてきたということです。自分の仕事を振り返っても実践的に取り組んでいくことをあの頃に学んだんだと思います。

司会 確かに1軒家があって、その実習室に誰かの誕生日ということと呼ばれて行ったことがありました。

西大 そうなんです。実習生が当番に当たった時は必ずゲストで誰かを招かないといけないということがありました。

司会 大学現場でもアメリカ的になりつつある面があるんです。実習の場に限らずあの頃はよかったなあということがありますよね。社会学科にもミシガン大からイシノという教授が招へいされ、文化人類学の講義を野外ですることもありましたよ。

西大 近年、小学校でも生活科という教科ができてきているのも実践を重んじるという立場からとら

えられているんでしょうね。また、家政学科の場合は男女共学という問題ですね。これまでは女性を対象にした教科だったのに、共学化が進んでおりますし、とてもいいことだと思います。

小渡 復帰前の琉大は確かにアメリカの教育システムのいい面を取り入れていたと思います。私の仕事柄、図書館の話をするれば、当時は閉架式で書庫に立ち入れないような図書館ばかりでしたが、琉大の場合は蔵書数が少ないという理由もあったんでしょうが、書庫がそのまま閲覧室にもなっているという状態で非常にいい形のシステムをとっていました。入れなかったのは伊波普猷の資料を納めていた特別資料室だけでしたし、他はどこでも立入りできたのです。最近になって日本でも、書庫に利用者が入れるようにしようという動きが見られるようになりました。千葉県浦安市の図書館などはとても進んでいる実例のひとつですが。

学生生活の変化

司会 現在、1年間の授業料はいくらぐらいだと思いますか。現在は国立で44万円、月に換算すると約4万円程度です。

上江洲 当時は学費が前、後期とも15ドルだったですよ。1カ月のアルバイト料金が15ドル位でしたよ。

小渡 学費という面では私学との差があまりなくなりましたね。

司会 県内私大との比較ではほとんど差はありませんね。琉大が値上げしたために逆転しているのかもしれないですね。

小渡 国立でも遠く県外に行くともっと金がかかるわけで、経費の面だけ考えれば近くの私学が安上りということですよ。

大城 最近の琉大祭はどうなのでしょう、われわれの頃は3~4カ月前から準備を始めたものですが。

司会 最近はお店がたくさん立ち並び研究発表が少なくなっていますね。

西大 大学祭が今度で終わるぞというような話はないですか。

司会 それはありませんでした。これまで毎年12月の第1土・日開催だったのが近頃は、11月の中旬に実施するのが恒例となりました。

西大 学生気質みたいなものもずいぶん変わってきているのでしょうか。

大城 変わっていると思いますよ。私は大学の内側におりますのでわかるつもりですが、だいぶ変わったものだという感じです。先ほどのアルバイトの話ですが、アルバイト代は授業料とまでいかなかったり下宿代、食事代にあてがったものでした。今はそこがちがってまして、車を買うとか志向がずいぶん変わってきていますよ。

司会 現在、学生の乗用車による通学が90%近くあります。

小渡 琉大の近辺には下宿屋さんもたくさんあるはずですが、そこに暮らす学生たちは自転車通学しないのでしょうか。

司会 自転車は少ないですね。1年次には自転車通学していた者も、夏休みに免許をとってバイクや自動車に乗り換えるようです。

大城 自動車を使う目的がちょっとちがってきていて、学業に役立てるといよりもアフターファイブの問題みたいですよ（笑）。

司会 学生寮はキャンパス内にあるんですが、そこに住んでいる学生たちも乗り物を持っていますから。

森永 生活の一部になっているんですね。

小渡 大阪では車での通学は、駐車場が確保されな

い理由で禁じられている大学が多いですね。その分、鉄道が発達しているわけです。

司会 今日は遠くから急きょかけつけてくれた同窓もおられて、本当に楽しい話題が集まりました。ちょうど子育ても終わった私たちくらいの年代からようやく同窓会活動に参加したいという人たちがたくさんいらっしゃいます。

西大 最後に単刀直入におたずねすれば、家政学科同窓会は資金集めをせいいっぱい行なっていますが、なかなか集まりません。かせいがなくっちゃ、ということで頑張っていますが援助をしていただくシステムというのはございませんか（笑）。

司会 支部育成という名目である程度の予算を組んでいます。支部結成や総会の時、ご一報いただくと幸いです。

上江洲 少し規模の大きい事業を企画すると会費だけではとうてい間に合わないのです。そういう時は広告費でまかなっています。

司会 同窓会報も広告費を集めて発行しております。各方面に今後ともご協力を願いたいと思います。琉球大学はもうすぐ創立から50年を迎えます。それぞれの同窓会組織でこれからもご活躍ください。



「琉球大学跡碑は、同窓生が碑といっしょに写真が撮れるよう配慮してデザインしました」(安次富長昭氏) とのこと、首里城見学のお帰りにどうぞお立ち寄りいただき、記念撮影を。

今号では、これからの同窓会はどうあるべきかという事も話し合ってもらいました。ある一つの型にまとめるのではなく、地域で、同期で、サークルで、職場ごとに、そして、職種でとさまざまな方法で同窓会を作り、親睦を深めていくことが、琉大同窓会の組織強化になるのではと思いました。
(儀保)

同窓会からのお願い

終身会費納入のご協力を

今年度の終身会費の納入期限（5月末）が迫っています。本年度も1,000名を対象に予算額を設定していますが、現在のところ、未だ300余名しか納めていません。となりますと目標額にまだ遠く及びません。

本年度は事業活動の一環として、琉大跡(旧首里キャンパス)と琉大医学部跡(与儀)に記念碑が完成し、その工事費として大学側に全額補助しており、例年より特別支出の増となっています。

どうか会費未納の方は、早目に納入して下さるようご協力お願い致します。

今後とも頂いた会費を大事にして大学並びに同窓会の発展のため大いに活用したいとの所存です。

事務局



琉球大学

NO.12

同窓会 会報

平成6年11月30日



一枚の写真から

40年前の美女連！ その雰囲気は今も

一枚の写真が入手できた、うん、これは琉大の美人コンテストかと、よくよく観ると家政学科の研究発表会のようなのである。

さっそく家政教育教室の宜保美恵子教授に照会したら「5・6期の皆さんだ、中央の石嶺（旧姓安里）さんに伺って見たら」と紹介をいただいた。

10月下旬、首里横保十字路から首里中学に向かう途中の高級住宅街の中の石嶺さん宅を訪ねた。原稿依頼の間に対応していただいた雰囲気は、さすが元美女連という感じを受けた。

(写真解説は7ページ)

目次

- 同窓会便り…………… 1
- 新会長あいさつ…………… 2
- 同窓会支部便り…………… 3・4
- 大学の近況…………… 4
- 恩師を訪ねて(5)…………… 5
- シリーズ職場訪問…………… 6・7

- 表紙写真解説…………… 7
- 個人インタビュー…………… 8・9
(上原吉勝氏、神山昂氏)
- サークル紹介…………… 10
- 同窓会役員紹介…………… 11～13
- 同窓会からのお願い、あとがき…14

新会長就任

ごあいさつ



比嘉正幸

1 去る6月の総会で新たに会長に選任され、責任の重大さに身の引き締る思いしております。

本会も、6、7年前から組織が強化され、その活動も活発になってまいりました。これもひとえに会員の皆様のご協力と役員及び事務局のスタッフのご尽力のたまものと思っております。

わけても安次富長昭、大城盛三両会長と又古慶次、平良善一両事務局長のご活躍は特筆すべきものがあります。私は諸先輩のこれまでのご功績に報いるためにも、本会の発展のために全力を尽す覚悟です。

2 いうまでもなく、本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的として結成されたものであります。この目的を達成するためには、まず、組織を強化しなければなりません。既に会員数が3万人を超える大世帯となり、しかもその所在が県内にとどまらず世界的規模となっている関係で全ての会員と連携をとり、全員が一堂に会するということは極めて困難な状況になっております。

幸い本会には、地域単位、職場単位の支部がありますので、今後はこれらの支部の数を増やすと共にそれぞれの組織を強化し、本部と支部間の連携を密にする方向で、会全体の組織の強化を図る必要があると考えています。また、最近、学科単位で会を組織し、会員名簿等も作成しているところが増えてきましたが、このような学科単位の支部の結成を助長することも必要ではないかと思えます。

私は就任後に、関西支部、関東支部の各総会に相

次いで招かれて出席しましたが、支部での活発な活動を目のあたりにして深い感銘を受けました。特に関東支部は、約1000名いると思われる会員のうち、半数以上の会員の名簿が整備され、定期的に会報も発行しておりますが、当日は大勢の会員が参加し、その盛況ぶりは本部のそれをしのぐほどでした。

3 本会は、終身会費制を採用して以来、財政的基盤も確立されつつあり、定期的に大学に対する援助活動を行っています。先に首里城内に琉球大学跡の碑を建立しましたが、来年の開学45周年記念事業の一環として、キャンパス内に野外彫刻を贈ることになり、現在安次富先生、丸山先生が製作にとりかかっておられます。また、学生の課外活動費として毎年一定額の援助を行っていますが、今年は特に文系の国家一種公務員試験の勉強会にささやかながら資金の援助を行いました。今後は、学生の各種資格試験、就職試験の指導に対する援助等、人材育成面での協力を一層強化できればと考えております。そのためには会の財政的基盤の確立が要求されますので、終身会費の納入について会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

4 西暦2000年には、琉球大学は開学50周年を迎えます。大学では現在その記念事業にむけて記念事業企画委員会を発足させ、事業計画策定のための活動を開始しています。この委員会には同窓会からも5名の委員が参加しております。開学50周年は同窓会にとっても非常に意義深いものであり、大学と協力して、この記念事業を是非とも成功させたいと願っております。この事業についての会員の皆様のご意見、アイデア等をお寄せいただければ幸いです。

本会の益々の発展のために、会員の皆様の一層のご協力をお願いして、ごあいさつといたします。

同窓会支部便り

関西支部

総会を開催 新会長に成田義光氏

同支部の第5回定期総会が7月20日（土）午後7時から、大阪市大正区の沖縄料理店「おもろ」で、関西地域の同窓会員20人余が出席してなごやかな雰囲気で開催された。琉大側からは砂川恵伸学長と、庶務部長の安室朝健氏が職務多忙の中激励のため出席され、同窓会本部からは、前会長の大城盛三、新会長の比嘉正幸がそれぞれ離任と就任のあいさつを兼ねて出席、友寄賢吉新事務局長も同行し、本部と支部の事務連携強化のため出席した。

まず、総会は、山城賢孝事務局長の司会で進行され、松村圭三会長のあいさつと歓迎の言葉で始まり、会務報告、決算、予算が承認され、続いて、松村圭三会長の会長勇退による会長選出が審議され、その結果新会長に副会長の成田義光関西学院大学教授が選出された。松村圭三氏は初代同窓会顧問として承認され総会を終了した。引き続いて懇親会に移り、琉球料理と泡盛をくみかわしながらなごやかにすすむ中、砂川学長の「琉球大学の近況」報告、大城前同窓会長と比嘉新会長のあいさつがあり、バックミュージックに昔懐かしい琉大逍遙歌が流れる中、会員相互の情報交換となり、関西同窓会員の限りない発展と強い絆を確認し合い、来年の総会での再会を約束して懇親会も閉会となった。

関西支部の新役員は次の通り。（ ）内は卒期。
会 長 成田 義光（2期）
副会長 山城 賢孝（5期） 知念 信子（5期）
事務局長 今村 毅（17期） 補佐 小渡照生（19期）
幹 事 小浜 良子（4期） 上地 安昭（11期）
上原 英夫（17期） 宮里美智子（17期）
上原 仁吉（18期） 沢崎 純子（18期）
鳥越 紳一（39期）
会計監査 津野紀代志（10期） 仲村 孝子（23期）
顧 問 松村 圭三（1期 前会長）



▲盛会だった関西支部総会

関東支部

定期総会開かれる

- 千葉県弁護士会会長に瑞慶山茂氏就任
- 国立歴史博物館研究部長に比嘉政夫氏就任
- 日本教職員組合書記長に渡久山長輝氏就任

関東支部の定期総会は、10月29日（金）午後1時30分から日本教育会館で70人近い会員が参加して盛大に開催された。特に今回の総会は、関東地区のあらゆる分野で活躍されている会員の中で、その道の要職に就任された3氏の就任祝いも兼ねておたれ、沖縄からは、そのお祝いと激励に琉球大学からは砂川恵伸学長が多忙な職務をさいて出席され、同窓会本部からは、大城盛三前会長と比嘉正幸新会長、友寄賢吉新事務局長が出席した。

総会は、「琉大逍遙歌」の懐かしい曲をバックに稲葉賢治総務部長の司会で、先ず船越尚美元会長の開会のあいさつで始まり、次に国古眞正会長の会務報告を兼ねたあいさつがあり、決算、予算審議承認、規約の一部改正等が全会一致で承認され総会は終了した。引きつづき砂川学長の来賓あいさつと「琉球大学の近況」が報告され、続いて、今回のメインでもある宮里政玄獨協大学教授の記念講演で1部が終り、会場を隣りのホールに移し、第2部の懇親会に入った。会場は華やいだ雰囲気の中、比嘉正幸同窓会長の来賓あいさつの後、昇任された3氏の紹介とあいさつがあった。今度、千葉県弁護士会会長に就任した瑞慶山茂氏、国立歴史博物館の研究部長に就任した比嘉政夫氏、全国40万人の組織をもつ日本教職員組合の書記長に就任した渡久山長輝氏が、それぞれの抱負と決意を述べられ、出席者全員から大

きな拍手喝采を受けた。続いて会員の自己紹介や近況報告等があり、中でも、最近「チーチャンの沖縄戦」の本を出版された親里千鶴子さんの話は感動的であった。会も次第に盛り上がり、中島政彦さんのウチナー歌や、伊礼ケイ子さんの琉舞が披露されるなど、ホールは、沖縄一色に包まれ会員相互の近況や情報交換もなされ、会も終りに近づくと各自思い思いにグループに別れ記念写真を撮ったりして、名残りを惜しみつつ関東支部同窓会員の今後の活躍と強い絆を確認し合いながら、来年の総会での再会を誓い閉会となった。

関東支部新役員 (卒業年度)

支 部 長 国吉 真正(1961)
副支部長 渡久山長輝(1960) 新垣由紀子(1970)
会計部長 喜友名朝昭(1961)
会計監査 岸本 勲(1965) 親泊 安次(1987)
事務局長 稲葉 賢治(1986)
事務局次長 粕尾 宏明(1983)



▲来年も再会をと関東支部総会

企画部長	座安 盛弘(1967)	
総務部長	岩崎 敏夫(1987)	
幹 事	東 俊明(1971)	砂川 正幸(1976)
	横川 浩司(1985)	池田 豊(1988)
	高嶺 司(1991)	
顧 問	仲井真 格(1950)	員志堅興三郎(1951)
	船越 尚美(1954)	金城 良雄(1958)
	砂川 義信(1964)	

琉球大学キャンパス「首里の杜」に野外彫刻

琉大同窓会では、同会の顧問でもある安次富長昭教育学部教授の提案で、琉大キャンパス内の「首里の杜」に野外彫刻を設置することが、平成6年度の第1回評議員会で承認された。その主旨は、琉大構内には広い外部空間があり、そこに野外彫刻を設置することは、大学内のキャンパスに潤いのある景観を創出し、大学の環境整備計画の一環として寄与する事である。また、来年(1995年)は、琉大創立45周年にも当り、同窓会としても、形として残る野外彫刻を記念品として寄贈する事は、意義のあることで、制作経費として100万円を支出し、作品の完成は来年3月を予定している。企画・設計および景観調整は、安次富教授が担当し、製作は、教育学部の丸山映教授が担当することになり、その、最初の「の



み]入れ式が8月12日に、砂川学長、比嘉同窓会長、提案者の安次富教授、他関係者の立ち会う中、制作者の丸山教授が原石の一つにのみを入れて行われた。この模様は、琉球新報でも写真入りで紹介された。完成後の作品名は「なみ」で、作品としての価格は、1,000万円の大作である。

役員紹介

会長・副会長

(任期 平成6年7月1日～平成8年6月30日) *新役職及び新役員

役職	氏名	卒業		
		回数	年度	学 科
会長	*比嘉正幸	5	32	政治及び法学
副会長	石原昌弘	1	28	生 物
〃	*知念績一	3	30	生 物
〃	宜保美恵子	5	32	家 政
〃	金城名輝	7	34	経 済
〃	*喜屋武盛基	9	36	情報工学

評議員

評議員	氏名	回数	年度	学 科
〃	*森田恒勝	2	29	経 済
〃	松原清吉	2	29	国 文
〃	宮国義夫	3	30	政治及び法学
〃	平良善一	3	30	英 文
〃	嵩原安雄	3	30	教 育
〃	古謝瑞幸	4	31	畜 産
〃	新里邦明	4	31	農 学
〃	津留健二	4	31	政治及び法学
〃	*友寄賢吉	4	31	美術工芸
〃	中野清光	5	32	政治及び法学
〃	花城健治	6	33	生 物
〃	高山朝光	6	33	社会及び経済
〃	仲松弘一	6	33	英 文
〃	伊志嶺恵徹	7	34	法 政
〃	比嘉清一	7	34	経 済
〃	岸本金三	7	34	経 済
〃	赤嶺健治	8	35	英 文
〃	上原政英	8	35	畜 産

評議員	氏名	回数	年度	学 科
〃	嘉手苺喜郎	8	35	初 等 教 育
〃	與儀憲徳	8	35	英 文
〃	松本行雄	8	35	商 学
〃	神谷栄助	9	36	経 済
〃	野原広太郎	9	36	経 済
〃	*宮城武久	9	36	電気工学
〃	伊舎堂用八	10	37	史 学
〃	神谷泰治	10	37	美術工芸
〃	金城幸秀	10	37	農 学
〃	仲宗根幸男	11	38	生 物
〃	玉城真幸	12	39	社 会
〃	*羽地朝義	12	39	経 済
〃	*幸地貞子	12	39	化 学
〃	伊波修	14	41	商 学
〃	儀保博信	14	41	社 会
〃	竹越堅哲	14	41	法 政
〃	狩俣信子	15	42	法 政
〃	砂川寛昭	16	43	法 政
〃	*下里義弘	16	43	畜 産
〃	高嶺義包	17	44	商 学
〃	与儀典子	17	44	法 政
〃	上江洲 晃	18	45	地 理
〃	末吉洋子	18	45	家 政
〃	*入嵩西道子	18	45	教 育
〃	*垣花みち子	18	45	法 政
〃	松川洋明	19	46	法 政
〃	*石嶺伝一郎	20	47	商 学
〃	*西大八重子	20	47	家 政
〃	高嶺善伸	21	48	商 学

評議員	*砂辺 美智子	22	49	英 文
〃	新 城 修	26	53	土 木 工 学
〃	上 原 修	31	58	社 会

監査役

監査員	八 幡 繁 信	10	37	経 済
〃	*上 原 健 一	11	38	商 学
〃	*幸 地 啓 子	23	50	商 学

顧問

顧 問	和 気 政 雄	1	28	英 文
〃	富 永 元 順	2	29	政 治
〃	市 村 嘉 久	2	29	政 治
〃	安次富 長 昭	2	29	美 術 工 芸
〃	*大 城 盛 三	2	29	英 文

支部長

關 東 支部長	国 吉 眞 正	9	36	電 気 工 学
關 西 支部長	成 田 義 光	2	29	英 文
奄 美 支部長	治 井 文 茂	2	29	社 会
浦 添 支部長	上江洲 晃	18	45	地 理
那 覇 市 役 所支部長	野 原 広太郎	9	36	経 済
宮 古 支部長	嵩 原 安 雄	3	30	教 育
八 重 山 支部長	伊 舎 堂 用 八	10	37	史 学

事務局役員

事務局長	友 寄 賢 吉	3	30	美 術 工 芸
事務局次長	金 城 幸 秀	10	38	農 学
総務部長	儀 保 博 信	14	41	社 会
企画部長	垣 花 勝 行	19	46	法 政
会計長	渡 名 喜 一 夫	32	59	経 済



琉球大学

NO.13

同窓会 会報

平成7年3月20日



この写真は今年度（1994年）琉球大学同窓会関東支部総会（10月29日開催）の際、中島政彦から提供され、会場に展示された「思い出のアルバム」の中の写真である。

「なんの写真だろう？」と思われる読者が大多数だと思うが、40数年前、1952年（昭和27）演劇クラブにより公演された、劇「爆風」の舞台写真である。当時大好評？を得て地方公演（5カ所）もした作品であり、開学間もない頃のクラブ員の意気盛んな活動が感じられる。

舞台上手（右）から紹介すると、カドナ園子（旧姓伊是名）、中島政彦、岡田潤治、真壁みち子（旧姓湧川）、友利寛、比嘉清幸、伊狩典子（旧姓新垣：事務局勤務）の若き日の晴れ姿？である（敬称略）

（解説は本文8～9ページ）

目次

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ■同窓会便り……………2 | ■職場訪問(大同火災海上保険)…6～7 |
| ■同窓会支部便り……………2 | ■草創期の演劇クラブを語る……8～9 |
| ■恩師を訪ねて……………3 | ■学科同窓会紹介……………10～11 |
| ■県の新部長に9人……………4～5 | ■同窓会からのお願い、あとがき……12 |



琉球大学

NO.14

同窓会会報

平成7年11月23日



「護国寺の鐘」（複製）設置の由来

1854年の琉米修好条約の締結を機に、時の琉球王府からペリー提督に「護国寺の鐘」が贈呈された。そのペリー提督の遺言により、1858年に「護国寺の鐘」は米国アナポリスの海軍兵学校に寄贈され、1987年まで同校に保管された。一方、1960年（昭和35）、同校の「護国寺の鐘」の複製が米国から贈呈され、琉球大学の首里キャンパス（当時）に設置された。そして、同海軍兵学校の「護国寺の鐘」が琉大に設置された複製との交換で1987年（昭和62）沖縄県に返還され、県立博物館に保管されるに至った。次いで、1995年（平成7）に、返還された「護国寺の鐘」から新たに鐘が鋳造されたので、琉大キャンパス内に鐘楼を建設し保存された。鐘は高さが102cm、口径が62.3cm、重量が220kgで、屋根の面を「そり破風」にし、沖縄在来の瓦を使用したところに特徴がある。また、軒先瓦には琉球大学の学章が刻まれている。（千原キャンパス事務局棟前）

目次

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ■同窓会便り…………… 2～3 | ■特別寄稿 |
| ■同窓会支部便り…………… 4 | （赤嶺健治短大部教授）…………… 8～9 |
| ■学内ニュース・情報コーナー…………… 5 | ■あの時・あの師・あの友…………… 9 |
| ■インタビュー…………… 6 | ■職場訪問……………10～11 |
| （参議院議員 照屋寛徳氏） | （J A沖縄中央会・J A沖縄経済連） |
| ■恩師を訪ねて…………… 7 | ■同窓会からのお願い、あとがき……………12 |



琉球大学

NO.15

同窓会会報

平成8年3月20日



開学記念日時計の除幕式の様子

〈琉球大学短期大学部、30年の歴史に幕〉

1966年10月に併設された短期大学部が、この3月に閉学となり、30年の歴史の幕を閉じた。3月14日の午後3時30分からは閉学記念式典が行なわれ、同窓会も支援して実現した日時計の除幕式、閉学記念パーティーと続いた。記念式典のなかで砂川恵伸学長は「開学以来4550余人の卒業生を世に送りだしてきたが、急速な社会変化に伴い、30年の歴史に幕を閉じることになり感慨深いものがある。しかし、琉球大学の発展に繋がっているものと確信している。」と述べた。同学部は、平成8年3月31日をもって閉学する。

目次

- | | | | |
|----------------------------|-----|------------------------------|-------|
| ■同窓会便り…………… | 2 | ■あの師あの時あの友…………… | 10 |
| ■同窓会支部便り…………… | 3 | ■恩師を訪ねて…………… | 11 |
| ■学内ニュース情報コーナー…………… | 4 | ■サークル紹介…………… | 12 |
| ■特別寄稿
(安次富長昭琉大同窓会顧問) …… | 5 | ■学科同窓会紹介…………… | 12 |
| ■インタビュー
(芥川賞作家又吉栄喜氏) …… | 6～7 | ■職場訪問
(JA沖縄信連・JA沖縄共済連) …… | 14～15 |
| ■東西南北(八重山、宮古から) …… | 8～9 | ■あとがき…………… | 16 |

同窓会支部便り

奄美大島分校より

『全国同窓会で新たな出発』

琉球大学大島分校同窓会

事務局長 大津 幸夫

(1952年琉大大島分校入学)

「39年目の琉大終了式」で生涯の感激にひたった同窓生が、是非全国同窓会を開催しようと決定したのは、終了式が挙行された平成4年12月19日であります。それから2年余の準備期間をおいて遂に、平成7年10月27日に鹿児島で全国同窓会を成功させることができました。その裏方をやってくれたのが鹿児島市在住の同窓生の方々に、会場の予約、交通案内などすべてを実践してくれました。事務局は当日の資料づくりと会員への連絡を担当し、盛大に終了することができ喜びにたえません。平成6年3月で公職についていた多くの者が60歳の定年で退職し、第2の人生を踏み出した直後でもあり、卒業後30数年ぶりに再開を果たした喜びに、温泉ホテル江口荘は一晩中、在りし日の青春時代に帰り、昔話に花を咲かせました。

会員48名の内、東京、大阪、沖縄、奄美から合わせて38名が参加し、恩師である真田島国夫先生夫妻と岡元米子事務官も参加され激励を頂き、白髪の同

窓生は感動でいっぱいでありました。山田薫琉大大島分校同窓会長の挨拶で開会し、亡師亡友への黙祷、経過報告、恩師真田島先生の挨拶に続いて、本部の比嘉正幸同窓会会長と砂川恵伸学長からのメッセージを披露して開宴になりました。比嘉会長と砂川学長のメッセージのおかげで参加した会員全員が、琉大同窓会の一員としての自覚と誇りをもう一度かみしめ、一層連帯感を強める事ができたことに心から感謝申し上げたいと思います。今後、今回の全国同窓会を継続することが確認され、第2回全国同窓会を平成10年、沖縄で開催し母校である琉大への表敬訪問も行なうことが決定されました。

翌日は貸切りバスで、同窓会開催の直前に故人となられた西武臣先生の眠る谷山墓地に行き、西サト夫人と共に墓参できたことは、何よりのはなむけになったことと思います。

人生80年の時代です。これからも健康に気を付け、



H.7.12.27琉大教育学部大島分校同窓会

「元気！元気！」を合言葉に、平成10年の再会を誓い閉会しました。

同窓会本部でメッセージの送付と、諸連絡にご尽力頂いた友寄事務局長に心からお礼を申し上げ筆を止めさせていただきます。

特別 寄稿

新しいエンチュの時代へ

安次富長 昭

沖縄ではねずみのことをエンチュと言う。私は琉球大学に四十六年間も住み着いている古エンチュである。

私は1950（昭和25）年、琉球大学創立の時、応用学芸部芸術科（現教育学部美術工芸科）に入学した。当時の沖縄は「鉄の暴風」が止み、灰燼の中からやっと立ち上がったばかりで大変な窮乏の時代であった。喜び勇んで入学した本学は、赤瓦葺きの木造校舎が本館（事務局と講堂）を中心にして七、八棟並んでいるだけであった。なかには未完成の校舎もあり、教室には机や椅子もなかったので入学後二カ年位はその製作と学内整備作業に追われて勉強どころではなかった。当時は授業料も支払う必要もない上に、労務賃として時給四円（米軍軍票のB円）を大学から支給されていたので、まるで大学に労務で請われているようなものであった。因みに、教官の賃金は教授、助教授、講師の区別なく、一律に時給16円50銭であった。いま考えると実に面白い時代である。

首里城址に集まったエンチュ達が知恵をしぼりながら、無から有を生ずるような大学づくりをしているとき、本土から大評論家先生が来学して「8ミリ大学」と言われたが、どうせ「エンチュの大学」だから8ミリでもよいと頑張った。創立の時14名いた芸術科の入学生は、1954年卒業の時には半数の7名に減っていた。在学途中で本土や米国の留学で出ていった学生が多かったからである。専門職の採用のすくなかった当時、私は幸いにも大学キャンパス内にあった米国民政府情報教育部展示課に監督官（主

任デザイナー）として採用されたので、卒業後も常に学科に行き来できたし、後輩の学生たちも私の職場で印刷実習などをさせることができた。そのために卒業して大学を出ていったという感じは薄かった。1958（昭和33）年に学科で構成（現デザイン）の教官が必要となり、私はその担当講師として再び学科に戻ることになった。以来、現ポストにいる。



安次富長昭 教授

気がつく、琉球大学創立のとき入学して以来キャンパスの中で四十六年も過ごしており、研修や出張等で出た以外全く外に住んだことのない「古エンチュ」になっていた。おかげで、大学の変遷を全てこの目で見てきた。米軍布令大学から琉球政府立大学へ、そして沖縄の本土復帰にともない国立大学に移行して現在に至ったその流れの中で、前半は大変な激動の時代であった。沖縄の復帰前後の頃は紛争で学園が荒らされたこともあるが、大学は理性を失うことなく、常に新しい創造に向かって努力してきた。それが今日みられるように、かつての8ミリ大学は国立大学の中で4番目に広いキャンパスへ発展し、大学の自治と自由を守り育て、独自の伝統を築いてきた。今年新しいねずみ（子）年を迎えて、私ども古エンチュはここいらで新しいエンチュに琉球大学伝統のバトンを手渡したい。

（1996年1月15日記 琉球大学同窓会顧問）



琉球大学

NO.16

同窓会会報

平成8年10月30日



一枚の写真から

1955年9月、記念運動場(現守礼門のそばの駐車場)にて

若き野武士たち

1955年の琉大排球部

前列(座っている側) 向かって右より 宜保栄次郎(体育)、比嘉秀善(農学)、金城宏武(体育)、運天政智(体育)
後列(立っている側) 向かって右より 奈良井正司(林学)、糸満清(法政)、宇地原徳淳(体育)、城間辰巳(体育)、
比嘉敏雄(体育)、久場長哲(体育) (写真提供:比嘉秀善 関連記事5頁)

目次

- 事務局便り……………2
- 学長就退任激励会……………3
- 同窓会支部便り……………4
- あの時、あの師、あの友……………5
- 東西南北
(遙かなるアトランタより)……………6
- 恩師を訪ねて
(砂川前学長インタビュー)……………7
- 私の研究(北山高校 大城勝)……………8
- 特別インタビュー
(アイラナ・レコード 矢野憲治)……………9
- 職場訪問
(沖縄テレビ放送(株))……………10~12
- 学内サークル紹介
(硬式野球部)……………12
- 同窓会役員紹介……………13~15
- 同窓会からのお願い……………16
- あとがき……………16

桂 新学長も出席し会員を激励。

関西支部の平成8年度の定期総会が、去る7月7日午後7時から大阪市大正区の沖縄料理店「おもろ」で開催され、関西地域の同窓会員が多数参加した。

今年は特に開催日を8月から夏休み前の7月初旬にしたことで、例年より出席率も高く会場の2階に同窓生がはみ出るほどの盛会であった。

おなじみの同窓や今回初めて参加した同窓もあり、毎年女性や若い同窓の参加者が増える傾向にあるとのこと。来賓として大学側からは、桂幸昭新学長と庶務課の平良勉課長補佐が招かれ、同窓会本部からは副会長の宜保美恵子琉大教授、友寄



賢吉事務局長が、本部と支部の連携強化と事務連絡を兼ねて出席した。

総会は今村毅事務局長の司会で進行し、山城賢孝副会長の開会宣言に続いて成田義光会長（関西学院大学教授）のあいさつの後、議事に入り会務報告、決算報告、平成8年度の事業計画、予算案が審議承認された。

続く懇親会では、まず成田支部会長の歓迎のあいさつ、続いて桂琉大学長の就任あいさつがあり、その後琉大の現況と課題についての報告がなされた。宜保同窓会副会長は同窓会活動の現況と今後の本部と支部との連携協力について連帯のあいさつを行った。

その後は自由懇談となり、参加者はそれぞれ自己紹介や情報交換等なつかしい学生時代を偲んだ。琉球料理や泡盛を楽しみ、会員相互の連帯と友情を確認し、最後は全員でスクラムを組んで「道遠歌」を高らかに合唱、来年の再会を約束して懇親会は終了した。



恩師を
訪ねて

大学生生活40年にピリオド！ 大手をふって同窓会の仲間入り。

砂川恵伸先生

那覇市首里石嶺町の住宅は、存外、わけもなく訪ねることができた。筆者は勿論初めての訪問であるが、電話での主（あるじ）の教え方がいいのだ、と勝手に感心する。

「大学との縁はちょうど40年になります。教官になったのが1957年4月、学長退任が今年の5月ですので39年と2ヵ月。その以前に琉大が創立して第一期入学生として10ヵ月間在籍しましたので合わせて40年です。学長退任を契機に同窓会の終身会費も納めましたので、これからは大手を振って同窓会の仲間入りができます。」

砂川恵伸前学長をお訪ねした。いかにも砂川先生らしい律儀さ、またまた、感心しきりの筆者、かつての単位保留学生である。

同窓会の組織づくりや諸活動に対する砂川先生の良きご理解とご尽力は、同窓会役員が等しく認めるところである。2期6年の学長在任中に関西支部や八重山支部が結成されると、同窓会役員とともに現地にかけていく程の熱の入れようであった。「琉大には九州出身者が最も多いのに、まだ支部結成を見ないのが心残りです」と支部結成を待ち望む。

「大学は温故知新、その歴史をふりかえりながら、未来へ飛躍するものでなければならないと考え



ていたので、同窓会との連携、協力を大切にしたい」と語る。同窓会では、これまで「首里の杜」、「開学の鐘」など往時を偲ぶよすがを復元してきた。その中で旧首里城キャンパスの「琉球大学跡」の碑と那覇市与儀の「医学部跡」の碑と現キャンパスの短大部閉学記念モニュメント「向学ノモン」は、砂川先生の揮毫によるものだ。「今の若い人たちに琉大の歴史

を目にふれる形でわかってもらえるいいモニュメントになるでしょう。同窓会のおかげです」と、同窓会への気配りも忘れない。

「学生と直に接していた頃がいちばん良かったと思う反面、学長職もそれなりに得がたい人生経験であったと思う。人生のプラス、マイナスは一概に判じられない」の言葉は、体験を通じた先生の人生哲学なのか、先生の一言一言に感じ入った次第。

学長職の激務を離れて5ヵ月。いまだ生活のリズムがままならないと話される砂川先生だが、残務整理のダンボール箱が所狭しとならべられている自宅で、「嫁夫婦との二世帯住宅を建築中です」とこれからの生活設計を口にされる。趣味の書道で「書遊会」の月例出品に新しい生活リズムを見つける計画を楽しそうに話されるそのお顔は、筆者の学生の頃の青年教官そのままである。ますますのご健祥を祈念する。（文責 西江弘孝）

役員紹介

●会長・副会長

(任期・平成8年7月1日～平成10年6月30日) *は新役職および新役員

役職	氏名	卒業		
		回数	年度	学 科
会長	比嘉正幸	5	32	政治及び法学
副会長	石原昌弘	1	28	教 育
◇	知念 績一	3	30	生 物
◇	宜保美恵子	5	32	家 政
◇	金城名輝	7	34	経 済
◇	喜屋武盛基	9	36	情報工学
事務局長	友寄賢吉	4	31	美術工芸

●評議員

評議員	氏名	回数	年度	学 科
	森田恒勝	2	29	経 済
◇	宮国義夫	3	30	政治及び法学
◇	平良善一	3	30	英 文
◇	嵩原安雄	3	30	教 育
◇	新里邦明	4	31	農 学
◇	津留健二	4	31	政治及び法学
◇	中野清光	5	32	政治及び法学
◇	花城健治	6	33	生 物
◇	高山朝光	6	33	社会及び経済
◇	仲松弘一	6	33	英 文
◇	比嘉清一	7	34	経 済
◇	岸本金三	7	34	経 済
◇	赤嶺健治	8	35	英 文
◇	上原政英	8	35	畜 産
◇	嘉手苺喜郎	8	35	初 等 教 育
◇	奥儀憲徳	8	35	英 文
◇	垣花武信	8	35	農 工

評議員	神谷栄助	9	36	経 済
◇	宮城武久	9	36	電 気 工 学
◇	*仲門勇市	9	36	法 政
◇	*謝敷正雄	9	36	教 育
◇	伊舎堂用八	10	37	史 学
◇	神山泰治	10	37	美 術 工 芸
◇	*城間 進	12	39	英 文
◇	羽地朝義	12	39	経 済
◇	幸地貞子	12	39	化 学
◇	*新垣安雄	13	40	美 術 工 芸
◇	*喜久村 準	13	40	法 政
◇	儀保博信	14	41	社 会
◇	竹越 堅哲	14	41	法 政
◇	*山田義浩	14	41	土 木
◇	狩俣信子	15	42	法 政
◇	*志良堂清治	15	42	商 学
◇	下里義弘	16	43	畜 産
◇	高嶺善包	17	44	商 学
◇	*新城秀勝	17	44	法 政
◇	入嵩西道子	18	45	教 育
◇	垣花みち子	18	45	法 政
◇	松川洋明	19	46	法 政
◇	*宮平真孝	19	46	農 学
◇	*長浜みつ子	19	46	法 政
◇	*上地 弘	19	46	美 術 工 芸
◇	*新垣美栄子	19	46	教 育
◇	石嶺伝一郎	20	47	商 学
◇	西大八重子	20	47	家 政
◇	*比嘉京子	22	49	家 政

評議員	シャイエステ 榮子	26	53	教 育
◇	新 城 修	26	53	土 木 工 学
◇	上 原 修	31	58	社 会

●監査役

監査員	八 幡 繁 信	10	37	経 済
◇	上 原 健 一	11	38	商 学
◇	幸 地 啓 子	23	50	商 学

●顧 問

顧問	和 気 政 雄	1	28	英 文
◇	富 永 元 順	2	29	政 治
◇	市 村 嘉 久	2	29	政 治
◇	安次富 長 昭	2	29	美 術 工 芸
◇	大 城 盛 三	2	29	英 文

●支部長

関東支部長	国 吉 眞 正	9	36	電 気 工 学
関西支部長	成 田 義 光	2	29	英 文
奄美支部長	山 田 薫		29	教 育
龍崎支部長	松 川 洋 明	19	46	法 政
藤崎支部長	山 田 義 浩	14	41	土 木
宮古支部長	嵩 原 安 雄	3	30	教 育
八重山支部長	伊 舎 堂 用 八	10	37	史 学

●事務局役員

事務局長	友 寄 賢 吉	4	31	美 術 工 芸
事務局次長	金 城 幸 秀	10	37	農 学
総務部長	儀 保 博 信	14	41	社 会
企画部長	垣 花 勝 行	19	46	法 政
会計長	渡 名 喜 一 夫	32	59	経 済
事務局書記	與 那 城 政 子			



琉球大学

NO.17

同窓会会報

平成9年3月20日



一枚の写真から

写真は1965年9月24日から26日まで琉大与那演習林で開催された学生部主催（民主教育協会後援）によるリーダーシップセミナー参加者の面々 以降9頁に続く。

目次

■事務局便り

- 第25回沖縄寮歌祭……………2
- 11年ぶりに会員名簿改訂へ……………3
- 課外活動奨励金贈呈式……………4

■同窓会支部便り

- 奄美支部……………5

■インタビュー

- 桂琉大学長に聞く……………6

■東西南北

- 「龍槌の会」とはこれ如何に……………7

■私の研究

- 琉球芸能ロボットを目指して……………8

■あの時、あの師、あの友

- 表紙写真説明……………9

■職場訪問……………10～14

- (株)ラジオ沖縄……………10～11
- 琉球放送(株)……………13～14

■インフォメーション……………15

- 退官される恩師
- 学科同窓会紹介

■同窓会からのお願い……………16

■あとがき……………16



琉球大学

NO.18

同窓会会報

平成9年11月20日



「林立する学寮」

収容定員は、男子寮550名、女子寮230名。居室は3坪弱の個室になっていて、洗濯場やシャワー室、補食室(食堂)は共用である。必要経費(月額)は寄宿料3,000円、維持費4,000円(ただし、混住型棟は8,400円)、電気料約1,300円である。希望者が多く入居率は約7割で、入寮できずに民間のアパート(家賃は、1DKで約35,000円)に入居している学生も多い。

目次

- 事務局便り
 - 第3回評議員会の開催……………2
 - 平成9年度定期総会・懇親会……………2
 - 平成8年度決算、平成9年度事業計画・予算…3
- 同窓会支部便り
 - 関東支部……………4
 - 関西支部……………5
- 東西南北
 - 自分を磨くフィールドへ～東京から…6
- インタビュー
 - マーチングの輪が国際親善・世界平和に貢献…7～8
- キャンパスを訪ねて……………9～10
- 私の研究
 - 文学碑探訪30年……………10～11
- 職場訪問
 - 金秀グループ……………12～14
- インフォメーション
 - 同窓から二人目の芥川賞作家誕生…14
 - 学科同窓会紹介……………15
- 同窓会からのお願い……………16
- あとがき……………16



琉球大学

NO.19

同窓会会報

平成10年3月20日



医学部・同附属病院

琉球大学医学部は、これまでに医学科1,138名、保健学科1,495名の卒業生を送り出し、県内外の医療現場で活躍している。附属病院は病床数600床で、平成6年8月から特定機能病院となり、高度先進医療の担い手となっている。なお、何時いかなる時でも患者さんの望むすべての緊急治療に携わっている。

目次

- 卒業・修了を祝う…………… 2
- 琉球大学開学50周年記念事業への協力体制について…………… 3
- 事務局便り
 - 沖縄寮歌祭…………… 4
 - 評議員会…………… 4
- インタビュー
 - 山内徳信出納長に聞く…………… 5
- あの時、あの師あの友
 - 青春の証としての「置時計」…………… 6
- 東西南北
 - 首里城跡での思い出…………… 7～8
- インフォメーション
 - 退官される恩師…………… 9
 - サークル紹介…………… 9
- 職場訪問
 - 浦添市役所…………… 10～11
- 同窓会事務局からのお願い…………… 12
- あとがき…………… 12



「古城のほたり、雲はれて、世紀の鐘のなりひびき・・・」
第4代学長鳥袋俊一（寂鳥）先生が初代農学部長ご在任中に作詞、仲本朝教先生作曲の「開学祝歌」の一節である。学内で披露されたのは、開学の

翌年、琉球列島内はもちろん、日本政府、本土大学等からの代表の方々が臨席され、1951年5月22日に盛大に挙行された開学式典であった。1949年本土では、6-3-3-4の新学制により、各都道府県に168大学（国立70、公立17、私立81）が設置されていた。一年遅れて、米国の施政権下にある沖縄に、県民が久しく待望していた高等機関、琉球大学が設置されたのである。府令による大学とはいえ、苦しい戦争に耐え抜いた先達、戦前海外へ移民された郷土の先輩、勉学の継続に情熱を燃やしていた若人等、住民パワーの熱意の賜だと思ふ。本土政府の1県1大学設置の原則からすれば、当然沖縄県にも教員養成学部を含む新制大学が設置されたであろうと推察されるものの1972年の復帰までの22年の期間ははたしてどうなったであろうか。

琉球大学は、開学以来沖縄の本土復帰まで独特の歩みをしたと思ふ。歴代学長、学部長方の大学の整備充実プログラムの推進には、並々ならぬものがあつたと思ふ。ミシガン州立大学顧問教授団との調整・意見交

換、本土各大学からの招聘教授、教員の国内（本土）留学、教職員の米国研修留学等々、もちろんハード面の整備も着々と推進された。毎日が、前進の日々であったと記憶に残っている。一面、開学当初、入学した学友が、契約学生（日本留学）や米国留学とキャンパスから姿を消していくのは、一抹の淋しさを感じた。しかし、教室では真剣そのものであつた。英文学科では、胡屋教授のシェイクスピア文学、スピードの早い平良教授の米国文学、鳥袋（裕）教授の愉快な講義、選択科目としてとつた柏木先生、ターナー先生の英文タイプ実習等を思い出す。ときどき書齋で当時の教材をめくり懐かしむことがある。

私は、第1期生として卒業後、母校琉大の教務部に学生主事補として採用され、学生部及び事務局勤務を経て、国立大学移管後は、異動官職ということで、大阪教育大学、熊本大学、京都大学、再び琉球大学と35年間の国家公務員生活を終え、文部省の外郭団体である日本国際教育協会の関西留学生会館で6年の任期を満了し、現在私立大学に勤務している。大学行政事務という仕事を続け、いつの間にか45年が過ぎ去つた。この間、母校であり、また20余年勤務した琉大での思い出は格別である。首里城跡での思い出は、枚挙に暇なしである。行政部局の職員として、理事会時代（布令立大学）、大学委員会時代（琉球政府立大学）、そして本土復帰による文部省所管（国立大学）を通じて、

大学行政事務に関与できたことは、他では得られない貴重な経験であり、心から良かったと思っている。

最も印象に残っている一つは、事務局勤務時代の国立大学移管業務である。学内では、国立大学への移管に備えて各種委員会が設置され、学長先生を先頭に、いかにして「琉大が理想とする国立大学」にするか、文字どおり昼夜にわたり論議された。各委員会の審議と併行して事務局でも、今は亡き真栄城事務局長をキャップに、学部学科、カリキュラムの編成、教職員の定員、資格審査等の資料を作成した。当時、事務局には、計画的に採用された琉大卒業の極めて優秀な職員が多数おり、口角泡を飛ばす論議がなされた。移管では学部学科、カリキュラム編成、教員の資格、教職員定員は、一番の重要事項であった。

文部省における琉大のある学科のカリキュラム編成、その担当教員の資格審査の委員会でのことであるが、審査の対象になる大学の職員は出席できないにも拘らず、特例として、琉大の国立移管業務担当職員として出席させられたことがある。委員の一人から琉大について細かい質問が出た。担当事務官が少し戸惑い、「実は琉大の復帰事務担当職員を特別に出席させている」ということで、委員長は「それを冒頭にいって貰えば審議も早く進められたのに」と。委員長は移管前に招聘教授として来沖され、琉大を熟知されておられた一橋大学のI教授であった。

大学の名称も話題になった。国立大学移管業務について文部省の大学学術局長に説明する高良学長に随行した時のことである。大学学術局長は、おもむろに「国立大学としての名称は琉球大学のままでよいのですね」と学長に問われた。私は沖縄の歴史上のことも考慮されての事だと思った。高良学長は、琉大の総意である「国立琉球大学」について、例の特徴ある抑揚で滔々と話された。今でも私達同窓生が誇りにしてい

る母校名のエピソードである。

学部・学科、カリキュラム編成、事務局の組織、当時の学長、事務局長の押しの一手はもちろん、文部省の最南端の国立大学設置の政策、琉球政府の接渉で、ほとんど琉大案のとおり早めに解決した。

第1回卒業生は、29名であった。胡屋学長から1人1人に卒業証書が授与された。卒業式の状況、卒業生の記念写真は、アメリカの報道機関によって地元はもちろん、国内外に報道された。かつて故知念朝功先生から「君達、琉大一期の卒業生の記念写真は、アメリカの公文書館にも保存されている」とお聞きしたことがある。私自身米国留学時代に訪ねてみたいと思っていたが、その機会はなかった。

今、我が国の大学では大学改革と自己点検及び評価が叫ばれている。夫々の項目の中には復帰前の琉球大学で実際行っていたことが多く含まれている。教育研究の場である大学社会では、その活性化について、検討がなされている。現在国立大98、公立大57、私立大431、放送大学1の計587大学の中で母校琉球大学は急上昇中である。母校琉球大学は、間もなく創立50周年を迎える。4万余名の同窓生は国内もちろん、世界に羽ばたいている。母校琉球大学に栄あれ。

(平成10.2.25記)

松村圭三（第1期卒、68歳、京都府宇治市在住）
琉大庶務部長、大阪教育大学庶務部長、熊本大学学生次長、京都大学庶務部長、S.60年～S.63年琉大事務局長、S.63年～H.6年(財)日本国際教育協会関西留学生会館長、H.6～現在鈴鹿医療科学技術大学事務局長。



琉球大学

第20号

同窓会会報

平成10年11月20日



①本学本館(現首里城正殿) ②農家政ビル ③工芸ビル ④木造平屋教室(7棟) ⑤男子寮(現県立芸術大学) ⑥放射型の中庭 ⑦ミシガンビル
⑧志高屋記念図書館(建設中) ⑨女子寮 ⑩龍潭池 ⑪教官の官舎

1955(昭和30)年初夏の琉球大学

1950(昭和25)年開学した(米国施政権下)琉球大学(現首里城)。キャンパスは狭く、物の乏しい時代ではあったが、キャンパスや木造瓦葺き平屋教室の中は、学生の青春の情熱と意欲で満ち溢れ、暖かみのある薫り豊かな場であった。(石原 昌弘)

目次

■事務局便り

- 平成10年度定期総会……………2
- 同窓会支部長会……………2
- 平成9年度決算・平成10年度事業計画 ……2~3
- 50周年記念事業への取組……………4

■同窓会支部便り

- 関西支部……………5
- 琉球大学大島分校……………5

■東西南北

- 切手にとりあげられた琉大……………6

- 南の島、黒島に豊かな牧場の夢のせて…7

■会報20号特集

- 写真でみる会報……………9
- 思い出……………10
- 求む声……………12

■インフォメーション

- 開学50周年募金第1号……………13
- 課外活動援助金贈呈式……………13

■同窓会役員紹介……………14

■同窓会事務局からのお願い……………16

琉球大学開学50周年記念シンボル

琉球大学開学50周年記念シンボル 「開学の鐘」の説明

中央に吊されたものは開学と同時に使用されたガスボンベの時鐘で、「開学の鐘」として琉球大学開学の歴史的象徴である。それを支える2本の柱の碁盤目の土台は、縦の5つの線が50周年、横の12の線は6つの学部と6つの大学院研究科を意味し、鐘の中央の点と円は世界の5大州を表し、「開学の鐘」の音の響きが5つの輪として広がり全世界に伝わるという琉球大学の存在を象徴している。



50周年の節目に同窓会会員の積極的な協力を

琉球大学開学50周年記念事業募金推進本部同窓会部会部会長 岸本 金三



わが母校琉球大学は、平成12年(西暦2000年)に開学50周年を迎えます。1950年、布令立大学として開学以来、琉球政府立大学、国立大学と組織の変遷を重ねながら、地域の最高学府とし

てあらゆる分野で優秀な人材を輩出し、沖縄の発展、ひいては日本の発展にも大きく貢献してきました。私は同窓生として誇りに思うばかりでなく、今後の母校の発展に期待するものであります。

前回の会報でもお伝えしましたが、現在、開学50周年に向けて大学、琉大後援財団、そして同窓会が一丸となって記念事業に取り組んでおります。それぞれの記念事業は、どれも母校琉大の今後の発展に欠くことの出来ない重要な事業であり、50年に一度の大変意義深いものです。この事業には多額の経費が見込まれており、厳しい景気の沈滞ムードのなか募金によって資金を捻出する計画となっております。しかし私は、私たち同窓会が、率先して募金活動を推進すれば必ず成功するものと信じております。

50年に一度の大事業ですから、私をはじめ多く

の皆さんは、次の50年の節目100周年では協力できないかもしれません。この事を重く受け止め、同窓会が牽引者となって、開学50周年記念事業を成功させ、わが母校が、21世紀へ向けた人材育成と高等教育機関としての優れた教育研究の推進、地域に根ざした大学として躍進することを願わずにはられません。

最後に、記念事業の成功は、同窓会員の皆さん一人ひとりのご協力なくしてはあり得ません。皆さんの積極的なご協力をお願い致します。

琉球大学50周年記念事業

1. 記念誌・写真集の発行
2. モニュメントの建設(記念会館)
琉球大学の資料等の展示室など多目的・機能的な建物を、同窓会員をはじめ教職員及び学生の教育・研究の充実のために供する
3. 国際交流奨励事業・教育研究奨励事業の拡充
 - (1) 国際交流奨励事業
 - (2) 教育研究奨励事業及び奨学事業

琉球大学同窓会役員・支部・事務局一覧表

役職	氏名	卒業(期・年・学科)		
会長	比嘉正幸	5	32	政治及び法学
副会長	石原昌弘	1	28	教 育
	知念績一	3	30	生 物
	宜保美恵子	5	32	家 政
	金城名輝	7	34	経 済
	喜屋武盛基	9	36	情 報 工 学
顧問	和気政雄	1	28	英 文
	富永元順	2	29	政 治
	市村嘉久	2	29	政 治
	安次富長昭	2	29	美 術 工 芸
	大城盛三	2	29	英 文
監査員	*金城謙介	10	37	経 済
	上原健一	11	38	商 学
	幸地啓子	23	50	商 学
評議員	森田恒勝	2	29	経 済
	宮国義夫	3	30	政治及び法学
	平良善一	3	30	英 文
	嵩原安雄	3	30	教 育
	友寄賢吉	4	31	美 術 工 芸
	津留健二	4	31	政治及び法学
	中野清光	5	32	政治及び法学
	花城健治	6	33	生 物
	高山朝光	6	33	社会及び経済
	*喜納安武	6	33	英 文
	比嘉清一	7	34	経 済
	岸本金三	7	34	経 済
	*宇垣和美	7	34	初 等 教 育
	*大宜見良子	7	34	音 楽
	赤嶺健治	8	35	英 文
	上原政英	8	35	畜 産
	嘉手苺喜郎	8	35	初 等 教 育
	奥儀憲徳	8	35	英 文
	宮城武久	9	36	電 気 工 学
	謝敷正雄	9	36	教 育
	伊舎堂用八	10	37	史 学
	神山泰治	10	37	美 術 工 芸
	東恩納盛勝	10	37	教 育
	*真栄田義勝	11	38	地 理
	城間 進	12	39	英 文
	羽地朝義	12	39	経 済
幸地貞子	12	39	化 学	

は削除しました。
個人情報保護のため職場・電話番号

役職	氏名	卒業(期・年・学科)			
評 議 員	喜久村 準	13	40	法	政
	[※] 儀 間 一 恵	13	40	国	文
	儀 保 博 信	14	41	社	会
	竹 越 堅 哲	14	41	法	政
	山 田 義 浩	14	41	土	木
	狩 俣 信 子	15	42	法	政
	志良堂 清 治	15	42	商	学
	[※] 黒 木 美 智	15	42	商	学
	下 里 義 弘	16	43	畜	産
	高 嶺 善 包	17	44	商	学
	入嵩西 道 子	18	45	教	育
	垣 花 みち子	18	45	法	政
	[※] 外 間 正 典	18	45	経	済
	松 川 洋 明	19	46	法	政
	上 地 弘	19	46	美 術 工 芸	
	新 垣 美 栄子	19	46	教	育
	[※] 当 山 尚 幸	19	46	法	政
	石 嶺 伝一郎	20	47	商	学
	西 大 八重子	20	47	家	政
	[※] 上 原 正 信	21	48	農	学
比 嘉 京 子	22	49	家	政	
新 城 修	26	53	土 木 工 学		
上 原 修	31	58	社	会	
支 部	支 部	支 部 長		卒 業 (期 ・ 年 ・ 学 科)	
	関 東 支 部	國 吉 眞 正	9	36	農 政 ・ 電 工
	関 西 支 部	成 田 義 光	2	29	語 学 ・ 英 文
	奄 美 支 部	山 田 薫	2	29	教 育 ・ 教 養
	宮 古 支 部	嵩 原 安 雄	3	30	教 育 ・ 教 育
八 重 山 支 部	伊 舎 堂 用 八	10	37	文 理 ・ 史 学	
事 務 局	事 務 局 長	友 寄 賢 吉	事務局長連絡先(支部)		
	事 務 局 次 長	金 城 幸 秀	関 東	喜 友 名 朝 昭	
	総 務 部 長	儀 保 博 信	関 西	小 渡 照 生	
	企 画 部 長	垣 花 勝 行	奄 美	平 田 宏 尚	
	名 簿 ・ 総 括	友 利 徹 男	宮 古	親 泊 宗 二	
	会 計 長	渡 名 喜 一 夫	八 重 山	糸 沢 長 章	
書 記	與 那 城 政 子				
*新役員		本部事務局 〒903-0213 沖縄県西原町字千原1番地 琉球大学内 電話 895-8039(直) 895-2221(代)内線2012			
任 期 平成10年7月1日～平成12年6月30日					

個人情報保護のため職場・電話番号は削除しました。



琉球大学

第21号

同窓会会報

平成11年3月20日

首里の琉大本館 ▶
(現在の首里城正殿)
(1950年頃)



◀ 首里の琉大キャンパス
左側は志喜屋図書館
正面に本館が見える
(1950年代)

写真提供：沖縄テレビ放送株式会社
津嘉山 珍勝

目次

■事務局便り

- 開学50周年に向けて記者会見 ……2
- チャリティーゴルフ大会 ……2
- 大口募金第2号 ……3
- 第27回沖縄寮歌祭 ……3

■奇稿

- わが琉球大学男子寮の思い出 ……4
- 歴代総代が語る琉大の思い出 ……5

■シリーズ職場訪問

- 宜野湾市役所 ……8

■特別企画

- 歴代同窓会会長座談会 前編 ……10

■インフォメーション

- 選官される恩師
- 琉球大学から写真提供のお願い

■同窓会事務局からのお願い ……16

母校の50周年にあたって

琉球大学は、西暦2000年に50周年を迎えます。そこで同窓会では歴代同窓会会長

～歴代同窓会会長座談会～ 前編

の諸先輩方を招いて、「母校の50周年にあたって」というテーマで座談会を企画し、開催しました。座談会の最初のテーマは「学生時代を振り返って」という学生時代の思い出について、2番目のテーマは「私と琉大」という卒業後の琉大との関わりについて、3番目に「母校及び在校生に望むこと」についてそれぞれ語っていただきました。今号と次号(22号)に掲載し、同窓の皆さんに紹介します。

琉大座談会

参加者：和氣政雄(初代同窓会長)、富永元順(2、4代目会長)、安次富長昭(5代目会長)、大城盛三(6代目会長)、比嘉正幸(現同窓会長)、金城幸秀(事務局次長：司会)
場所：八汐荘

金城

母校琉球大学も来年2000年には開学50周年を迎えます。そこで今日は、歴代同窓会長(現顧問)の皆様にお集まりいただき、母校琉大50年について大いに語っていただきたいと考えております。

やりたくなかった学生会長

早速ですが、まず「学生時代を振り返って」ということで、長幼の序ということから和氣先生お願いします。

和氣

来年は、琉大が創立して50年目、50周年ということちょっとニュアンスが違いますが、その前の1947～8年頃から志喜屋県知事を始め、沖縄の有識者の間から高等専門教育機関、大学を設置しようとの機運が高まり、占領下でありながら民政府に陳情されたそうです。当時教官も高等教育有資格教員が少なかった。入学は1年生と2年生が一緒に入学しまして、2



和氣政雄

年次編入が60名位、1年次入学が、500名位の計560名ほどでした。1965年に琉球政府立になるまで学部とは名ばかりの布令大学でした。個人的なことでよく覚えているのは、一番やりたくなかった学生会長に祭り上げられたんですよ。初代学生会長は金城正夫君だったんですが、その金城君が米留学に行ってしまったため、皆に押されて引き受けるはめになったんです。当時、副学長だった安里源秀先生にも御相談したんですが、「君、いいからやりなさい」と言われました。

学生会自治会の発足

金城

富永さん、学生会の発足についていかがですか。



富永

1950年に開学した当時、私は宮古の高等学校を卒業して、那覇港に入港しました。そこからは首里まで見渡せるほど焼け野原で建物も数えるほどしかなかったです。私たちは大学に大きな期待を持ってきたわけですが、琉大の本館の講堂でコンクリートの地べたに座り、開学の話聞いたときは大学とはこんなものなのかと感じたことを覚えています。私は寮に入ったのですが当時はコンセットの寮で、食堂の食事も毎日三食団子でした。学用品は米軍からもらい、机などは自分で作りました。



富永元順

さて、当時宮古や八重山、奄美などから学生が数多く来ていましたから、地域毎の学生会ができました。それから私たち宮古の学生会が中心となって学生会自治会を作ったんです。船越尚美さん、東江さん、西銘さん、松村さん、中島さん達に相談して学生会を作ろうということになり、初代会長には年上でもあり、人格的にも素晴らしい金城正夫さんになってもらいました。そして二代目会長が和気さんというわけです。

学生会としての仕事としては、大学側に対して当時の新聞部、家政部、弁論部や宗教部など各サークル活動を援助するための予算を要求して、各サークルに配分するなどしていました。

学生会としての仕事としては、大学側に対して当時の新聞部、家政部、弁論部や宗教部など各サークル活動を援助するための予算を要求して、各サークルに配分するなどしていました。

当時は、文部省の契約学生という枠があって、琉球大学に入学しても本土の大学へ受験して編入したり、米留学したりしていましたので、「植民地大学」だとか「予備校大学」とかいわれました。それで「このまま他の大学に流出していくと琉大はどうなるのか」ということで学生会で、琉球大学の将来について討論会なども開催しました。

和気

私が学生会長になったとたん、大学改革運動が起こりましたね。

金城

当時は学生会とっていったんですか。5月22日の開学式典にはご出席されたのですか。どういう状況だったんでしょうか。

和気

本館の二階に全員集まって、そのままコンクリートの床に座ってやりましたよ。椅子もなければ机もない。そんな状況でした。

募集要綱と大学生生活

金城

それでは最近まで大学にもいらっしゃった安次富先生いかがですか。

安次富

ここに、大学には残っていない1950年の琉球大学学生募集要項を持ってきました。この私の琉大資料は全て図書館にマイクロフィルムで保存されています。これによると、最初に募集のあった学部は文学部、

理学部、商学部の三学部です。私は、高校を卒業後、米



安次富長昭

国軍政府の情報教育部に勤めていたんですが、琉球大学が開学するということをきいて、募集要項を見てみると文学部の中に芸術というのがあり、20名募集しているんです。まあ、

受けてみるかという軽い気持ちで受けたんです。余談ですが、募集要項の備考欄に芸術は今年度は美術専攻のみを募集と書いてあるんですが、現在ニューヨークの国連本部で活躍している仲地政夫君は要項をちゃんと見ないで、芸術とあるから音楽もあるだろうと、入学してみたらその年は音楽はない。彼はそれまで美術などやったことがないが、いつも僕の隣で一緒に絵を描いていました。合格者はそれぞれの地域で人数の割り当てがあったんですが、奄美などは3名少ない1人の入学者でした。当時は学校から3マイル以内でないものは、寮に入るようになっていましたから私も寮に入りました。大学に入学して分かったんですが、寮や校舎は建物だけで、机や椅子もなく最初の半年間は備品ばかり作っていました。寮などまるで捕虜收容所のようなものでした。その頃、志喜屋学長は学生と一緒に木を植えていましたから、「緑男」と言われていました。芸術科の授業では、イーゼルも石膏像もないですから米軍が捨てていった水筒などを机においてデッサンしていました。

金城

先ほどのお話しの中で、募集要項では三学部ということでしたが、10周年記念誌の年表によると開学当初は六学部となっているんですが・・・。

安次富

入学後に六学部になったんです。募集要項では三学部でした。

和気

六学部になったのは1951年ですよ。

安次富

開学して数年はまるで予備校みたいで契約学生(本土留学)やら、米国留学などで出ていった者も多かったです。私達の芸術科も入学した時は14名だったのですが、卒業した者はその半分でした。実を言うと、私も二年のとき契約学生の試験に受かっていたんですよ。ところが、どういうわけか合格発表を見ると、違う専攻に配置されていたんです。それで沖縄を飛び出して違う専攻に行くかどうかで悩みましたが、結局琉大に残って美術をやることを決心しました。最初の頃は琉大を腰掛け程度に考えていましたから、現在の大学のように発展するとは、その当時は誰も考えていませんでした。

様々な学歴の学生

金城

それでは大城さんお願いします。

大城

当時の琉大は、文教や外語、戦前の専門学校、あるいは戦前の帝国大学を卒業していない人、そして兵隊だった人や、高校から来た人など年齢の違う様々な人々で構成されていました。よく覚えているんですが、私は寮では和気さんの隣の隣ぐらいいました。それで私は高校からきたので薄っぺらの教科書しか持ってなかったんです。和気さんは帝大の分厚い教科書を持っていらっしゃっていたんですよ。そこで私は大変なところに来たな、という感じでした。その

くらい学歴の違い、学生が一緒に入学してきていたんですよ。最初は米軍政府立ということで物資もいろいろと支給されたり、学校に行っても、多くのミシガン州立大学の先生がいらっしやるんです。だから授業も英語で教えていたんですよ。私などは聞き取れないものだから、同じ学生の中から通訳の役割をしている人がいましたので助かりました。



大城盛三

二年の英文科の学生が交替で通訳をやりました。

和気

二年の英文科の学生が交替で通訳をやりました。

大城

そういう変わった授業でしたね。それで英語が好きになって一生懸命勉強しましたね。

和気

私も通訳をさせられていたんですが、米人教官が話す民主主義の内容をどうやって訳そうかいろいろ苦労しました。

大城

現在では考えられませんが、当時は琉大が契約学生の試験の会場になっていて、その試験の日は、琉大生は休みなんです。それが普通の状態でした。契約学生に試験場を提供することを異常だという意識がなかったんです。そういう事が周りから「予備校大学」などといわれる悪評を聞いても当たり前だと思っていたのです。

47都道府県のうちで戦前、大学がなかったのはおそらく沖縄だけでした。それで入学する前、私の出身地である久志からは4名琉大に受かったんですが、村長が合格者を集めて、オリエンテーションみたい

なものをやったんです。でも村長や先輩の方々も大学など行ったことが無いので、ただ勉強しなさいよとしか言われなかったですよ。沖縄には大学がなかった。ですから戦後琉大ができたということは注目されることです。エポック・メイキングのことでした。

当時のアルバイト

富永

草創期の琉大は、六学部設置されておりましたが、当時の琉大の教授たちは満足な研究資料もなく、学生を満足させるような講座は開かれなかったんです。つまり大学に行っても自分の取りたい授業が無い、つまり体制が不十分だったんです。

それと当時の米軍関係の仕事は、朝鮮戦争やベトナム戦争が起こった頃でもあったため、労務者不足だったからでしょうが琉大にも軍関係でアルバイトするものが多かった。軍作業は日当もいいし、なにより夜食に白いご飯にありつけたのが嬉しかった。しかしバイトとはいえ戦争に加担したことになるのかと思うと反省しきりです。

安次富

当時、美術の授業は首里城址にごろごろ転がっていた龍柱の破片などを拾ってきて米軍払い下げの印画紙の裏にデッサンしたりしていました。学校で作業をして、うちに帰っても友達とアルバイトに行く。当時私の友人の友寄英一郎君(後に琉大教授・故人)はHBT服(米軍の作業服)ばかり着ていたのが、本当に琉大の学生なのか、とよく聞かれていましたね。芸術科では、婦人連合会の展示物を作ったり、本土から芸能人などが来ると舞台装置などを一手に引き受けました。そういう仕事を一つ引き受けると、一年以上の学費になりましたから、母親に仕送りまでして

いました。今の学生とは完全に逆ですね。今になってみればそういうアルバイトで培った技術が今日の私の専門分野に役立っています。

全学挙げての学生運動

金城

当時は生活することが、勉強だったわけですね。比嘉会長の頃は大学自体落ち着いてきていたんでしょうか。

比嘉会長

私は1952年に琉球大学社会科学部政治学および法学専攻に入学し、一年留学しましたので1957年に



比嘉正幸

卒業しました。当時の学校は会報20号の表紙の写真の通りです。当時あった志喜屋図書館は、宝くじを販売し、その収益金で建設するというので、那覇の街で宝くじを売って歩いたことを覚えています。それ

と志喜屋図書館に関しては、在学中に火災に遭ったことをよく覚えています。完成して二年後だったと思います。

授業の内容として覚えているのは、当時の先生方は大学を卒業したばかりの先生方が多かったんです。法律の専攻では教授はいらっしゃらなかったと思います。助手が講義を持っていらしゃったので学生大会で問題になりましたね。それで助手は講義を持つなということで抗議に行ったことを覚えています。私は学生会の副会長を2年から3年にかけてやっていました。学生会の活動は、予算の配分や、助手は講義を持つなといった学内の問題が主でした。それで

当時は、当歳辺りに菓子屋で夜食のパンを一つ買って、夜中まで審議していました。その頃まではのどかで良かったんですが、その後、私が副会長在任中、米軍による土地の強制収用の問題、いわゆる「島ぐるみ闘争」が伊江島の強制接収で幕を開けました。伊江島の住民が那覇に出てきて座り込みをしているのを見た学生会ではカンパをし、集めたお金を伊江島に届けたことを覚えています。伊江島には私が団長としていき、伊江島では住民のみなさんに涙ながらに迎えられました。それで学生会として土地問題に積極的に取り組むことになり、土地問題対策委員会、四原則貫徹県民会議に積極的に参加しました。その頃10万人から15万人が参加した最も大きな県民大会が那覇高校であって、その時は全学挙げてデモに参加しました。初めてのデモだったんですが、届け出に行った首里警察署では署長をはじめ皆さんに書類の書き方を教えてもらいましたし、デモ当日は国際通りの道端にテーブルがあって飲み物等をデモ隊に振る舞ってくれました。本当に全島挙げての大会という印象があって、感動しました。しかし、後日民政府からデモに参加した学生に圧力が加かって、7名が処分(内6名が退学)されました。ただ当時副学長だった仲宗根政善先生らが、尽力してその6名を非公式に本土の大学に転学させたのです。民政府の目があったので表立っては大学は何もできなかったんですが、実際には、退学させた学生も大学側が面倒を見ていたんです。大学を存続させるために6名が犠牲になった格好になったようなものです。当時の学生運動は今と違って、全学挙げてという感じでした。

勉学面で最も感銘を受けたのは、招聘教授の制度

で琉大にいらっしやった、当時東大の助教授だった加藤一郎先生(後に東大学長)です。加藤先生は講義はもちろん良かったんですが、とても勉強になったのは調査にでかけたことです。先生の専門は農地法だったんですが、平安名島に行ったとき、島のお年寄りを集めて話を聞いたんです。島のお年寄りは、標準語と方言の入り交じった、聞き取りにくい話し方をするもので、私たちは面白くなくてすぐ逃げ出して、先生につまらないですねと言ったんです。ところが先生は、こんな貴重な話はなかなか聞けないとおっしゃって、夜中まで一生懸命聞き取りを続けるんです。学問とは、一流の学者とはこういうものなのかと感銘を受けました。それから当時、新民法が1957年4月に施行されるということだったので、私が所属していた法律研究クラブの数人で新民法の普及のために全島をまわって講演会を開きまし

た。講演会は大好評でした。

そのほか学生のころ忘れられない思い出としては、創立当時から続いていた本館で行われていたダンスパーティーをよく覚えています。ありがたいことにたいいていのダンスは踊れます。

アルバイトで覚えているのは選挙運動のアルバイトです。最初はポスター貼りだったんですが、ある時喋ってみろと言われて街頭演説をしたら、なかなかうまいじゃないかということになって、演説もしました。

富永

比嘉会長がおっしゃてられた、新民法の普及に琉大の学生が積極的に参加していたということは沖縄にとっても大学にとっても、大変重要なことでしたね。

以下会報22号に続く。



琉球大学

第22号

同窓会会報

平成12年3月15日



▲1961年 首里キャンパス卒業式(本館前)

目次

■開学50周年特別企画

- 募金協力のお願い…………… 2
- 写真で振り返る母校の50年…………… 3
- 歴代同窓会会長座談会・後編…………… 8

■森田孟進学長インタビュー…………… 14

■私の研究 (農学部附属農場助手 米盛重保)…………… 15

■恩師を訪ねて 元附属図書館長 瀬名波 榮喜…………… 16

■比嘉茂政県出納長インタビュー…………… 18

■寄稿

- 歴代総代が語る琉大の思い出…………… 19

■インフォメーション…………… 23

■事務局だより…………… 24

●平成11年度定期総会開催

●新旧学長就退任激励会

●琉球大学開学50周年記念茶会

●琉球大学開学50周年記念 基金造成チャリティー芸能祭

●支部及び各学科総会だより

写真で振り返る母校の50年

1950～1960年(昭25～35)



▲1955年頃の琉球大学(首里)



記念運動場での体育祭
角帽や学生服もみうけられる

主な出来事

- 昭和25年5月22日 ・英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の6学部1・2年次あわせて562人の学生、44人の職員で開学し、同日第1回入学式が挙行された。
- 昭和27年5月5日 ・琉球大学大島分校が設置(28.12.25奄美大島の本土復帰により廃校)
- 昭和28年3月20日 ・琉球大学第1回卒業式並びに修了式を挙行(卒業生26人、修了生74人)
- 昭和31年8月17日 ・学生処分発表

資料

授業料(年間)の推移

1955年	1,000円	1980年	144,000円
1960年	17ドル	1985年	252,000円
1965年	30ドル	1990年	339,600円
1970年	30ドル	1995年	447,600円
1975年	36,000円	2000年	478,000円

1961～1970年(昭36～45)



▲昭和38年「学而不厭」を揮毫する湯川秀樹博士



▲昭和45年8月1日琉大回窓会奨学金贈呈式

登校風景▶



◀ラボ室

主な出来事

昭和41年7月1日・琉球大学設置法及び琉球大学管理法により、本学は琉球政府立大学となった。
 ・短期大学部(英語科、法政科、経済科、商科、機械科、電気科、夜間・3年課程)を併設(§42.4.1短期大学部学生受入れ)

資料

留学生数

学部学生	23名
大学院生	107
学部研究生	41
科目等履修生	65
その他	8
合計	244

主な出身国

中国	94名
マレーシア	17
バングラデシュ	17
台湾	15
韓国	14
インドネシア	12

1971～1980年(昭46～55)



▲土木ビル占拠事件。機動隊、守礼門裏に待機。

▶女子寮内部



◀大学祭(現在は琉大祭)



▲昭和55年3月19日合格発表

主な出来事

昭和47年5月15日・沖縄の本土復帰により、琉球大学および同短期大学部は、国に移管され国立大学となり、琉球大学附属病院は、琉球大学保健学部附属病院となった。

昭和50年12月18日・農学部附属農場造成工事の着工をもって移転整備工事を開始。

10月1日・国立学校設置法の一部改正により医学部を設置(s56.4.1医学科学生受入れ)。

資料

学生数 (男女別)	資料		合計
	男	女	
1955年	1120	365	1485
1960年	1619	614	2233
1965年	1885	935	2820
1970年	2304	1338	3642
1975年	2759	1144	3903
1980年	3423	944	4367
1985年	3793	1243	5036
1990年	4391	1676	6067
1995年	4631	2656	7287
2000年	4595	2991	7586

1981～1990年(昭56～平2)



▲授業風景



主な出来事

昭和56年4月1日・教育学部附属小学校併置設置される。
 昭和59年4月11日・教育学部附属中学校併置設置される。
 昭和60年11月2日・移転完了記念祝賀会が行われる。

資料

敷地面積

1966年
首里キャンパス
37,344坪

2000年
上原キャンパス
41,333坪

2000年
千原キャンパス
341,590坪

1991～2000年(平3～12)



▲同窓会の援助等で完成した首里の杜



▲ガジュマル等も繁り緑が多くなった中央広場



▶教育学部から「附属図書館(全生)」「共通教育棟(旧教養部)」を望む



▶法学部前庭

1991～2000年(平3～12)



▲生協、中央食堂



▲球陽橋と農学部を望む



▲留学生親善交流会にて



附属病院(手前)と医学部(奥)▶

主な出来事

平成3年4月1日・農学部5学科から3学科に改組され、学科の名称から「農」の字が消える。

平成8年9月30日・短期大学部が廃止され、入学定員は主に法文学部、工学部夜間主コースに吸収される。

平成10年4月9日・留学生センター設置される。

資料

附属図書館蔵書数

1959年	70,355冊	1985年	429,510冊
1960年	76,968	1990年	678,644
1970年	164,494	1995年	801,304
1975年	193,084	2000年	900,054
1980年	306,969		

母校の50周年にあたって

～歴代同窓会会長座談会～ 後編

座談会 参加者

和気政雄（初代同窓会長）、富永元順（2、4代目会長）、安次富長昭（5代目会長）
大城盛三（6代目会長）、比嘉正幸（現同窓会長）、金城幸秀（同窓会事務局次長；司会）
場所：八汐荘（平成11年3月発行会報21号より続く）

金城

次に「私と琉球大学」ということでお願いします。
和気さんどうぞ。

和気



和気政雄

ちょうど卒業の時期に、当時の教務部長だった中山盛茂先生に呼ばれて南方連絡事務所で採用するから、明日来るようにと言われ、6ヶ月間は月給はそれで我慢しなさい、と言われたのですが、6ヶ月間

は長くて親に申し訳ないのでお断りします、と言ったのです。それで学校に残れと言われたのですが、当時の琉大は布令大学と言われるような状況でしたから、復帰運動ができない、当時、平良辰雄さんが知事になったのですが、大学に残っては復帰運動ができない、その前からその運動の重要性を知っていました。残るよりは大学から飛び出して、当時の高校生が40歳前後になって運動の中核になる20年後に復帰するために、高等学校に教諭になったのです。人には月給が高いからだと言われましたが、本当の理由は復帰運動だったのです。先ほどの土地強制収用の時も同窓会として名前は使われ、学生の処分の際に抗議に行きたかったのですが、私自身は立場上何もできなかったのです。

金城

では富永さんお願いします。

富永

私は社会学部に入学したのですが、当時の琉大は

大学とはいえ、法律関係の講師、講義も満足のいくものではなかった。これじゃあ大学で法律の勉強をしてきたとは言えない。それで、学生だった私たち個人で、戦前から法曹として活躍しておられた、安里



富永元順

積千代さんや、仲井間宗一さん、伊礼肇さん、松島朝永さん、知念朝功さんらの家を訪ねて行って琉大の講師になってくださいとお願いに行きまして講座を広げていったのです。それから私たちは4年で卒業していくわけですが、卒業する前の年に奄美大島が日本に復帰して、神縄の官公庁や、大手企業に勤めていた奄美出身の方々が奄美に帰って行ったのです。それで私たちが卒業する前から、今でいう青田買いというか、いわゆる引く手あまたの状況でした。それで官公庁や、大手企業に卒業前から勤めている学生が多かったのです。赤嶺義信さんから「君は裁判所に行け」と言われ、裁判所に行くことになったのです。

私は裁判所に調査官として入所したのですが、卒業して2年目、当時真喜屋実男さんという方が裁判官で、仲井間さんが首席判事の頃でした。このお二人に呼ばれて「君、神縄の法曹資格の申請をしたまえ」と言われました。当時は布告12号というものがり、その中に法曹の資格についての規定があり「公認の法律学校を卒業して、2年間実務を経験した者は、法曹資格を付与する」とあったのです。ところが申請はしたのですが、当時の試験委員会は、琉球大学

を公認の法律学校として認めることをためらったのです。それでしばらく検討しているということでした。私は琉大に行って、当時の安里源秀副学長にそのいきさつを話すと「それは琉大の名誉に関わることだから」とおっしゃって、布告12号の条文の解釈を琉大で行い、大学名で文書にして民政府に提出することになったのです。(琉球列島を法域とする軍の布告であって、その中の条文の規定で表現されるものは、当然に琉球列島内にあるものでなければなりません。当時琉球列島内には琉大以外はなかった。)民政府からの回答は「解釈の通りではあるが、その解釈を民政府として沖縄の法曹会に押し付けることは望ましくない。そこで本土からしかるべき人を招聘し、その人に検討してもらって認めてもらうはどうか」とありました。そこで大浜信泉さん、愛知大学の入江啓一郎さんのお二人が文部省の推薦で民政府のお客さんとしていらっしゃったのです。お二人は滞在した2週間のあいだに琉球大学を視察し、「琉球大学は法律学校である」との判断を下し、そのことが新聞に出たのです。それで沖縄の法曹会試験委員会は断る理由が無くなったため、しばらくして私は法曹資格を付与されました。そして裁判官に任官しました。

金城

それでは安次富さんお願いします。

安次富

私と琉大の関わりは、まず1949年、創立の前年です。当時、全琉の高校で琉球大学を創設して欲しいということで、募金運動が起こりました。私は知念高校で自治会長(生徒会長)を務めており、また南部地区の高校連合会の会長もしておりましたので、高校生を代表して知念高校の近くにあった琉球列島米軍政府、軍政府にミード文教部長やディーフェ

ンダーファーさんを訪ねて、集めた募金を手渡ししました。その時ミードさんが軍政府の車を連れて私たちを首里城跡まで案内してくれました。「ここに琉球大学を造るつもりだ」と言われた。あの時目に焼きついた首里城の無惨な廃墟の姿が強く印象に残っています。

1954年琉球大学を卒業したとき、私は琉球米国民政府の情報教育部の展示課で、今でいうデザイナーを募集していることが新聞に載っていると友人から聞かされ、その展示課を訪ねてみたら、それは琉大の構内にありました。琉球放送の前身である「AKAR」ラジオ放送局の2階が展示課だったのです。私は以前米軍政府の展示課にいましたので、すぐ採用されました。デザイナーは5人いましたが、大卒ということで、主任となり高給取りになりました。そこに4年間おりましたが、1958年、琉大美術工芸科で立体デザインの担当者が必要ということで誘いがあって、自分の好きな美術の勉強ができるということで大学に移りました。給料は半分に減りました。それから琉大に38年間勤めました。あとになって考えてみると、私は1950年入学以来、1996年に退官するまでの46年間、ずっと琉大内にいたことになります。ですから琉大の歴史を内からこの目で全て見てきたことになります。

金城

大城さんお願いします。

大城

私は英文科を卒業したわけですが、英文科は他の



安次富長昭

学部に比べて、先生方については恵まれていたと思います。安里源秀先生をはじめ、呉屋朝實先生、照屋彰義先生、平良文太郎先生など大家がいらっしやいましたし、アメリカ招聘教授がたくさんいました。

卒業後は教員が少なかったので私は那覇商業高校に行きましたが、中には駐留軍に行く人達も多かった。というのも当時、軍は高給でしたし、軍の仕事から米国留学もできたからです。ですから軍に行く人達はディキヤー（優秀者）が多かったです。

戦後、琉大ができて大きく変わったことといえば、琉大の卒業生が本土の国立、私立を問わず大学で教授になっている人が非常に増えている。戦前とは比べものになりません。これは大変意義深いものだと思います。

私たちが卒業した頃はもちろん先輩などいないのですが、当時琉大の卒業生に対して「アブレ」という言葉が陰でささやかれていました。「琉大の卒業生は標準語も喋れない、あいさつもできない、礼儀作法もしらないアブレだからな」と言われたのです。戦後派という意味でしょう、非常に不満でした。現在は死語になっています。今ではそういう事はなくなって、官公庁や大企業、教育現場でも琉大卒業生が多くなっています。隔世の感がしますね。

それから最近の琉大では修士課程が増えていますね。大学の評価は修士課程をみなさないと云われています。そういう意味でも琉大は発展していきまじ、私自身誇りに思っています。

金城

それでは比嘉会長、お願いします。

比嘉

先ほど富永さんからもありましたが、私が卒業した1957年当時は、琉大を卒業しても法曹資格を与えられない、あるいは司法試験の一次試験は普通の大学を卒業すると免除されるんですが、琉大ではそれが認められない。このように厳しい状況でしたが、さしあたって私が一番困ったことは、公務員試験に受かって採用されない。というのは、富永さんの



大城盛三

卒業した頃は引く手あまたの状況だったそうですが、私の頃は本土の大学で卒業してきた人たちが沖縄に帰って来た頃で、私は在学中に試験に受かり、採用通知も在学中にきていたのですが、卒業するとそれがこないんです。つまり本土から帰って来た学生を試験して採用した後で、琉大生にまわってくるという状況だったからです。先ほど法曹資格の件でもそうですが、琉球大学を差別していたのは当時の先輩方だったのです。今でこそ、琉大の先生方は顔が広いですが、当時の若い琉大の先生などが官公庁をまわって何とか採用してくれとお願いしても、誰も知らないから相手にされない。私は卒業してスタート時点から琉大卒ということはいやな思いをしました。



比嘉正幸

その後、裁判官になって刑事事件では、琉大生が被告になる事件が増えた時期がありました。私は内ゲバで殴り合った事件を担当しましたが、当時被告が暴れるということで法廷の後ろに機動隊を配

置させることが多かったのです。私は学生を信頼して配置させなかったのですが、ある日たまたま夏休みか何かで多くの学生が傍聴していて、学生が暴れだし、裁判所職員が怪我をしたことがあります。その裁判の中で、私はなんとか学生を理解しようと思いい、普通の裁判では事件以外の事を聞くことはありえないですが、言いたいことがあれば言いなさい、と言って喋らせてみたのですが、まったく理解できない。とても哀しい思いをしました。執行猶予をつけた学生が学寮で殺されるということもありました。まさに執行猶予をつけたことが仇になってしまったのです。その頃は、自分の後輩である琉大の学生に幻滅し、哀しい思いもしました。

民事事件では、内閣総理大臣を相手に起こった軍用地訴訟では、学生時代の島ぐるみ闘争のことが意見陳述でよく話されました。また教室内で内ゲバを起し、全く関係ない人が殺された事件があり、殺された学生の両親が原告で国（琉大）を相手に賠償を求めたことがありました。結局、大学当局に責任が

ないという判決をしたのですが、非常にやりきれない気持ちになりました。私たちの学生時代は貧しかったけれど、お互いが暴力を振るうなど考えられなかったですから、非常に暗く嫌な思いをしました。

その後、裁判官を辞めた後、今から12～3年前に非常勤講師として民事法を教えました。我々が学生の頃は、学内に講師が少なかったものですから、招聘教授や、学外から著名な先生を招いての講義が多かったです。それでそういう先生方の家にも積極的に押しかけていって交流を深め、それは卒業後もずっと続いたのです。そういうことがあったものですから、大学に講師として戻ったとき、学生にこちらから話しかけたりしたのですが、今の学生は、講義が終わるとさっさと帰ってしまうので、私たちの頃のような交流はなかったです。非常に残念な気もしました。

金城

60年安保の期限切れを前に、昭和43(1968)年、全国的に学生紛争が起こり、琉大においても、外部の学生セレクトの影響などもあって、キャンパスが荒れた時期もあった。大学のこのような変遷の中で感じたことを、和気さんお願いします。

和気

大学が創立50年を迎え、このように立派になり、最初の頃は苦労しましたが、今ではどこに行っても琉球大学出身です、と言えるようになりました。これはうれしいところです。しかし、他の歴史のある大学に比べると、まだまだ足りないことがあると思います。例えば名誉教授の皆さんが大学を退官した後、ご自分の研究を続けて行ける施設が無い。まだまだ改善できると思います。それから、大学の役割として、社会を啓蒙していく役割、つまり、社会教育ですね。その点では、知事になった大田昌秀先生

は沖縄の本当のことを言って、日本政府、米政府からにらまれました。これからの琉大ひいては沖縄全体が正しいことをどんどん述べていける環境を創っていただきたいです。また、アメリカの大学を出てきて、修士号を取ってくる方が最も多いのは琉大じゃないですか。そういう事からも、声を大にして、沖縄の地域を開拓していく役割を大学側に要望したいですね。

金城

近年、大学も行政改革の波が押し寄せ、社会の大学に対する見方も厳しくなっています。平成3年の大学審議会の答申が出まして、社会が移り変わる時期になっており、国際化、情報化が進む中、大学も社会の要求に敏感になってきております。そういう観点からもありましたら、富永さんからお願いします。

富永

琉球大学は現在、日本の最南端の大学であり、亜熱帯地域に根差した、医学、農業、芸術文化、自然科学の研究機関であり、その研究成果を社会に還元していく役割を担っています。琉大はその方向に向け発展していると感じていますが、これからもそうであってほしいと思います。それから、先ほどの比嘉会長のお話の中にあつたように、かつて学生の身分でありながら、民法の講義を開き、社会に貢献したよい先例もありますので、現在の学生ももっと積極的に社会に貢献していけるように努力してもらいたいと思います。

大城

第一点目に、国家公務員上級試験の合格者を沢山輩出していただきたい。私が同窓会の会長のときにも寄付などしてなんとか支援してきました。これからもその努力をし続けてほしいと思います。

二点目に最近の言葉に“Interdisciplinary”があります。「学際的な、多くの学問分野が重なる」という意味です。つまり英語を教えるときには、英語（言語）だけでは不十分なので、歴史学、社会学なども教える。各分野の重なる部分を教えていかなければならないという考え方です。そういうシステムを今後の大学改革の中で実現してもらいたい。これは“Deregulation”つまり「規制緩和」と両立すると思いますので是非実現していただきたい。

三点目に、小・中・高校・大学と日本の教育制度は、選択肢が少ない。必須科目が多すぎて、生徒・学生側からの選択ができない。これからは、アメリカに習って、生徒・学生が自分で学びたい科目を選択できるように、専門科目の選択肢を増やしてもらいたい。このことは大学内でも議論されていると思いますが、私の経験から、よい大学はすでに実践しています。これは、財政的にも、制度的にも難しい問題を抱えていると思いますが、取り組まなければ、国際的な大学としては遅れる事と思います。

現在、国を挙げて教育改革を唱えているから、そんなに時間はかからないといえます。そういう改革をするには地域も教授方もアメリカの影響を大きく受けている琉球大学は、やりやすいのではないかと考えています。アメリカの大学は、招聘教授制度が充実しているんです。ですから、アメリカの著名な教授の講義が聞きたければハワイ大学へ行けばいいんです。ハワイ大学の講座は非常に充実しています。私も驚くような授業の仕方をする先生がハワイ大学に招かれているんです。日本の大学とアメリカの大学の決定的な違いは、例えば視聴覚の三単位の授業を日本では一人の先生が受け持つのが普通ですが、アメリカでは多数の先生方が受け持つんです。まさにその道のプロが講義するといった感じで

す。このやり方は非常に金がかかります、つまり日本では教育に金がかかっていないということになると思います。しかしこれからは、こういう事がカラー、伝統になるような大学が必要です。琉球大学ならこれができると思います。

金城

琉球大学が草創のときに定められた理念の中には「人々への奉仕と沖縄文化の復興」というのがあります。現在は「真・公・和」といって、「真」は真理の探究、「公」は公に奉仕する、「和」は平和を希求すると変わってきています。今日でも、地域に根ざした特色ある大学に変わりはありません。しかし、急激な社会経済の進展に伴って、大学への多様な要望も比較にならないほど高まって参りました。このような歴史の流れの中で、大学に実際関わった「大学改革」について、安次富さんはどうですか。

安次富

国立大学は95校ありますが、琉球大学だけが創設の前身になる専門学校や旧制高校とのつながりがないのです。戦前沖縄には、沖縄師範学校がありましたが、それは琉大とは全く関係がありません。確かに琉大は米軍の布令でできた大学でしたが、何も無いところから新しくできたという意味で、「無」から「有」を生み出した大学といえると思います。琉大のもう一つの特徴としては、他の大学にあるような、いわゆる「学閥」がない。また、琉大には平等の精神があり、年功序列の意識がありません。これらは琉大の特徴であると思います。

今の学生に望みたいことは、恵まれた今日の状況に甘んずることなく、自分の足を使って勉強すること、自分の足元に学ぶべきものが沢山あるということ強調したいですね。余談になりますが、私がニューヨークに留学していたとき、国連で開かれたバ

ーティーでのことです。会場に入って沖縄からの留学生たちの名札を見ると、国名が“Ryukyu islands”となっている。どうしてだと聞くと「私たちはずっと以前からこうです」という返事でした。“Japan”がないのかと思うと、本土の大学出身の学生たちが“Japan”でした。本土の学生よりも我が同胞たちが堂々と外国人と接している。話している内容は沖縄の幽霊話でしたが、彼等の姿は非常に立派で、誇らしかったです。今日では国際的にも堂々としている学生が育っています。ここに1951年の琉球大学便覧がありますが、その序文は、「本学は日本のものでもなく米国のものでもない……」と始まっています。この理念をもっと大事にしてもらいたいと願っています。

大城

スカラシップファンドの使い方についてですが、結論から言うと、現在はどこに行っても、一般に何をやったかが判らないという事では困るのです。アメリカではあり得ないです。ある人は3ヶ月で打ち切り、ある人は一生それを続ける、そういうふうな金の使い方をした方がいいと思います。

金城

現在、琉大は個々の教職員の社会活動や学生達の活動全部を把握しているわけではないのです。今後は大学総体としてどのように社会に貢献しているか把握する必要があると思います。

それでは比嘉会長、締めくくりをお願いします。

比嘉

先ほど申し上げましたが、私が卒業するときいろいろ差別的な処遇を受けましたが、当時、唯一の試験とも言うべき琉球政府公務員試験の合格率は圧倒的に琉大が高かった。しかし、現在、日本に誇れる大学となりましたが、反面、資格試験、就職試験、

教員採用試験の合格率が非常に落ちているそうです。県内の他の私立大学よりもなお悪いという事もあるようです。これは学生側の問題が一番ですが、大学側もこういう試験に通るように力を入れていくべきだと思います。国立だから難しいということも聞きます。国家公務員上級試験（文系）の合格者が一人もいないということで、先生が自ら私財を投げうって学生達を指導していると聞いて、同窓会も援助したのです。しかしこういう事は一部の先生が個人的にやるのではなく、大学としてなんらかの支援があってよいのではないかと思います。例えば大学の教室を提供するとか、資格試験のための資料を揃えるとか方法はいくらでもあると思います。就職にしても我々の時代と違って、各界に先輩がいるのですから、例えば民間の会社の先輩を呼んで職場紹介などもしてもらえれば、学生の就職の判断材料になるはずで、ですから先輩方をもっと有効に活用していくべきだと思います。

現在の学生に望むことですが、人間関係、師弟関係などが希薄になってきているような気がします。大学自体が大きくなって昔のようにはいれないと思いますが、せめてゼミなどの小さい単位でも交流を深めることによって同世代間の交流だけでなく、師弟関係を含めた異世代間でも交流を深め、人間関係を大事にできる人になってもらいたい。人間関係がうまくいかない人は社会人としては通用しません。大学に在学する時期はそういう人格形成の場でもありますので、今の学生も積極的に師弟関係、学生間の交流などの人間関係を大事にするということを意識してほしいと思います。

金城

現在、琉球大学は大変な発展を遂げ、学生、教官、職員、キャンパスも大きくなりました。しかし草創の頃、学生自ら先生を探した先輩方の学習意欲や、「無」から「有」を創りだした熱意、師弟関係、学生間の交流などは、琉大に在職している私達にも、今日の琉大が学ぶべきことがたくさんあります。

本年50周年を迎えるに当たって、同窓会をあげて、更なる琉球大学の発展を希望したいと思います。本日はどうもありがとうございました。



琉球大学

第23号

同窓会会報

平成 13 年 3 月 20 日



1950年首里城跡にて開学。2000年5月22日、50周年記念式典が千原キャンパスで挙行された。
内外の来賓参列のもと式辞を述べる森田孟道学長。

目次

■ごあいさつ	2	■音楽を通じた国際交流	8
■募金活動報告とお礼	3	■東西南北	
■開学50周年記念事業	5	生涯の友	9
●記念事業計算書	5	■私の研究	
●募金状況総括表	5	妻と姉妹—沖縄家族像の一側面—	10
●チャリティイベント募金活動	5	■恩師を訪ねて	12
●記念式典並びに祝賀会	6	■職場訪問	
●記念事業募金推進本部総会		沖縄市役所	14
並びに感謝状贈呈式	6	■事務局だより	17
●呉屋秀信氏へ名誉博士号授与	7	■ネットワークインフォメーション	21
●芸能大祭典	7	■役員一覧表	22

ごあいさつ

皆様方には新世紀の新春をお迎えになり、つつがなくお過ごしのことと存じます。

琉球大学は昨年5月22日にめでたく開学50周年を祝うことができました。50周年記念事業のため、同窓会も琉球大学後援財団、大学と共に募金活動を行いました。このたびの募金はことのほか厳しい経済情勢の下で行われたにもかかわらず、皆様の絶大なご協力と県民の琉大への期待もあり、多大な成果を上げることができました。

ここに衷心より厚く御礼申し上げます。

募金に際しましては募金をいただいた皆様をはじめ、評議員、募金推進員、協力員、また各支部の皆様にも、同窓会の募金組織として特別に協力をお願いした方々にもお世話になりました。

同窓生の数が多く、また地域も広範囲に及ぶため、郵送だけでは連絡できず困難を極め、学校、団体、企業などの各職場、自宅まで訪問していただきましたが、その際交通費などの支給もなく、文字通り手弁当で活動して下さいました。また、チャリティの各種イベント（ゴルフ大会、お茶会、ボウリング大会、芸能祭、コンサート）にはボランティアでの参画と幅広い多くの方々のご協力をいただきました。皆様からの多額のご芳志は、去る9月27日「琉球大学開学50周年記念事業推進本部」の総会で決算報告を行い、大学への寄付金贈呈を行うことができました。改めて感謝の意を表する次第です。

今後は、募金趣意書に掲げられたモニュメント（記念会館）の建設をはじめ、各種記念事業が円滑に実施されることを念じております。

なお、これを機に同窓会活動がますます盛んになることを期待するとともに、今年も変わらぬご協力を切にお願い申し上げます。

皆様のご健勝と母校の限りない発展を心からお祈り申し上げます。

平成13年1月

同窓会 会長	比嘉 正幸	副会長	石原 昌弘	
	副会長	知念 績一	副会長	宜保 美恵子
	副会長	金城 名輝	副会長	喜屋武 盛基



募金活動報告とお礼

記念事業募金推進本部
同窓会部会 会長 岸本 金三

初春を迎え皆様には益々ご健勝のことと存じます。

琉球大学開学50周年記念事業のため募金活動に携わった者として、一言お礼とお詫びを申し上げます。

このたびの募金は、開学50周年の記念すべき節目にあたり、記念事業の成功を期して同窓生ばかりでなく、県内企業、県内外の方々にご理解とご協力をお願いして参りました。

募金活動組織と致しましては、大学、後援財団、同窓会の三者で記念事業募金推進本部（本部長呉屋秀信、副本部長 森田孟進、同 比嘉正幸）をつくり、本部の下に同窓会部会が置かれました。同窓会長、副会長、評議員という通常の組織に追加拡充し、募金のための組織として拡大委員会を立ち上げ、拡大委員、協力委員として多数の同窓生を委嘱しました。

拡大委員会では地域を北部、中部、南部、那覇浦添A、那覇浦添B、宮古、八重山の7地区と関東、関西、奄美の各支部に分け、それぞれの地域内で学校、県、市町村、企業などの職場で働く同窓生に協力を呼びかける一方、住所、所在地の判明している同窓生に対しては趣意書の発送、さらに直接訪問するなど募金協力を重ねてお願いしました。

また、募金活動に携わった同窓生の皆様には、夏の暑い日の困難にもめげず、手弁当、ボランティアで積極的に活動していただきました。

仕事を持つ現役の方達には、それぞれの仕事にも影響したのではと、懸念するほどのご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

ことほどに、懸命な努力をしたつもりですが、いかんせん結果は納得のいくものではありませんでした。部会長として、猛省し関係者に対し心からお詫び申し上げます。

弁解がましく申し訳ありませんが、大きな理由の一つ挙げるとすれば、時期的にタイミングに恵まれなかったように思います。

不景気のさなか、サミットが行われました。サミット関係の募金、小、中、高校や、施設等の周年事業募金等が数多く同時期にバッティングしたように思います。

「金は天下の回りもの」といいますが、今度ばかりは「お金が流動性を失ったのでは」と思うほど募金状況は厳しいものでした。同時に募金活動の困難さを改めて認識した次第です。

そんな中、後援財団がご担当した県内企業関係では、この度の不景気にもかかわらず、かなりの募金を行い全体の募金額を押し上げて下さいました。企業部門の協力が悪かつ

たらどうなっていたらと、肝を冷やした次第です。

呉屋本部長ご自身が多額のご芳志を申し出た上に、陣頭指揮で精力的に各企業への協力を呼びかけた成果でありました。同窓生の一員として心から敬意を表するものです。

50年で4万数千人の同窓生を輩出しています。しかしながら募金に応じたのは、およそ4,900人、あまりの少なさに驚いています。およそ12,000人は住所、所在が判明していて、趣意書もむろん送付しましたし、二度、三度同一人に趣意書を発送した例もあるなど、事務局を中心に懸命な努力を払ったのですが結果は残念というほかに言葉がありません。

今回の記念事業の大きな柱は、記念会館の建設であります。しかし募金額が少なく、構想した記念会館の建設にはとても手が届きません。でも、何とかしたいというご熱意から、大学がかねて計画していた大学の施設と記念会館を合体させ、合築という形で、国から予算がもらえないものかと、目下呉屋財団理事長、森田学長、比嘉同窓会長、宇田琉大事務局長の諸氏が鋭意知恵を絞っているところであります。ぜひ実現していただきたく祈るばかりです。

苦勞の多かった今回の募金活動で心を和ませてくれたのは、地元マスコミの好意的報道で世論盛り上げに効果があったこと。

同窓生主催による数多くのイベントを実施して募金に寄与したことなどであります。

ボウリング大会、お茶会、チャリティーゴルフ大会2回、芸能祭2回、コンサート等々です。各イベントの協力者に対し改めて御礼申し上げます。

特に商学科（商友会）の皆さん、上原健一会長、幹事役高嶺善包氏等の活動には特筆するべきものがありました。また津留健二先生、尚弘子先生やスタッフの皆様にも大変お世話になりました。

イベントは実施のプロセスで「人の和と環」を醸してくれるものと考えます。同窓生の連携、そして絆を強め深め得たものと信じます。ありがとうございました。なお大学事務局職員、財団の新垣正順常務他事務局職員、同窓会の事務局職員にもご無理をお願いしました。誠にありがとうございました。

ともあれ、皆様から寄せられたご芳志で、われらが母校琉大の発展にいささかなりとも寄与すれば同窓生としてこの上ない喜びであります。

おわりに、21世紀に母校琉大が個性豊かな学府として、地域社会のため、アジアのため、全人類のために旺盛な学究で、益々発展し拓かれることを期待し、併せて同窓会の充実、会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたします。

開学 50 周年記念事業

記念事業費計算書

平成12年12月29日現在(単位 円)

収入の部	
寄付金収入	265,408,245
利息収入	605,858
計	266,014,103

支出の部	
募金事務関係経費	13,883,909
記念グッズ制作費	1,027,897
記念式典祝賀行事等	4,083,640
産官学サミット会議	1,406,350
記念講演会等	2,199,846
50年史、写真集	8,274,000
地域還元「出前講座」	292,818
計	31,168,460

残額	
(収入－支出)	234,845,643

募金残額の執行計画	
モニュメント建設	134,845,643
琉球大学後援財団	100,000,000
(内国際交流推進経費)	(20,000,000)
計	234,845,643

募金状況総括表

平成12年12月29日現在

項目	人	募金額(円)
一般篤志家	26	3,548,000
医師会会員	181	4,235,000
歯科医師会会員	22	200,000
企業法人	489	135,958,180
同窓生	4,922	65,123,333
在学生父母	1,986	14,948,732
琉大元職員	312	13,090,000
琉大職員	839	28,305,000
合計	8,777	265,408,245

チャリティイベント募金活動

平成10年9月18日	ボウリング大会	18万円
平成11年2月1日	第1回ゴルフ大会	80万円
平成11年11月21日	お茶会	40万円
平成11年12月15日	芸能祭	150万円
平成12年2月7日	第2回ゴルフ大会	118万円
平成12年4月7日	コンサート	170万円
平成12年11月19日	芸能の大祭典	200万円
	計	776万円

(寄付金収入に含まれている)

(平成 12 年 6 月現在)

琉球大学同窓会役員・支部・事務局・一覧表

役職	氏名	卒業(期・年・学科)			
会長	比嘉 正幸	5	32	法政	
副会長	石原 昌弘	1	28	教育	
	知念 績一	3	30	生物	
	宜保 美恵子	5	32	家政	
	金城 名輝	7	34	経済	
	喜屋武 盛基	9	36	情報工学	
顧問	和気 政雄	1	28	英文	
	富永 元順	2	29	政治	
	市村 嘉久	2	29	政治	
	安次富 長昭	2	29	美術工芸	
	大城 盛三	2	29	英文	
監査員	金城 謙介	10	37	経済	
	上原 健一	11	38	商学	
	幸地 啓子	23	50	商学	
評議員	森田 恒勝	2	29	経済	
	宮国 義夫	3	30	法政	
	平良 善一	3	30	英文	
	友寄 賢吉	4	31	美術工芸	
	津留 健二	4	31	法政	
	中野 清光	5	32	法政	
	玉城 健三	5	32	法政	
	高山 朝光	6	33	社会及び経済	
	喜納 安武	6	33	英文	
	比嘉 清一	7	34	経済	
	岸本 金三	7	34	経済	
	宇垣 和美	7	34	初等教育	
	大宜見 良子	7	34	音楽	
	*玉城 忠	7	34	体育	
	赤嶺 健治	8	35	英文	
上原 政英	8	35	畜産		
嘉手苺 喜郎	8	35	初等教育		
與儀 憲徳	8	35	英文		
*金城 龍生	8	35	史学		
宮城 武久	9	36	電気工学		
謝敷 正雄	9	36	教育		
東恩納 盛勝	10	37	教育		
金城 幸秀	10	37	農学		

個人情報保護のため職場・電話番号は削除しました。

役職	氏名	卒業(期・年・学科)				
評 議 員	真栄田 義勝	11	38	地理		
	城間 進	12	39	英文		
	羽地 朝義	12	39	経済		
	幸地 貞子	12	39	化学		
	儀保 博信	14	41	社会		
	竹越 堅哲	14	41	法政		
	山田 義浩	14	41	土木		
	*福里 重盛	14	41	化学		
	狩俣 信子	15	42	法政		
	志良堂 清治	15	42	商学		
	*金城 功	15	42	土木		
	*与那嶺 清子	16	43	経済		
	高嶺 善包	17	44	商学		
	*比嘉 弘政	18	45	林学		
	*有銘 やす子	18	45	保健		
	上地 弘	19	46	美術工芸		
	当山 尚幸	19	46	法政		
	*東条 正躬	19	46	国文		
	西大 八重子	20	47	家政		
	*安里 昌利	20	47	経済		
*松茂良 繁	20	47	法学			
*石川 清勇	20	47	商学			
上原 正信	20	48	農学			
*小湾 喜美雄	21	48	社会			
*大浜 順子	21	48	法政			
上原 修	31	58	社会			
*健山 正男	35	62	医学			
支 部	支 部	支 部 長		卒業(期・年・学科)		
	関東支部	渡久山 長輝		8	35	物理
	関西支部	成田 義光		2	29	英文
	奄美支部	山田 薫		2	29	教育・教養
	宮古支部	嵩原 安雄		3	30	教育
八重山支部	伊舎堂 用八		10	37	史学	
事 務 局	事務局長	玉城 健三		琉球大学同窓会事務局 〒903-0213 西原町字千原1番地 琉球大学内 電話:098-895-8039(直通)		
	名簿総括	友利 徹男				
	書記	與那城 政子				

個人情報保護のため職場・電話番号は削除しました。

*印は新任役員



琉球大学

第24号

同窓会会報

平成 14年 3月 20日



首里キャンパス中庭の樹木は、1959年・琉大10周年記念事業として、南・北大東村をはじめ各市町村からの献木である。樹木の1本1本に琉大を愛する地域の人々の熱い思いが託されている。（文責 高山朝光）

目次

■事務局だより ・ 平成13年度総会 …… 2	■退官恩師 …… 14
・ 第30回沖縄寮歌・大学の歌祭り…… 3	■シリーズ職場訪問 糸満市役所…… 15
■同窓会支部だより …… 4	■恩師をたずねて …… 19
■インタビュー 森田孟進琉大大学長に聞く … 6	■ご紹介します～留学生同窓会～ …… 20
■寄稿 国際協力にかけた私の半生 …… 7	■琉大プロレス同好会 …… 21
■インタビュー 前田孝允さんに聞く	■あの時 あの師 あの友…… 21
“県立芸大に漆芸コースを”…… 8	■琉大エコロジカル・キャンパス構想 …… 22
■歴代総代が語る琉大の思い出 …… 10	■学生サービス室における就職指導…… 23
■私の研究	■事務局からのお願い …… 24
南米移住調査のフィールドノートから … 12	

大学の足腰強化のため、同窓会との関係を深めたい

～2期目の森田孟進学長に聞く～

3月5日、任期満了に伴う学長選挙が行われ、森田孟進学長(65)が再選された。6月から2期目に入る学長に今後の大学改革や同窓会への期待などについて語ってもらった。

－再選されてのご感想を。

3年間の実績に対する評価だと受け止めている。この実績は多くの先生方、事務職員の方々からの全学的な協力の上にてできたものだ。

－これまでの大学運営を振り返って、印象に残ったことは。

この3年間の大きな出来事として大学の50周年事業があった。これは琉大が発展するための原動力となった。多くの方の浄財によって記念館の予算が獲得でき、後援財団の基金も増強することができた。記念事業への同窓会の協力でぜひ感謝したい。ミシガン州立大との新たな交流、そしてハワイ大との関係が強くなったことも事業の大きな成果だと思う。国際交流もこの3年間で大きく推進された。太平洋学長サミットの開催もあり、協定大学は18から37に増えた。

－50周年記念事業の一つである記念館建設の予定は。

本年度の第2次補正予算で研究者交流施設を建築することが決まり、記念館と合築することを検討している。場所は西原口近くの丘で、6月に着工、来年3月完成予定。記念館は同窓会事務局のほか、同窓生や退官後の先生方が集うような交流の場、同窓会活動の拠点として使っていただきたい。研究者交流施設は、アジア・太平洋地域など海外から短期間研究に来る人々が宿泊できる施設で、ホールなども造る計画だ。

－同窓会の役割についてどう考えますか。

米国の大学では、同窓会が大学の組織の中に入っており、卒業生はそれぞれできる範囲で寄付をして大学の教育・研究を支えている。今後は大学と同窓会が共にそのようなあり方を参考にしていかなければならない。現在、琉大同窓会は関東・大阪・奄美に支部があるが、山口・九州の支部をま



ず立ち上げたい。名簿の充実というのも大きな仕事で、大学のニュースを知らせてイベントに来ていただくことが大切になる。同窓会には大学に密接にかかわっていただき、財政的支援もお願いしたい。

－今後の抱負を。

今年が国立大学法人化問題への対応が重要課題だ。もうじき法人化の基本方針がまとまる。職員の身分、運営システムなどが変わるだろう。競争的環境の中で大学の個性化が求められる。今後は国際交流をさらに推進し、基礎的分野と地域に特化した分野を両輪にした研究、地域との連携などを進め、またハード面の充実や外部資金の導入など法人化を考慮に入れて足腰を鍛えておく必要がある。全国では大学の統合、または教育学部の改革など構造改革の波が押し寄せている。こういう時期だからこそ大学と同窓会が一体となることが大切。関係を深めていきたい。

(聞き手：高良利香)



琉球大学

第25号

同窓会会報

平成 15 年 3 月 31 日



文系総合研究棟

法文学部棟（左）と教育学部棟（右）の間に平成 14 年 11 月に完成した文系総合研究棟。1 階に法文学部事務室、3 階に教育学部院生研究室、4 階にマルチメディア学習室、5 階に法文学部院生研究室、6 階と 7 階に共同研究プロジェクトチームなどが入っている。

目次

■事務局だより・平成14年度総会・懇親会	2	■私の研究 ホタルから環境問題へ	14
・第31回沖縄祭歌・大学の歌祭り	4	■サークル紹介 琉球大学ハンドボール部	17
■同窓会支部だより	4	■シリーズ職場訪問 名護市役所	18
■寄稿 留学生から学ぼう	7	■インタビュー3	
■歴代総代が語る琉球大学の思い出④	9	那覇地方裁判所照屋所長に聞く	20
■インタビュー 沖縄銀行安里頭取に聞く	10	■同窓会役員名簿	22
■インタビュー2 山里琉大副学長語る	12	■お知らせ	24

(平成 14 年 6 月現在)

琉球大学同窓会役員・支部・事務局・一覧表

役職	氏名	卒業(期・年・学科)		
会長	比嘉 正幸	5	32	法政
副会長	金城 名輝	7	34	経済
	*赤嶺 健治	8	35	英文
	喜屋武 盛基	9	36	情報工学
	*高嶺 善包	17	44	商学
	*西大 八重子	20	47	家政
顧問	和気 政雄	1	28	英文
	富永 元順	2	29	政治
	市村 嘉久	2	29	政治
	安次富 長昭	2	29	美術工芸
	大城 盛三	2	29	英文
監査員	金城 謙介	10	37	経済
	上原 健一	11	38	商学
	幸地 啓子	23	50	商学
評議員	森田 恒勝	2	29	経済
	宮国 義夫	3	30	法政
	友寄 賢吉	4	31	美術工芸
	津留 健二	4	31	法政
	中野 清光	5	32	法政
	玉城 健三	5	32	法政
	高山 朝光	6	33	社会及び経済
	喜納 安武	6	33	英文
	比嘉 清一	7	34	経済
	岸本 金三	7	34	経済
	宇垣 和美	7	34	初等教育
	大宜見 良子	7	34	音楽
	玉城 忠	7	34	体育
	*松本 行雄	8	35	商学
	上原 政英	8	35	畜産
	嘉手苺 喜郎	8	35	初等教育
	與儀 憲徳	8	35	英文
	宮城 武久	9	36	電気工学
	東恩納 盛勝	10	37	教育
	員	金城 幸秀	10	37
*與那城 哲男		10	37	初等教育
*堀川 美智子		11	38	家政
羽地 朝義		12	39	経済

個人情報保護のため職場・電話番号は削除しました。

役職	氏名	卒業(期・年・学科)				
評 議 員	*大城 忠一	12	39	化学	個人情報保護のため職場・電話番号は削除しました。	
	*平川 進	12	39	英文		
	儀保 博信	14	41	社会		
	竹越 堅哲	14	41	法政		
	*幸喜 徳子	14	41	体育		
	狩俣 信子	15	42	法政		
	志良堂 清治	15	42	商学		
	金城 功	15	42	土木		
	*神谷 保江	15	42	生物		
	*上門 清春	15	42	生物		
	*宮里 博輝	15	42	地理		
	与那嶺 清子	16	43	経済		
	比嘉 弘政	18	45	林学		
	*比嘉 正治	18	45	短・法政		
	当山 尚幸	19	46	法政		
	*與座 博	19	46	短・商学		
	石川 清勇	20	47	商学		
	上原 正信	21	48	農学		
	小湾 喜美雄	21	48	社会		
	大浜 順子	21	48	法政		
*大城 稔	22	49	法政			
*謝花 勝一	27	54	法政			
*當銘 孝枝	30	57	化学			
上原 修	31	58	社会			
*大湾 知子	32	59	保健			
健山 正男	35	62	医学			
*名嘉村 盛和	37	平元	情報工			
支 部	支 部	支 部 長		卒業(期・年・学科)		
	関東支部	渡久山 長輝		8	35	物理
	関西支部	山城 賢孝		5	32	教育
	九州・山口支部	新川 和夫		24	51	理工・機械工
	奄美支部	山田 薫		2	29	教育・教養
	宮古支部	嵩原 安雄		3	30	教育
	八重山支部	伊舎堂 用八		10	37	史学
	留学生同窓会	マキシ・ランドル				
事 務 局	事務局長	喜納 安武		幹事		田仲 康克
	事務局次長兼企画部長	儀保 博信		書記		與那城 政子
	総務部長	比嘉 正治				
琉球大学同窓会事務局 〒903-0213 西原町字千原1番地 琉球大学内 電話:098-895-8039(直通)						

*印は新任役員



琉球大学

第26号

同窓会会報

平成16年3月31日



研究者交流施設・50周年記念館

琉球大学開学50周年を記念し、平成15年5月25日に開館しました。募金して集めた浄財を同窓会から建設費の一部として、寄贈しています。㊦2階、3階交流施設の宿泊室 ㊧1階は多目的室と琉大同窓会事務局室、2階多目的室

目次

- | | | | |
|-------------------|----|---------------|----|
| ■事務局だより | 2 | ■寄稿 上地安昭 | 12 |
| ■同窓会支部だより | 3 | ■サークル紹介 | |
| ■琉球大学の将来構想 (森田学長) | 5 | 琉球大学体操部 | 14 |
| ■インタビュー | | ■お知らせ・事務局だより | 15 |
| 法科大学院島袋鉄男室長 | 8 | ■琉大ウェア・Tシャツ完成 | 16 |
| ■私の研究 仲宗根幸男 | 10 | | |

琉球大学の将来構想

— 森田孟進学長の講演から —



平成15年7月19日、琉球大学の森田孟進学長が、ホテル西武オリオンで開催された琉球大学同窓会の平成15年度定期総会において、標記の演題で講演をされました。国立大学の法人化を目前にしての同講演は、まさに時宜を得たものでした。以下は、同講演の要旨です。

1 国立大学の法人化

琉球大学は、平成16年4月1日に「国立大学法人琉球大学」が設置する国立大学となり、運営組織が大きく変わる。最高決議機関は、現行では、学長、学部長などの学内代表者のみで構成される評議会であるが、法人化後は、学長と学外者を含む理事5人で構成される「役員会」になる。「役員会」は学長がそ

の長となっており、学長のリーダーシップのもとで、自律的な運営が確保される。新たに設置される「経営協議会」と「教育研究評議会」は、それぞれ経営面と教学面を審議し、両輪として「役員会」を支える。「経営協議会」は、委員の総数の半数以上が学外者でなければならない。同窓会からも委員が任命されるのは間違いない。「教育研究評議会」は、学長、理事、学部長など学内代表者のみで構成される現行の評議会に近い組織である。

2 競争原理の導入

これまでは「護送船団方式」といって、旧帝大をトップにすべての国立大学を、いわば家族のように長男、次男とランク付けをして予算が流されていた。今後は文科省が認可した6ヵ年の中期目標と中期計画の実現達成状況が第三者によって評価され、それに基づいて予算配分額が決められる。琉大は九州地区では、九州大、熊本大、長崎大、鹿児島大に続く高い順位にランクされてきたが、これからはすべての大学が同等の立場で競争することになる。予算面で特に重要なのは、世界的研究教育拠点形成のための国の重点的支援である「21世紀COEプログラム」補助金を獲得できるかどうかである（COE=Center of Excellence）。博士課程を持つ全

大学が競争する。平成15年度は、国公立大学56校（国立31校）に対して、158億円の補助金交付が決定している。琉大は、「地球温暖化の環境と対策」をテーマに、特に「珊瑚礁の白化現象」を「地域特性に根ざした研究」として提出した。その結果、書類審査を通過し、ヒヤリングまで行ったが、最終審査で落ち、2年連続で補助金が取れなかった。COEは個々の研究者が個人として特定分野で出すのではなく、グループによる複合分野の研究として推進しなければ通らない。

3 地域特性と国際性を併せ持つ大学

琉大は「地域特性と国際性を併せ持つ大学」をキャッチフレーズにしている。地域特性としては、亜熱帯農学、感染症医学、海洋科学、人文科学では沖縄の文化、言語、宗教、27年間の米国統治下の国際関係論などがある。国際性の面では、15、16世紀以来の中国やその他のアジア諸国との貿易や、中国、米国その他諸外国との異文化接触の長い歴史があり、沖縄県民の貴重な財産となっている。沖縄のみが持つ地域特性と国際性に根差した研究を深めることにより、琉大は「競争的環境の中で個性輝く大学」になれる。外国の大学との学術研究交流の実績と発展も琉大の個性として誇れるものである。

4 国際交流の推進

同窓会が集めた募金の一部も活用して、国際交流協定大学等を4年間で18校から40校に増やした。特にミシガン州立大学、ハワイ大学、東西センターなどとは、留学生交換、授業料

免除制度、名誉博士号の授与、共同シンポジウム開催、共同研究などの緊密な交流実績がある。またハワイ大学とは、法科大学院（ロースクール）の運営や太平洋地域における学術面のリーダーシップを担うための提携協力関係を結んでいる。留学生センターを中心とした日本語教育の強化により、中国、台湾、韓国などから日本語を学びに来る留学生が増えた。現在琉大は228人の留学生を受け入れている。太平洋島嶼国（マーシャル諸島、パラオ、パプア・ニューギニア、サモア、仏領ニューカレドニア、フィジー諸島、ミクロネシア連邦、トンガ）の8大学との学術交流が前中教審会長の根本二郎氏の支援で実現した。太平洋の島々には、必ず沖縄移民の子孫がいる。今後は、琉球大学を中心に、太平洋地域との農業分野まで広げた海洋の共同研究が活発に行われることになる。その将来性については、外務省、文科省も高く評価している。

5 外国語、特に英語による教育の推進

英語による授業は、日本人学生にとっても、留学生にとっても重要である。このことは「中期目標・中期計画」でも明示している。太平洋地域ではすべて英語で教育しているし、先日訪れたベトナムの大学の学長でさえ英語で話していた。アジア研究の論文でさえ、英語で書かないと世界的に認められない時代である。グローバリゼーションの進展に伴い、英語の重要性はますます高まる。将来、琉球大学では、授業の50%を英語で実施しようと考えている。

6 地域に根差した研究の活性化

熱帯生物圏研究センターの瀬底実験所の施設は世界的水準に達している。文科省が平成13年、14年の2年間で約10億円の予算を付けてくれたおかげで、海水と同じ環境で実験できる装置を整備することが出来た。遺伝子実験センターは、文科省が約9億円の予算を付けてくれたので、遺伝子、亜熱帯の感染症等の研究センターとして整備されている。競争的環境の中でも、今後期待できる分野の具体例である。西表の自然、地理、文化などに関わる研究も本来琉大が取り組むべき重要な分野である。

7 平成16年度から18年度にかけての目玉

まず、新たな法曹養成機関として平成16年4月1日に設置される予定の法科大学院が挙げられる。全国で国立20校を含む72校が設置認可申請をしている。11月に認可されるかどうか分かる。読売新聞は、「実務経験豊かな方々が来てくれる琉球大学が特に注目である」と書いていた。入学定員は30人、教員予定数19人には実務家が7人も含まれている。(編集者注：琉大の法科大学院設置申請は、その後、平成15年11月27日認可された。)

もう1つの目玉として、生産性に結びつけた海洋生産学部(入学定員50人)を、平成18年度を目指して設置する準備を進めている。

8 法人化と同窓会の役割

国立大学の法人化により、琉球大学の設置形態と運営組織形態が大きく変わることによ

り、同窓会は、米国の大学のアラムナイ・アソシエーション(同窓会)と同様に大変重要な役割を果たすことになる。この場を借りて、同窓会の皆様の一層の支援をお願いする。

(文責 琉球大学同窓会副会長 赤嶺健治)

(参考)

琉球大学の長期目標(平成16年4月～平成22年3月「中期目標・中期計画」より)

- ①世界水準の教育の質を保証し、21世紀の地球化に対応しうる大学を確立する。
- ②地球化に対応するため、国際語としての英語による授業を重視する。
- ③基礎研究を重視しつつ、沖縄の地域特性を踏まえた世界水準の研究を戦略的に推進し特化させる。
- ④地域及び国際社会に貢献し連携を推進するという建学以来の伝統を継承・発展させる。
- ⑤資源を戦略的に配分する知のコーポレーションとしての大学運営を実現する。

なお、詳細については、琉球大学ホームページ、文部科学省ホームページも参照されたい。





琉球大学

第27号

同窓会会報

平成17年1月5日



記念館シーサー設置

50周年記念館に設置した同窓会寄贈のシーサー（製作者 西村貞夫 琉球大学教授）

目次

■事務局だより	2	■私の趣味・研究	
■インタビュー		江戸幕府が残した負の遺産	
嘉敷 啓 副学長	8	山内昌尚	14
■職場訪問		■サークル紹介	
豊見城市役所	10	琉球大学法政エイサー	16
■一枚の写真から		■人事往来	
仲宗根弘明	11	田名内科クリニック院長 田名毅	17
■東西南北		創業ベンチャー企業を起こしてみ	
最近の活動から		奥キヌ子	18
国古眞正	12	■同窓会役員名簿	19
我が心のふるさと沖縄		■琉球芸能と西洋音楽のタベ	21
藤本眞也	13	■琉球大学同窓会創立50周年記念事業	23

役員・評議員一覧

(*印は新)

平成16年6月

役職	氏名	卒業(期・年・学科)		役職	氏名	卒業(期・年・学科)		
会長	比嘉正幸	5	32	法政	宮城武久	9	36	電気工学
副会長	津留健二*	4	31	法政	仲門勇市*	9	36	法政
	玉城忠*	7	34	体育	黒島善茂*	9	36	機械工学
	赤嶺健治	8	35	英文	東恩納盛勝	10	37	教育
	高嶺善包	17	44	商学	金城幸秀	10	37	農学
議長	西大八重子	20	47	家政	又吉宗敏*	11	38	電気工学
監査員	上原健一	11	38	商学	羽地朝義	12	39	経済
	外間正典*	16	43	経済	金城永真*	12	39	物理
	幸地啓子	23	50	商学	儀保博信	14	41	社会
顧問	和気政雄	1	28	英文	竹越堅哲	14	41	法政
	富永元順	2	29	政治	幸喜徳子	14	41	体育
	市村嘉久	2	29	政治	高嶺朝勇*	14	41	化学
	安次富長昭	2	29	美術工芸	狩俣信子	15	42	法政
評議員	大城盛三	2	29	英文	志良堂清治	15	42	商学
	森田恒勝	2	29	経済	大城朝憲*	16	38	史学
	富国義夫	3	30	法政	与那嶺清子	16	43	経済
	友寄賢吉	4	31	美術工芸	大城康正*	17	44	技術教育
	中野清光	5	32	法政	比嘉弘政	18	45	林学
	岸本一夫*	5	32	美術工芸	比嘉正治	18	45	短・法政
	高山朝光	6	33	社会及び経済	当山尚幸	19	46	法政
	宇地原徳淳*	6	33	体育	石川清勇	20	47	商学
	喜納安武	6	33	英文	上原正信	21	48	農学
	友利徹男*	6	33	生物	玉城優*	21	48	経済
	當銘吉雄*	7	34	経済	神谷米子*	21	48	家政
	比嘉清一	7	34	経済	与儀昌光*	22	49	地理
	岸本金三	7	34	経済	當間眞榮*	24	51	法文
	宇垣和美	7	34	初等教育	金城棟啓*	25	52	経済
	大宜見良子	7	34	音楽	金城功*	26	43	経済
	上原政英	8	35	畜産	小畑孝枝	30	57	化学
嘉千莉喜郎	8	35	初等教育	上原修	31	58	社会	
與儀憲徳	8	35	英文	大湾知子	32	59	保健	
喜屋武盛基*	9	36	電気工学	増田昌人	35	62	医学	

支部長及び事務局

支部	支部長	卒業(期・年・学科)		同窓会事務局	
関東支部	渡久山長輝	8	35	物理	事務局長 宮城武久
関西支部	山城賢孝	5	32	教育	事務局次長 儀保博信
九州・山口支部	新川和夫	24	51	機械工	総務部長 比嘉正治
奄美支部	山田薫	2	29	教育・教養	会計長 大村進
宮古支部	嵩原安雄	3	30	教育	情報処理 田仲康克
八重山支部	伊舎堂用八	10	37	史学	書記 與那城政子
留学生同窓会支部	マキシン・ランドル				

編集後記

記念誌部会は平成16年6月30日に第1回部会を開催し、ここまでの2年間で27回開催した。当初は、同窓会報の50周年記念号として発行し、全会員に送付を予定していたが、郵送料だけでも膨大な金額になるということもあり、役員会で『300部、300ページ、300万円以内』という大枠が決められた。50周年記念事業もほぼ終わり、記念誌発行のみとなった平成17年3月25日の記念誌部会では、編集要項として

1. 同窓会の歴史及び現在の活動を主体的に編集する。
 2. 特に現在の本部・各支部の活動を主に編集する。
 3. 写真及び寄稿を活用して編集する。
 4. 資料は、収録に正確を期して編集する。
 5. 写真編は、『写真で見る50年の歩み』として編集する。
 6. 創立50周年記念行事は、記念式典、祝賀会、講演会、芸術祭の行事内容を折り込み、式辞、挨拶、スナップ写真を活用して編集する。
- など確認し、編集作業に入った。

章ごとの主なる担当者を決め編集を進めた
第1章の『同窓会の沿革・活動経過』と第2章の『記念行事』は宮城事務局長と與那城事務局長がまとめた。

これまで、『学友』（昭和48年4月発行）と『琉球大学同窓会名簿』（昭和61年版）や学科同窓会記念誌の発行はあったが『記念誌』としての発行は初めてで資料整理に苦労した。

第3章の座談会は上原さん、仲門さん、儀保が主に担当した。予算が少ないということもあり、録音テープ起こしなど苦労した。記念誌発行の遅れで内容など時期を失した事もあったがお許しい

ただきたい。

4章の『写真で見る50年の歩み』は仲門さんと高嶺さんが担当した。

写真は琉球大学事務局、同窓会員、琉大生協などのご協力をいただきありがとうございました。同窓会の活動写真が少ないことが少々気になります。首里キャンパス時代の写真を整理しながら学生時代のことが脳裡をかすめて離れませんでした。写真は大学紹介が主ですが、会員の皆さんの良き思い出の証になれば幸いです。

5章の『母校への思い出 母校への期待』は友利さんがまとめた。最初は原稿が集まらず、評議員に特にお願いして30名の方々から母校への熱い思いなどがよせられて感謝致します。発行が遅れて、早々と寄稿していただいた会員にはご迷惑をお掛けしました。

6章の同窓会会報抜粋は儀保が担当した。同窓会報発行当初から上原さんと記念誌的性格を持たそうと考えて発行してきたので、同窓会報をそのまま資料として掲載しようと思いましたが、予算の都合で、主に表紙と座談会や役員名簿を抜粋しました。役員名簿は個人情報保護の関係で職場や電話番号は削除した。

お忙しい中、編集に携わっていただいた記念誌部会の皆さんありがとうございました。

この記念誌が同窓会発展の一助になれば幸いです。

平成18年6月

琉球大学同窓会創立50周年

記念誌部長 儀保 博信

記念誌編集委員

- 儀 保 博 信 (14期 社会)
友 寄 賢 吉 (4期 美術工芸)
友 利 徹 男 (6期 生物)
仲 門 勇 市 (9期 法政)
高 嶺 朝 勇 (14期 化学)
幸 喜 徳 子 (14期 体育)
上 原 修 (31期 社会)
玉 城 忠 (7期 体育)
宮 城 武 久 (9期 電気工学)



記念誌編集委員

琉球大学同窓会創立50周年記念誌

発行日 平成18年6月吉日
発行 琉球大学同窓会
〒903-0213
沖縄県西原町字千原1番地
TEL(098)895-8039 FAX(098)895-8163
ホームページURL
<http://www.ryudai-dousoukai.jp>
E-mail r-dousou@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

印刷 株式会社アシスト
〒901-1111
沖縄県島尻郡南風原町兼城577番地
TEL(098)889-6100
